

新潟市文化財センター年報

第2号

—平成25（2013）年度版—

2015

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報

第2号

—平成25（2013）年度版—



西区 四十石遺跡出土腰帯金具（SX71出土）

2015

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター

【設 置】

新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）は、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

【事 業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査等により出土した考古資料の収集及び保存並びに公開その他の活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る700か所以上の遺跡が知られています。平成17（2005）年の14市町村の広域合併後の各種開発事業等の増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどり、新たに発見される遺跡も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月にオープンしました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設されており、併せて市指定文化財の旧武田家住宅を移築復元しています。



新潟市文化財センター外観

例 言

- ・本書は、文化財センター及び文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財担当（以下「埋蔵文化財担当」）で実施した埋蔵文化財に係る平成25年度の業務年報である。Ⅰに新潟市の埋蔵文化財行政の概要、Ⅱに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、Ⅲに文化財センター業務年報、Ⅳに史跡古津八幡山遺跡歴史の広場業務年報、Ⅴに資料紹介や研究ノート等の研究活動について収録している。
- ・『新潟市文化財センター年報』は平成25年から刊行され、本書は第2号にあたる。文化財センター開館までの新潟市（以下「本市」）の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第1号に記載されている。
- ・本書は文化財センター・埋蔵文化財担当職員が中心になり、分担執筆した。執筆者の氏名は各文章の末尾に記載した。なお、全体の統一をはかるために内容が変わらない範囲で編集者が若干の字句の修正を行った。
- ・本書に記載されている施設名及び肩書き等については、本書刊行当時のものである。
- ・Ⅱ2、Ⅲ2の試掘・確認調査、本発掘調査、工事立会は主要なもののみを掲載した。
- ・Ⅱ2、Ⅲ2の各概要及びⅤ4・5の図1「調査位置図」は、国土基本図（10,000分の1）を使用しており、縮尺は10,000分の1、地図の上位が北である。Ⅱ2（11）の図6についても同様な基準で地図を掲載したが、縮尺は5,000分の1である。
- ・図・表番号は、各章ごとに1から付けている。しかし、Ⅱ2、Ⅲ2は概要ごとに、Ⅴは節ごとに番号がついている。
- ・掲載遺物の実測・トレース等は文化財センターで行った。
- ・本書の編集は金田拓也が主に行い、八藤後智人・渡邊朋和が補佐した。

目 次

Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
Ⅱ 開発事前審査	2
1 事前審査内容	2
2 平成25年度の前審査に係る試掘・確認調査の概要	7
Ⅲ 文化財センターの事業	36
1 本発掘調査の概要	36
2 平成25年度の本発掘調査	37
3 整理作業の概要	46
4 資料の収蔵・保管	47
5 資料の公開・活用	48
6 教育普及活動	49
7 保存処理	54
8 決算額	55
Ⅳ 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場	56
1 史跡古津八幡山遺跡保存整備活用事業の概要	56
2 教育普及活動	58
3 古津八幡山古墳復元整備の概要	59
Ⅴ 研究活動－資料報告・研究ノート等－	60
1 佐渡近海発見の弥生土器	60
2 海揚がりの須恵器2点	61
3 新潟市秋葉区舟戸遺跡出土遺物	62
4 新潟市秋葉区塩辛遺跡工事立会出土遺物	66
5 新潟市北区正尺C遺跡出土の土師器鉢	67
6 新潟市江南区砂崩遺跡の縄文時代遺物－神林慎一氏採集資料から－	68
7 アスファルト精製実験について	73
8 平成26年度古津八幡山遺跡における古代米及び畑作物の栽培実験について	75
引用・参考文献	77

I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について

概要 本市では「文化財に関する事項」は、市長部局の歴史文化課が補助執行することとされている。文化財行政のうち埋蔵文化財行政については、埋蔵文化財担当及び平成23年7月に教育機関として開館した文化財センター（西区木場）が所管している。

事務分掌としては、開発事前審査、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を埋蔵文化財担当が、本発掘調査、保存処理、収蔵保管、展示活用、史跡古津八幡山遺跡の史跡整備と活用・管理等を文化財センターが行っている。

開発事前審査 開発事前審査では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、『新潟市試掘確認調査基準』（平成19年4月1日）に基づいて試掘・確認調査の可否を判断している。また、本市は平成19年4月1日より政令指定都市となったため、『文化財保護法』第93条及び第96条に基づく事務については、新潟市教育委員会（以下「市教委」）が『新潟市埋蔵文化財取扱要綱』（平成19年4月1日）に基づいて『文化財保護法』に伴う指示を行っている。

本発掘調査 本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して、「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。また、本市が原因者の場合は関係各部署からの依頼を受託し、同様に実施している。

平成25年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業に係る事業費は表1の通りである。内容に本発掘調査と表示されているものが、今年度本発掘調査を実施した事業であり、事業費には調査費の他に整理作業費が一部含まれている。また、本発掘調査の表示がないものは、前年度以前に本発掘調査が行われた事業であり、整理作業費や報告書を刊行したものについては報告書刊行費が含まれている。

1㎡あたりの発掘調査単価（決算額／調査面積）平均は、21,608円と、例年と比べてそれほど変わらない。

埋蔵文化財・史跡 新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が724か所（平成26年3月31日時点）存在する。平成25年度は、試掘調査による新発見遺跡が5か所ある。今後とも試掘調査等による増加が見込まれる。

史跡は、国指定史跡が3か所、県指定史跡が2か所、市指定史跡が18か所ある（表2）。国指定史跡については、古津八幡山遺跡において、平成25年度から古津八幡山古墳復元整備工事が進められている。詳細は、Vで記載されている。

国・県指定史跡については、史跡に指定された後に、地域振興のためにどのように活用していくかが、課題と

いえる。活用の一例として、古津八幡山古墳復元整備のために行われた確認調査の成果を基にシンポジウムを開催した。また、文化財センターでは平成26年度から企画展を行っており、記念すべき第1回に県史跡の的場遺跡及び緒立遺跡をテーマとして取り上げている。このように、今後も史跡を活用した取り組みも必要といえる。市指定史跡については、指定されている史跡の件数が各区によって偏りがある。新潟市で重要な遺跡とは市内の地域の歴史を語る遺跡と考えられるため、各地域での視点も視野に入れた指定及び保存・活用が今後必要になってくる可能性もある。（金田拓也）

表1 平成25年度新潟市本発掘調査・整理作業事業費一覧

調査番号	原因者	事業名	遺跡名	内容	事業費(円)	調査面積(㎡)	㎡単価(円)	担当
2013001	民間	小規模緊急発掘調査事業	小丸山東遺跡	本発掘調査整理作業	1,030,000	116.1	8,872	遠藤恭雄
2013002	新潟市	大沢谷内遺跡発掘調査事業	大沢谷内遺跡	本発掘調査整理作業	66,500,000	2,128.0	31,250	相田泰臣
2013003	新潟市	峰岡上町遺跡発掘調査事業	峰岡上町遺跡	本発掘調査整理作業	40,500,000	2,084.4	19,467	前山精明
2013004	県農地	両新地区ほ場整備発掘調査事業	細池寺道上遺跡	本発掘調査整理作業 報告書刊行	69,355,730	2,814.6	24,641	立木宏明
2007005					-	-	立木宏明	
2008006								
2010003								
2011005								
2012006	西江蒲遺跡	3,644,270	-	-	立木宏明			
2012005								
2013005	県農地	道上地区ほ場整備発掘調査事業	下新田遺跡	本発掘調査整理作業	47,500,000	1,875.0	23,810	龍田優子
2013006						120.0		
2005002	県農地	満日地区ほ場整備発掘調査事業	神ノ羽遺跡	整理作業	27,000,000	-	-	遠藤恭雄
2006005								
2007004								
2008002								
2011002								
2012004	中谷内遺跡							
2011003								
2012003								
2012002	新潟市	峰岡城山遺跡発掘調査事業	峰岡上町遺跡	報告書刊行	343,350	-	-	立木宏明
2012007	新潟市	日本道跡発掘調査事業	日本道跡	報告書刊行	359,950	-	-	立木宏明
合計					256,229,300	9,220.1	-	-
平均					-	-	21,608	-

表2 新潟市内指定史跡一覧

国指定史跡			市指定史跡		
名称	指定年月日	所在地	名称	指定年月日	所在地
菖蒲塚古墳	S5.4.25	西蒲区竹野町2676	上城跡	S35.2.12	西蒲区竹野町1901番地外
旧新潟税関	S44.6.20 S56.2.19	中央区緑町3437	下城	S35.2.12	西蒲区竹野町2157番地外
古津八幡山遺跡	H17.7.14 H23.2.7	秋葉区金津・古津・蒲ヶ沢	館ノ腰	S36.3.16	西蒲区馬場（白山神社境内）
県指定史跡			巻館跡	S40.3.24 S57.3.26	西蒲区巻甲3104番地 西蒲区巻甲3028番地
天神山城址	S43.9.12	西蒲区石瀬・岩室温泉・間瀬	天神山城址	S43.9.12	西蒲区石瀬・岩室温泉・間瀬
的場遺跡	H6.3.29	西区の場流通1	松岳山城址	S43.9.12	西蒲区室温泉
緒立遺跡	H6.3.29	西区黒鳥字根湯・緒立流通2	切切遺跡	S48.3.30	西蒲区五之上
			間瀬鋼山跡	S49.6.1	西蒲区間瀬
			煮坪	S50.9.4	秋葉区草水町3-9551
			幸清水	S50.12.2	秋葉区秋葉1
			上ノ原遺跡	S51.3.9	西蒲区竹野町
			山谷古墳	S60.1.30	西蒲区福井
			東島城跡	S60.3.4	秋葉区東島字城ヶ平1043.5
			桜清水	S61.1.14	秋葉区中村148
			八幡山遺跡群	H5.1.20	秋葉区古津字八幡腰外
			ひさかき清水	H5.1.20	秋葉区田家1-4
			手掘石油井戸	H5.1.20	秋葉区田家字山割割7578
			馬場用水遺跡	H8.11.28	西蒲区馬場

II 開発事前審査

1 事前審査内容

(1) 開発事前審査

概要 周知化済み・未周知の別に関わらず、遺跡（埋蔵文化財包蔵地）を良好な状態で保存するためには、開発事業その他に伴う掘削で破壊されないよう十分な措置を講じなければならない。そのため、『文化財保護法』第93条及び第94条によって、事前の届出・通知が事業者には義務づけられている。実際の運用としては事業の計画段階から事前の試掘・確認調査の実施や、その結果に伴う事業設計の詳細な調整まで長期間を要することが多いため、可能な限り事前協議を早い段階から実施することが肝要といえる。そのため、本市では、土木工事など土地の掘削・改変を伴う事業について、公共・民間の別を問わず原則として全て事前審査を行い、必要なものについては把握次第事前協議の対象とし、埋蔵文化財の保護上必要な措置を講ずることとしている。

実際にはさまざまな形態の事業があるため、具体的な審査等の進め方は以下のとおりである。

公共事業 国・県機関の実施する土木事業等については、年に1度、新潟県教育庁文化行政課が一括して関係機関に照会し、データを所管の市町村に提供して、審査及び事業者との協議を依頼している。

国・県機関実施事業のうち、平成25年度の新潟市関連分は50件で、うち、①すでに取扱い中で方針が決まっているものが9件、②協議不要と判断されたものが31件（河川内の工事など）、③協議中で取扱い方針未定のものが6件、④新規事業で今後協議を必要と判断したものが4件であった。その後、③及び④の10件について、関係部署との協議を行い、取扱いを決定している。

まれに、市町村をまたぐ事業の中で、本市分のデータから漏れている場合がある。また、他の事業主体でも起こりうることだが、何らかの事情で事業が長期間停止状態になった後再開するような場合、担当者がすでに埋蔵文化財協議が終了していると錯誤し、報告を行わないということもあった。このようなことがないように、県教委に照会の際注意喚起を依頼している。さらに、年1度の照会であるため、年度途中で生起する小規模事業を拾いきれない場合があり、こうした事業をどのようにして把握するかが今後の課題である。

本市の実施する事業については、年度ごとに市内に一

斉照会をかけ、その回答をもとに協議している。

規模を問わず、原則すべての市事業を取捨するため、審査件数が千件単位と膨大になり、短期間での審査・協議が困難となっている。そのため、事業主体からも自発的に歴史文化課へ協議するよう折に触れ呼びかけを行っているところである。

民間事業 事業として最も数の多い建築事業については、建築主が建築確認申請を提出する際、本市独自の施策として「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その中の項目に「埋蔵文化財の有無」があることから、建築主はすべてこれを調べ、全ての案件について歴史文化課の窓口で照会して確認番号を取得するため、その時点で把握できる仕組みとなっている（なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。

開発行為については、『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出された後、歴史文化課を含む庁内関係各課に意見照会があり（各区の開発審査協議会設置要領に規定されている）、全ての案件について把握し、取扱い方針の決定と協議を行っている。

また、本市では多くの土木事業が農地で行われるため、事前に『農地法』に係る転用申請・届出が提出されることから、市内に6つ（北区・中央区・秋葉区・南区・西区・西蒲区）存在する農業委員会事務局に情報提供を依頼し、全件について審査のうえ取扱い方針を決定、必要なものについて申請代理人と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発等については、許認可事務を担当する庁内各課等と緊密に連携し、事前把握を行っている。

その他、不動産鑑定評価や土地売買検討時の事前調査に伴う照会も相当数にのぼっている。

しかし、試掘・確認調査を実施し、その結果により改めて計画変更協議を行うには日数が不足している場合が少なくないため、今後は各事業者が事前照会をより早い段階で自発的に行うよう促すための措置が必要である。

現在、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。

また、事前照会にあたっては窓口対応の他FAXを活用するなど、遠隔地の事業者の負担を少なくし、気軽に連絡を取れる工夫もしている。

平成25年度 平成25年度の協議実績の概要は以下のとおりである。

国・県事業の件数については先に触れたとおりである。国関係では取扱いが必要となったものはなかった。県関係では、圃場整備及び農道関係がほとんどであった。特に、秋葉区両新地区圃場整備が事業規模を含め大きな割合を占めている。他には、県立高校の改修にかかる事業が1件あり、試掘調査を実施することとなった(調査自体は平成26年度となる見込み)。

市事業の審査件数については、平成24年度の1,529件から691件と大幅な減となっているが、これはむしろ平成26年度に終了する合併建設計画関連事業分の一時的な増加が落ち着いたと見るべきであり、平成22年度の670件、23年度の625件と同様、通常の水準であったといえる。内訳としては、建設関係184件(26.6%)、水道関係157件(22.7%)、道路関係156件(22.6%)、下水道関係97件(14.0%)が主なものである。

民間事業に係る事前審査については表2に示した。平成24年度とほぼ同傾向であるが、件数は6,686件(平成24年度6,375件に比して4.9%増)と微増している。平成23年度から24年度への伸び(13%)よりはやや落ち着いたとみることができよう。

内訳をみると、開発行為は微減(65件から62件)、農地転用は微増(473件から511件)、建築確認申請に係る審査件数は微増(4,533件から4,742件)している。建築確認申請については、平成26年4月に施行された消費税増税前の駆け込み需要の余波が平成25年度に掛けて続いたためと推察される。

(2) 試掘確認調査

概要 事前審査・協議において、遺跡の有無を事前に把握する必要があると判断した箇所には試掘調査、すでに周知遺跡となっているが、その詳細な内容が不明な場合には確認調査を実施している。経費は国庫補助事業として全て市が負担している。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施しているが、まれに調査の実施を拒否される場合があり、対応に苦慮している。本市においては「開発指導要綱」に文化財保護についての規定がなく(「開発指導要綱」の技術基準には言及がある)、事前の試掘調査について理解を得にくい部分がある。今後、関係部署と協議のうえ、改善を図る必要がある。

平成25年度 表3・4のとおり、62件の試掘調査、37件の確認調査の計99件を実施した。平成24年度の件数と比較すると試掘調査が7件増、確認調査が17件減となっ

表1 平成25年度公共事業事前審査内訳

事業主体	件数
国	5
県	45
市	691
合計	741

表2 平成25年度民間事業事前審査内訳

区名	審査種別					審査・照会 件数	93条 届出
	開発行為	農地転用	建築確認	窓日照会	文書照会		
北区	1	1	388	498	2	890	13
東区	13	111	846	1,182	0	2,152	4
中央区	12	56	950	1,498	1	2,517	1
江南区	10	80	416	644	1	1,151	44
秋葉区	6	83	515	719	0	1,323	37
南区	4	76	294	428	0	802	3
西区	14	20	1,000	1,289	2	2,325	5
西蒲区	2	84	333	564	1	984	4
全市合計	62	511	4,742	6,822	7	12,144	111
遺跡に該当	5	25	112	183	0	325	-
試掘調査の協議をしたもの	11	20	-	546	0	577	-

※建築確認のみの案件(個人住宅など)については周知遺跡の範囲にかかるもののみ協議の対象としているため、原則として試掘調査は生じない

表3 平成25年度試掘調査・確認調査・工事立会件数

区名	調査内容	件数	埋蔵文化財		割合 (%)	区名	事業別試掘・確認調査件数	
			検出件数	割合			公・民	件数
北区	試掘調査	6	2	33.3	13	民間	13	
	確認調査	7	5	71.4			0	
	工事立会	5	1	20.0			9	
東区	試掘調査	8	1	12.5	9	民間	9	
	確認調査	1	1	100.0			0	
	工事立会	1	0	0.0			2	
中央区	試掘調査	6	3	50.0	6	民間	4	
	確認調査	0	0	0.0			2	
	工事立会	10	9	90.0			15	
江南区	試掘調査	10	2	20.0	19	民間	15	
	確認調査	9	8	88.9			4	
	工事立会	18	1	5.6			16	
秋葉区	試掘調査	8	1	12.5	20	民間	16	
	確認調査	12	6	50.0			4	
	工事立会	27	6	22.2			4	
南区	試掘調査	10	0	0.0	11	民間	10	
	確認調査	1	0	0.0			1	
	工事立会	1	0	0.0			7	
西区	試掘調査	5	0	0.0	8	民間	7	
	確認調査	3	1	33.3			1	
	工事立会	1	0	0.0			8	
西蒲区	試掘調査	9	1	11.1	13	民間	8	
	確認調査	4	1	25.0			5	
	工事立会	9	1	11.1			5	
合計	試掘調査	62	10	16.1	99	民間	82	
	確認調査	37	22	59.5			17	
	工事立会	72	18	25.0			17	

平成25年度経費(単位:千円)

調査等内容	経費
試掘調査	14,419
確認調査	7,217
管内踏査 (工事立会)	2,811

ている。確認調査が減少した原因としては、平成24年度は消費税増税の影響で古い民家(多くは丘陵地など遺跡の多い地域内)の建て替え需要が多かったものが、平成25年度に入って落ち着いたと推測される。

地域別の件数は、それほど顕著な差はないが、やはり市街地内の亀田砂丘に多くの遺跡がある江南区、同じく新津丘陵や埋没自然堤防があり、開発対象となることが多い秋葉区の調査件数が多くなる傾向が出ている。

(3) 工事立会

概要 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事等に対し、原則として事前の試掘・確認調査で遺跡の内容を十分把握したうえで、新潟県基準(平成11年9月10日付新潟県教育長通知 教文第578号「発掘調査の要否等の判断基準」)に従って実施している。

表4 平成25年度試掘・確認調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	開発種別		調査地	種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査期間	調査 日数	調査 面積 (㎡)	調査担当	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考
			事業者	内容												
2013104	-	試掘調査	民間	宅地造成	西浦区 鱈字浜道下 244番1 北西	-	-	-	5/1	1	9	鎌山えりか	なし	なし	取扱い不要	
2013105	正尺入道跡 291	確認調査	民間	倉庫	北区 葛塚字正尺 3071番3	遺物 包含地	古墳・平安 江戸後期	古墳・近世	4/22	1	15.3	朝岡政康	なし	土師器（古墳）、近世土師器 近世陶磁器・石製品・木製品	慎重工事	
2013106	(下郷南道跡) 758	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 横越中央四丁目 3986番1外	遺物 包含地	平安 鎌倉～室町 近世初頭	古代 中世・近世	4/30～ 6/12	12	199.04	朝岡政康	溝・井戸・土坑 ピット、性格不明遺構	土師器（古代）、中世土師器、青磁、白磁 珠洲焼、越前焼、北陸窯瓦器、近世陶磁器 政治関連遺物、粘土塊、石製品、木製品	工事立会	新発見遺跡
2013107	居平道跡 131	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 小口字居平 3701番1外	遺物 包含地	縄文	縄文	5/15	1	4.5	鎌山えりか	なし	縄文土器	工事立会	
2013108	中新田久保道跡 208	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 中新田字道下 484番3	遺物 包含地	平安	-	5/14	1	18.6	朝岡政康	なし	なし	慎重工事	
2013109	三王山道跡 419	確認調査	民間	個人住宅	江南区 所島一丁目 760番17	遺物 包含地	集落跡 平安・中世	平安・近世	5/17	1	12.3	朝岡政康	溝・土坑、ピット	土師器・須恵器（古代）、近世陶磁器	工事立会	
2013110	(近世新沼跡) 575	試掘調査	民間	集合住宅	中央区 学校町通1番町 522番	遺物 包含地	港町跡 近世	近世	5/23	1	16	朝岡政康	溝・井戸・土坑	近世陶磁器・木製品	取扱い不要	周知化せず
2013111	(新道道跡) 756	試掘調査	民間	葬祭場	西浦区 巻字新道甲 4121番1外	遺物 包含地	飛鳥～奈良	飛鳥～奈良	5/22・23	2	75	鎌山えりか	なし	土師器・黒色土器、須恵器（古代） 土製品	工事立会	
2013112	-	試掘調査	民間	事務所	南区 下庄字土居外 1158番1外	-	-	-	5/29	1	32	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013113	(山水戸付遺跡) 757	試掘調査	民間	長屋	東区 山水戸四丁目 376番1外	遺物 包含地	弥生後期 平安・中世	弥生・平安・中世	6/5・6	2	27	鎌山えりか	なし	弥生土器、須恵器（古代） 珠洲焼、近世陶磁器	工事立会	新発見遺跡
2013114	下西道跡 397	確認調査	民間	工場解体	江南区 早苗四丁目 255-1外	遺物 包含地	古墳	-	6/14・17	2	48	朝岡政康	なし	なし	工事立会	
2013115	-	試掘調査	民間	倉庫	西浦区 升岡字1番割 166-1外	-	-	-	5/8	1	22	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013116	正尺入道跡 291	確認調査	民間	個人住宅	北区 葛塚字正尺 4770番1外	遺物 包含地	古墳・平安 江戸後期	古墳・近世	6/20	1	18	朝岡政康	なし	土師器（古墳）、近世陶磁器	慎重工事	
2013117	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 元町三丁目 309番外	-	-	-	6/25	1	34.3	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013118	兎館跡 224	確認調査	民間	農作業場	南区 兎新田 810-1	遺物 包含地	城館跡 室町	不明	7/2	1	9.1	朝岡政康	溝	なし	慎重工事	
2013119	-	試掘調査	民間	診療所	西区 寺塚三丁目 1696-3外	-	-	-	7/3	1	16	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013120	-	試掘調査	民間	宅地造成	中央区 大島字居付 41-30外	-	-	近世	7/9	1	47.5	朝岡政康	なし	近世陶磁器	取扱い不要	
2013121	-	試掘調査	民間	駐車場	南区 西白根 51番1外	-	-	-	5/2	1	58.65	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013122	-	試掘調査	民間	集合住宅	南区 中塩佐字ツケ 85番地5	-	-	近世	6/4	1	10.84	鎌山えりか	なし	近世陶磁器・鉄製品	取扱い不要	
2013123	宮浦道跡 35	確認調査	民間	車庫	東区 河渡本町已 8133外	遺物 包含地	平安	平安	7/16	1	7.56	朝岡政康	ピット	土師器・須恵器	慎重工事	
2013124	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 亀田水道町 2662番外	-	-	近世	7/17	1	38.9	朝岡政康	井戸（近世）	近世陶磁器・鉄製品	取扱い不要	
2013125	田ノ浦道跡 428	確認調査	公共 (市)	市道建設	西浦区 西島 7382-2外	遺物 包含地	縄文中期	-	7/18	1	32	朝岡政康	なし	なし	慎重工事	
2013126	-	試掘調査	民間	宅地造成	東区 石山一丁目 1493番1外	-	-	近世	7/10	1	22.5	鎌山えりか	なし	近世陶磁器・石製品	取扱い不要	
2013127	沖ノ羽道跡 149	確認調査	公共 (県)	農道建設	秋葉区 満願寺外	遺物 包含地	集落跡 古墳前期後半 奈良・平安・中世	縄文	7/26	1	29.7	朝岡政康	なし	なし	慎重工事	
2013129	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 亀田町二丁目 2870番1外	-	-	-	7/29	1	33	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013130	-	試掘調査	民間	売買	東区 大山一丁目 6番10外	-	-	-	8/5	1	37	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013131	近世新沼跡 575	試掘調査	公共 (市)	駐輪場	東郷前通6番町 1061番地	遺物 包含地	港町跡 近世	近世	8/7	1	18	朝岡政康	なし	近世陶磁器・木製品	慎重工事	周知化 (東郷前通6番町 1061番地地点)
2013134	桜大門道跡 164	確認調査	民間	農業用倉庫	秋葉区 前崎字大和 167番外	遺物 包含地	平安	平安・中世・近世	7/22	1	9.16	朝岡政康	ピット	土師器・須恵器（平安） 珠洲焼、近世陶磁器	慎重工事	
2013135	-	試掘調査	民間	集合住宅 コンビニエンスストア	東区 寺山二丁目 1301-1外	-	-	-	7/31	1	40	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013136	-	試掘調査	民間	共同住宅	東区 中山三丁目 2021外	-	-	近世	8/8・26	2	55.5	朝岡政康	なし	近世陶磁器	取扱い不要	
2013138	(横井山道跡) 759	試掘調査	民間	介護施設	北区 横井字藤井山 361番1外	遺物 包含地	古代	古代・近世	7/19	1	36	鎌山えりか	なし	土師器（古代）、近世陶磁器 石製品・鉄製品	工事立会	新発見遺跡
2013142	日水南道跡 391	確認調査	民間	駐車場	江南区 日本一丁目 481外	遺物 包含地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安・室町	縄文 弥生～古墳 近世	6/17～26	19	151.06	鎌山えりか 経塚・土坑	縄文土器 弥生土器又は土師器（古墳） 近世陶磁器、一石径	工事立会		
2013144	-	試掘調査	民間	福祉施設	東区 大形本町五丁目 197-1外	-	-	近世	7/12	1	14.7	鎌山えりか	なし	近世陶磁器	取扱い不要	
2013145	笹山前道跡 7	確認調査	民間	個人住宅	江南区 笹山 197番1外	遺物 包含地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安	平安・近世	8/19	1	11.2	朝岡政康	なし	土師器・須恵器（古代） 近世陶磁器・土製品・鉄製品	工事立会	
2013146	-	試掘調査	民間	電気充填スタンド 灯油注油設備	南区 丹波 2224外	-	-	-	8/20・21	2	80.2	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013147	古津八幡山古墳 139	確認調査	公共 (市)	史跡整備	秋葉区 古津字八幡腰	遺物 包含地	古墳	弥生・古墳・近世	6/3～ 8/20	40	86	渡邊朝樹	土坑、溝共遺構 ピット、性格不明遺構	弥生土器・石器・石製品 近世陶磁器・瓦	史跡整備	
2013149	三角耕地道跡 755	確認調査	公共 (市)	公園造成	西浦区 横戸	遺物 包含地	飛鳥～奈良	-	8/20～23	4	13.5	鎌山えりか	なし	なし	工事立会	
2013150	神谷内道跡 4	確認調査	民間	個人住宅	北区 神谷内 206番地	遺物 包含地	製塩跡 奈良・平安	奈良～平安・近世	8/22	1	9	朝岡政康	なし	土師器（古代）、石製品 鉄製品、近世陶磁器	慎重工事	
2013151	正尺入道跡 291	確認調査	民間	集合住宅	北区 高塚 543-1外	遺物 包含地	古墳・平安 江戸後期	古墳・近世	8/29～ 9/13	3	42.9	朝岡政康	畦畔（古墳時代前期）	土師器（古墳）、近世陶磁器	慎重工事	
2013152	下郷南道跡 758	確認調査	民間	個人住宅	江南区 横越中央四丁目 3987番3	遺物 包含地	-	古代・中世・近世	8/28～29	2	18	鎌山えりか	ピット、性格不明遺構	土師器（古代）、中世土師器 近世陶磁器・石製品	工事立会	
2013153	万坊江道跡 542	確認調査	民間	個人住宅	西浦区 打越内 2327-1外	遺物 包含地	平安～中世	近世	9/19	1	7.5	鎌山えりか	なし	近世陶磁器	慎重工事	
2013154	-	試掘調査	公共 (市)	市有地売却	西区 板井字浦田 2892番地外	-	-	近世	12/26・ 27	2	54	鎌山えりか	なし	近世陶磁器	取扱い不要	
2013155	坂字道跡 134	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 朝日 112番6	遺物 包含地	弥生・古墳・奈良 平安・中世	弥生・古墳・古代	9/6	1	3.64	朝岡政康	なし	弥生土器・土師器（古墳） 製鉄関連遺物	慎重工事	
2013156	-	試掘調査	民間	ヘリポート	西区 寺地 3881外	-	-	-	9/9	1	44.57	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013157	-	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 田島字江端 111番外	-	-	-	9/12	1	27	鎌山えりか	なし	なし	取扱い不要	
2013160	-	試掘調査	民間	宅地造成	西浦区 巻乙 1888-3外	-	-	-	9/3・4	2	99	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013161	三王山道跡 419	確認調査	民間	個人住宅	江南区 所島一丁目乙 1番24外	遺物 包含地	集落跡 平安・中世	-	10/1	1	9	鎌山えりか	なし	青磁	慎重工事	
2013162	前山道跡 11	確認調査	民間	共同住宅	江南区 北山字前山 264番外	遺物 包含地	奈良・平安	奈良	10/8・9	2	42	鎌山えりか	なし	土師器（奈良）、石製品・鉄製品	工事立会	
2013163	-	試掘調査	民間	工場、事務所	西区 祖島 1450外	-	-	-	9/25・26	2	49	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	
2013164	-	試掘調査	民間	福祉施設	西浦区 大湯 198番地	-	-	-	9/27	1	24.25	朝岡政康	なし	なし	取扱い不要	

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	開発種別		調査地	種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査期間	調査 日数	調査 面積 (㎡)	調査担当	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考	
			事業者	内容													
2013165	-	試掘調査	民間	宅地造成	東区 中山七丁目 684番1号	-	-	-	9/30	1	48.13	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013166	(亀田六枚田遺跡) 760	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 曙町一丁目 707番外	遺物 包含地	古墳～奈良・平安	古墳～奈良 平安・近世	10/2～29	5	117.9	朝岡政康	なし	土師器・須恵器(古代) 近世陶磁器・石製品	工事立会	新発見遺跡	
2013168	大蔵遺跡 41	確認調査	民間	個人住宅	西区 赤塚字大蔵 2405番外	遺物 包含地	縄文・古墳 奈良・平安・鎌倉 南北朝・室町	-	10/8	1	10.85	朝岡政康	なし	なし	なし	慎重工事	
2013169	舟戸遺跡 132	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 古津字舟戸 1857号	遺物 包含地	集落跡	弥生・古墳 奈良・平安	近世	10/7	1	5.5	鎌山えりか	なし	近世陶磁器・石製品	慎重工事	
2013171	-	試掘調査	公共(市)	コミュニティ センター	西蒲区 角田浜 1815-1号	-	-	-	10/4	1	18	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要		
2013172	正尺B遺跡 265	確認調査	民間	南科医院	北区 葛塚 4745	遺物 包含地	弥生・古墳	古墳	10/9・10	2	22.71	朝岡政康	土坑状の落ち込み	土師器(古墳)・縄文土器	慎重工事		
2013173	(正尺B遺跡) 265	試掘調査	民間	宅地造成	北区 葛塚 4745	遺物 包含地	弥生・古墳	弥生・古墳	10/10～ 11/23	3	50.94	朝岡政康	なし	弥生土器・土師器(古墳)	慎重工事	範囲変更(拡大)	
2013174	新津城跡 146	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 山谷町三丁目 4631-7	散布地 城館跡	平安 南北朝・戦国	近世	11/16	1	9.9	鎌山えりか	なし	近世磁器	慎重工事		
2013175	-	試掘調査	公共(市)	県道建設	江南区 影山地区内外	-	-	-	11/11～ 15	5	290.3	朝岡政康	なし	土師器・須恵器(古代) 近世陶磁器・石製品	取扱不要		
2013176	細池寺道土遺跡 151	確認調査	公共(市)	市道建設	秋葉区 大安寺 693-3	集落跡	縄文・平安 鎌倉～室町	-	11/18～ 22	5	51.44	朝岡政康	土坑・溝・ピット	なし	なし	本調査	
2013177	-	試掘調査	公共(市)	市道建設	江南区 亀田大月一丁目外	-	-	-	12/20	1	26	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013178	-	試掘調査	民間	保育園	東区 大形本町六丁目 23番1号	-	-	-	6/11	1	27	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要		
2013179	八幡前遺跡 415	確認調査	民間	個人住宅	江南区 茅野江丁目 860-1号	遺物 包含地	弥生・平安	古代・近世	10/1	1	6	鎌山えりか	なし	土師器(古代)・近世陶磁器	厳重注意	無届着工	
2013180	前田遺跡 53	確認調査	民間	個人住宅	西区 赤塚字茶畑 1847番外	遺物 包含地	弥生・古墳 奈良・平安 南北朝・室町・江戸	近世	8/19	1	5.32	鎌山えりか	なし	不明土器・近世陶磁器 鉄製品	慎重工事		
2013182	-	試掘調査	民間	産廃施設	西区 小新字緒立 4190番1号	-	-	-	11/6～11	3	27	鎌山えりか	なし	鉄製品	取扱不要		
2013183	-	試掘調査	民間	工場	西蒲区 西堂地字入用 610番地外	-	-	-	11/13・ 14	2	36	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要		
2013184	結七島遺跡 209	確認調査	民間	宅地造成	秋葉区 福島字倉付 145号	集落跡	古墳・奈良・平安	近世	10/21	1	27	鎌山えりか	なし	近世陶磁器	慎重工事	追加確認	
2013185	-	試掘調査	公共(市)	市道建設	江南区 西野外	-	-	-	10/10～ 17	4	126	鎌山えりか	なし	近世陶磁器・石製品	取扱不要		
2013186	横井山遺跡 759	確認調査	民間	介護施設	北区 横井字藤井山 361番1号	遺物 包含地	古墳	近世	12/2	1	36	鎌山えりか	なし	近世陶磁器	工事立会	追加確認	
2013187	-	試掘調査	民間	宅地造成	南区 西白根字江内 1538番外	-	-	-	11/22	1	27	鎌山えりか	なし	なし	工事立会		
2013188	原遺跡 126	確認調査	民間	神社	秋葉区 程島 244	集落跡	縄文	縄文・近世	11/25・ 27	2	23.25	朝岡政康	ピット・埋設土器	縄文土器・石製品・近世陶磁器	工事立会		
2013189	-	試掘調査	民間	宅地造成	中央区 鳥居野一丁目 696番1号	-	-	-	12/3	1	38	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013190	(沢海遺跡) 761	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 中村字沢海 380番外	遺物 包含地	縄文	縄文・近世	6/13・14	2	30	鎌山えりか	なし	縄文土器・石器・近世陶磁器	工事立会	新発見遺跡 (平成26年度)	
2013191	-	試掘調査	公共(県)	圃場整備	西蒲区 原字ヒラキ 635-1号	-	-	-	10/22～ 24	3	99	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要		
2013192	-	試掘調査	公共(市)	市道建設	秋葉区 市立雑木内	-	-	-	11/1～ 12/10	3	21	鎌山えりか	なし	近世陶磁器・石製品	取扱不要		
2013193	-	試掘調査	民間	共同住宅	北区 葛塚下大口 348番2	-	-	-	10/31	1	9	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要		
2013194	-	試掘調査	民間	宅地造成	南区 七軒前 130番1	-	-	-	11/21	1	27	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要		
2013195	(近世新沼町跡) 575	試掘調査	公共(市)	駐輪場	中央区 古町通5番町 62	港町跡	-	近世	12/25	1	15	朝岡政康	なし	近世陶磁器	取扱不要	周知化せず	
2013196	-	試掘調査	公共(市)	市道建設	江南区 亀田大月一丁目外	-	-	-	10/30～ 11/1	3	70.3	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013197	-	試掘調査	民間	倉庫	秋葉区 新津山字谷南 4466-3号	-	-	-	12/10	1	22.8	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013198	-	試掘調査	民間	宅地造成	中央区 緑町 3437-5	-	-	-	12/11	1	26.3	朝岡政康	なし	近世陶磁器	取扱不要		
2013199	-	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 大岡 179号	-	-	-	12/12・ 13	2	65.7	鎌山えりか	ピット	なし	なし	取扱不要	
2013200	-	試掘調査	公共(市)	市有地売却	秋葉区 新津本町三丁目 3331番地内	-	-	-	12/17	1	27	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要		
2013201	上土地亀入遺跡 272	確認調査	民間	個人住宅	北区 川西三丁目 1841番地	遺物 包含地	古墳・平安	-	12/18	1	9	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事		
2013202	-	試掘調査	民間	事務所・倉庫	西蒲区 和納 1486-1	-	-	-	12/17	1	10	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013203	-	試掘調査	民間	福祉施設	北区 西名百所 4466-1号	-	-	-	12/19	1	19	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013204	-	試掘調査	公共(国)	高速道路建設	江南区 西野内外	-	-	-	10/15～ 12/13	13	563.7	小野本教	なし	なし	取扱不要		
2013205	-	試掘調査	公共(国)	高速道路建設	秋葉区 下新地内	-	-	-	12/16～ 12/18	3	168	小野本教	なし	なし	取扱不要		
2013206	-	試掘調査	民間	福祉施設	秋葉区 横川浜 3983番	-	-	-	1/14	1	24.8	朝岡政康	なし	近世陶磁器・石製品 金属製品・アスファルト	取扱不要		
2013208	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 佐菅根 3374-1号	-	-	-	1/20	1	27.4	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013209	森田遺跡 218	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 前日 1864号	遺物 包含地	弥生・古墳 平安・中世	奈良・平安	1/28	1	6	朝岡政康	なし	土師器(古代)	工事立会		
2013210	結七島遺跡 209	確認調査	民間	事務所・倉庫	秋葉区 福島 107-4	集落跡	-	-	1/29	1	17.6	朝岡政康	水田畦畔	なし	なし	慎重工事	範囲変更(拡大)
2013211	-	試掘調査	民間	農業用倉庫	北区 新鼻 380号外	-	-	-	1/30	1	24.7	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013212	-	試掘調査	民間	病院建設	南区 上下瀬跡水 929-1	-	-	-	2/3・4	2	75	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013214	-	試掘調査	公共(国)	高速道路建設	中央区 紫竹山三丁目外	-	-	-	12/19～ 12/20	2	33.6	小野本教	なし	なし	取扱不要		
2013215	前田遺跡 53	確認調査	民間	個人住宅	西区 山崎 1044番地	遺物 包含地	-	弥生	2/21	1	15.4	朝岡政康	なし	弥生土器	慎重工事		
2013216	-	試掘調査	民間	大規模太陽光発電	北区 高見町 821号	-	-	-	2/24	1	101.8	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013217	-	試掘調査	民間	宅地造成	南区 新飯田 2622-11号	-	-	-	2/25	1	32.58	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013221	下新田遺跡 573	確認調査	公共(県)	圃場整備	西蒲区 瀬上町下 5040-3号	遺物 包含地	奈良・平安	古代	2/27～ 3/8	9	40	鎌山えりか	土坑墓・ピット 性格不明遺構	土師器・須恵器(古代)	工事立会		
2013223	-	試掘調査	公共(市)	県道建設	南区 松橋外	-	-	-	3/3～18	5	268.61	朝岡政康	なし	なし	取扱不要		
2013226	-	試掘調査	民間	事務所	秋葉区 新津表町三丁目 163-1号	-	-	-	1/17	1	18	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要		
2013233	-	試掘調査	公共(国)	国道建設	西蒲区 峰岡地内	-	-	-	10/28	1	67	前山精明	なし	なし	取扱不要		
2013279	亀田六枚田遺跡 760	確認調査	民間	宅地造成	江南区 曙町一丁目 707番外	遺物 包含地	古墳～奈良・平安	古代	2/26	1	23.82	朝岡政康	なし	須恵器	工事立会		

表5 平成25年度工事立会（管内踏査）一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名	所在区 調査区	工事原因	調査者	調査期間	遺構	遺物
2013101	近世 新潟町跡	中央区	水道	諫山えりか	4/8	×	○
2013103	近世 新潟町跡	中央区	電線地中化工事	諫山えりか	5/7	×	○
2013128	近世 新潟町跡	中央区	ガス管移設	諫山えりか	6/28	×	○
2013132	近世 新潟町跡	中央区	下水道	諫山えりか	6/7~	×	○
2013133	近世 新潟町跡	中央区	下水道	諫山えりか	5/13~	×	○
2013139	桜大門遺跡	秋葉区	農業用倉庫	諫山えりか	7/22	×	○
2013140	新道遺跡	西蒲区	葬祭場	諫山えりか	8/8	×	×
2013141	法花鳥屋A遺跡	北区	下水道	諫山えりか	7/10~12	×	×
2013143	日水南遺跡	江南区	駐車場	諫山えりか	7/12~25	○	○
2013148	舟戸遺跡	秋葉区	車庫	諫山えりか	8/29	×	×
2013158	秋葉遺跡	秋葉区	下水道 (個人住宅引込)	諫山えりか	8/12	×	○
2013159	塚ノ山遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	8/26	×	×
2013167	大蔵遺跡	西区	個人住宅	朝岡政康	9/24	×	×
2013170		中央区	宅地造成	諫山えりか	10/1	×	×
2013181	山木戸居付遺跡	東区	長屋	諫山えりか	9/2~4	×	×
2013207	三王山遺跡	江南区	個人住宅	朝岡政康	1/16	×	×
2013213	舟戸遺跡	秋葉区	消防小屋	廣野耕造	2/4	×	×
2013218	沖ノ羽遺跡	秋葉区	暗渠排水工	諫山えりか	10/28~12/4	×	○
2013219	秋葉遺跡	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	12/26	○	×
2013220	下新田遺跡	西蒲区	農道	諫山えりか	1/10	○	○
2013222	舟戸遺跡	秋葉区	個人住宅	廣野耕造	3/10	×	×
2013224	細地寺道上遺跡	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	2/27~3/18	×	○
2013225	元宮遺跡	西蒲区	用水路	諫山えりか	10/20	×	×
2013228	横井山遺跡	北区	介護施設	諫山えりか	10/7~21	×	○
2013229	塩辛遺跡	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	3/15	×	×
2013230	細地寺道上遺跡	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	10/1~3/31	×	×
2013231	内野遺跡	秋葉区	車庫	諫山えりか	7/12	×	×
2013232	下新田遺跡	西蒲区	用・排水路	諫山えりか	8/1	×	×
2013234	古町遺跡	南区	個人住宅	諫山えりか	7/14	×	×
2013235	砂崩上ノ山遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	7/19	×	×
2013236	笹山前遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	10/25	×	×
2013237	大沢谷内遺跡	秋葉区	農業用 パイプライン	諫山えりか	11/27	×	×
2013238	中谷内遺跡	秋葉区	暗渠排水工	諫山えりか	10/1~	×	○
2013239	近世 新潟町跡	中央区	信号機等	諫山えりか	9/10~	×	○
2013240	万坊江遺跡	西蒲区	個人住宅	諫山えりか	9/30	×	×
2013241	正尺B遺跡	北区	宅地造成	朝岡政康	10/30	×	×
2013242	上浦A遺跡	秋葉区	排水路	諫山えりか	11/1	×	×
2013243	内野遺跡	秋葉区	排水路	諫山えりか	11/23~12/20	×	×
2013244	高矢C遺跡	秋葉区	農業用倉庫	諫山えりか	10/8	×	×
2013245	草水町2丁目竈跡	秋葉区	車庫	諫山えりか	10/3	×	×
2013246	舟戸遺跡	秋葉区	個人住宅(解体)	諫山えりか	9/20	×	×
2013247	近世 新潟町跡	中央区	解体	朝岡政康	11/13	×	○
2013248	下新田遺跡	西蒲区	圃場整備	廣野耕造	4/8	×	×
2013249	江先遺跡	秋葉区	道路	諫山えりか	5/21~10/9	×	×
2013250	下郷南遺跡	江南区	宅地造成	諫山えりか	9/3	×	×
2013251	山崎遺跡	秋葉区	カーポート	諫山えりか	12/21	×	×
2013252	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	12/9	×	×
2013253	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	3/3	×	×
2013254	新道遺跡	西蒲区	看板	諫山えりか	11/15	×	×
2013255	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	11/22	×	×
2013256	正尺A遺跡	北区	個人住宅	諫山えりか	10/3	×	×
2013257	三王山遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	10/16	×	×
2013258	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	10/21	×	×
2013259	川口乙遺跡	秋葉区	PHS基地局	諫山えりか	10/23	×	×
2013260	正尺B遺跡	北区	宅地造成	諫山えりか	10/24	×	×
2013261	東島大道下遺跡	秋葉区	倉庫	諫山えりか	10/28	×	×
2013262	三角耕地遺跡	西蒲区	サルビアパーク	諫山えりか	12/1	×	×
2013263	万坊江遺跡	西蒲区	排水路	廣野耕造	6/25	×	×
2013264	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	9/1	×	×
2013265	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	10/16	×	×
2013266	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	11/18	×	×
2013267	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	10/26	×	×
2013268	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	12/30	×	×
2013269	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	11/18	×	×
2013270	中谷内遺跡	秋葉区	農道	諫山えりか	1/18~	×	×
2013271	沖ノ羽遺跡	秋葉区	農道	諫山えりか	11/18~	×	×
2013272	舟戸遺跡	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	12/23	×	×
2013273	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	12/27	×	×
2013274	舟戸遺跡	秋葉区	個人住宅	廣野耕造	1/27	×	×
2013275	近世 新潟町跡	中央区	水道	諫山えりか	6/24~7/10	×	○
2013276	舟戸遺跡	秋葉区	個人住宅	廣野耕造	1/27	×	×
2013277	近世 新潟町跡	中央区	道路	諫山えりか	7/4~11/9	×	○

具体的には、

- ・予定されている土木工事等により、明らかに遺跡の一部が破壊され、本来であれば記録保存を目的とした本発掘調査を実施するべきであるが、掘削範囲がきわめて狭小（新潟県基準によれば原則として掘削幅1m以下）のもの。
- ・設計上は保護層も含めて掘削が遺物包含層等に及ばない見込みであるが、現地での施工が設計通りであるか立会によって確認する必要が認められる場合などである。

工事立会にあたっては、『文化財保護法』第93条の届出・同94条の通知に対する取扱い指示文を返送する際、工事日程が決定次第連絡して立会いを求めるようにしており、事業者の計画した工程に従って本市の埋蔵文化財担当専門職員が現地に赴く形となっている。

ただし、直前の連絡だけでは工事日程との調整が難しいため、平成25年度からは、特に長期間にわたる大規模な工事の場合、事業者に協力を求め、あらかじめ施工者代理人を交えた打合せを綿密に行うようにしている。これにより、工事立会による工程の一部変更など、施工者側の柔軟な対応について理解を得られやすくなった。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で最大限の記録化を行い、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査のものに準じた取扱いとしている。ただし、遺跡によっては相当量の遺物・記録類が生じることがあり、年々工事立会件数も増加傾向にあるなかで、その整理体制や方法が確立されておらず、貴重な遺跡情報としての立会結果が死蔵され、十分に生かされているとはいえない状況にある。その解消が今後の大きな課題と考える。

また、個人住宅基礎工事など小規模なものは短期間で終了するが、大規模開発や圃場整備など長期間にわたるものでは限られた人数の職員での対応に困難をきたすことがある。現在は、委託作業員の活用などで切り抜けている状態だが、土壌や遺物を見極めることのできる熟練作業員は数が少なく、十分な人数が確保できないことが多く、早急な解決が必要である。

平成25年度 表5のとおり、72件の工事立会を行った。平成24年度の49件から大幅な増加である。国道7号建設工事に伴う「近世新潟町跡」関係や、引き続き個人住宅関係の案件が多い。

事前審査に係る試掘・確認調査の概要は次節の通りである。 (廣野耕造)

2 平成25年度の事前審査に係る試掘・確認調査の概要

(1) 正尺A遺跡 第16～20次調査 (2013105・2013116・2013151・2013172・2013173)

所在地 新潟市北区葛塚字正尺3071番3 (2013105)、葛塚字正尺4770番1外 (2013116)、葛塚543-1外 (2013151)、葛塚4745 (2013172)、葛塚4689-1外 (2013173)

調査の原因 倉庫建設 (民間事業・2013105)、個人住宅建設 (民間事業・2013116)、集合住宅建設 (民間事業・2013151)、歯科医院建設 (民間事業・2013172)、宅地造成 (民間事業・2013173)

調査期間 平成25年4月22日 (1日間・2013105)、6月20日 (1日間・2013116)、8月29日、9月12・13日 (3日間・2013151)、10月9・10日 (2日間・2013172)、10月10・11・23日 (3日間・2013173)

調査面積 15.3㎡ (調査対象面積99.0㎡・2013105)、18.0㎡ (調査対象面積230.0㎡・2013116)、42.9㎡ (調査対象面積706.0㎡・2013151)、22.7㎡ (調査対象面積543.5㎡・2013172)、50.9㎡ (調査対象面積1,515.8㎡・2013173)

調査担当 朝岡政康

処置 慎重工事

調査に至る経緯 平成25年度は5件の試掘・確認調査を実施した。第16～18次が正尺A遺跡、第19次が正尺A・B遺跡、第20次が正尺B遺跡としての調査であった。これらの調査の結果、正尺B遺跡が正尺A遺跡に統合される形で1つの遺跡となる予定である。

第16次：倉庫建設に伴い平成25年4月4日付で提出された『文化財保護法』第93条の届出を受け、平成25年4月19日付で着手報告を提出し、確認調査 (2013105) を実施した。

第17次：個人住宅建設に伴い平成25年6月18日付で提出された『文化財保護法』第93条の届出を受け、平成25年6月18日付で着手報告を提出し、確認調査 (2013116) を実施した。

第18次：集合住宅建設に伴い遺跡の広がりを確認するため平成25年8月26日付で着手報告を提出し確認調査 (2013151) を実施した。その結果を受け平成25年9月26日付で『文化財保護法』第93条の届出が提出された。

第19次：歯科医院建設に伴い平成25年10月1日付で提出された『文化財保護法』第93条の届出を受け、平成25

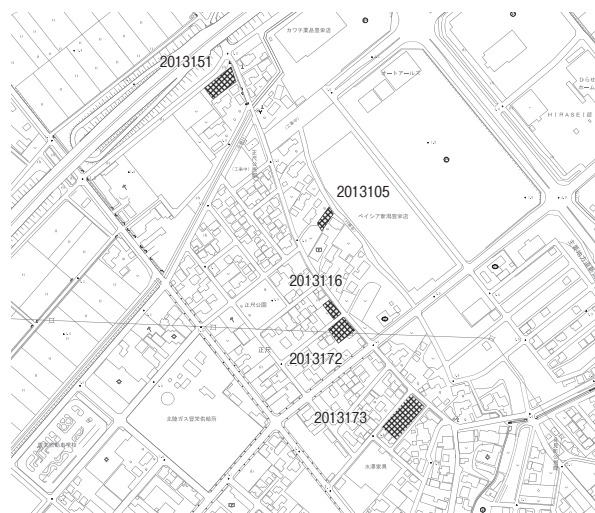


図1 調査位置図 (1/10,000)

年10月4日付で着手報告を提出し、確認調査 (2013172) を実施した。正尺B遺跡としても調査を行っており、その結果、正尺B遺跡の範囲が拡大し、正尺A遺跡と接するようになった。

第20次：宅地造成に伴い遺跡の有無を確認するため平成25年10月4日付で着手報告を提出し、試掘調査 (2013173) を実施した。調査の結果、正尺B遺跡の範囲が拡大した。

位置と環境 正尺遺跡群は地点によって正尺A～D遺跡として周知化されている。いずれも自然堤防 (新砂丘I-3) 上に立地し、遺構確認面の標高は約1.5mを測る。これまでの調査成果から、古墳時代は新潟シンボ編年 [滝沢2005] 6・7期にはほぼ限定される集落と考えられている [土橋2006]。

検出遺構 基本層序については、Ⅲ・Ⅳ層が古墳時代の遺物包含層、Ⅳ層上面が古墳時代の遺構確認面である。Ⅴ層は第20次調査2Tで弥生土器が出土しており、弥生時代の遺物包含層と考えられる (図2)。

検出遺構は表1の通りである。第18次調査の2T壁面で畦畔の可能性のある高まりが認められ (図2)、水田の存在が推測される。また、第19次調査では、1・2Tで土坑状の落ち込みが壁面で確認された (SX1・2)。SX1覆土からは古墳時代前期の土師器片が出土した。第16次調査では、Ⅲ層を遺構確認面とする川跡が検出された。川跡からは近世陶磁器がまとめて出土した。第17次調査では、Ⅲ層を遺構確認面とする溝が検出された。溝からは近世陶磁器が出土している。

出土遺物 試掘・確認調査5件における出土遺物の総数は表2の通りである。このうち遺存率の高い遺物を中心に図化した。なお、正尺A遺跡の本発掘調査では近世陶磁器がまとめて出土していることから [尾崎2001]、

本書においても出土した近世陶磁器の一部を掲載した。以下、調査別に報告遺物について記す。

第16次調査（1～6） 1・2は1TのⅣ層、3・4は1Tの川跡2層、5は2Tの川跡3層、6は1TのⅢ層出土である。

1は甕の口縁部で、端部は面取りされている。2は小形壺の体部である。器面の磨減が激しく調整は不明。内面に粘土紐の接合痕が確認される。3は磁器椀で、波佐見系に属すと考えられる。外面には草花文が染付される。高台接地部には砂粒の溶着が認められる。18世紀代。4は素焼きの焙烙で、外面にスガが付着する。5は磁器の皿で、蛇ノ目高台が付く。底部外面の見込みに渦福をもつ。肥前産で、時期は19世紀初頭に位置づけられる。6は砥石である。平面形は長方形を呈す。下面以外の5面で線状痕などの使用痕が観察される。長さ8.0cm、幅2.8cm、厚さ1.9cm、重さ90.5g。石材は安山岩。

第17次調査（7～11） 7・8・10・11が1TのⅢ層、9が1TのⅡ層出土である。7は直口壺の口縁部で、頸部から下を欠損する。口縁端部は尖り気味に収まる。内外面とも赤彩が施される。外面は縦位、内面は横位のヘラミガキが確認される。8は有段口縁壺の口縁部である。9・10は甕の口縁部。口縁端部は丸く収まる。11は近世陶器の鉢である。片口鉢の可能性もある。口径は19.3cmを測る。底部内面の一部には重ね焼き時に生じたと考えられる粘土の付着が観察される。

第18次調査（12～14） 全て1TのⅢ層出土である。12は器台の脚部と推測する。ハの字状に開く形態である。外面はヘラミガキ、内面はハケメが認められる。13は東海系高杯の杯部と推測する。復元口径は18.0cm。口縁端部は尖り気味に収まる。内外面にヘラミガキ調整が施される。14は甕の口縁部である。口縁端部は外に短く屈曲して張り出す。頸部外面にハケメ調整が認められる。

第19次調査（15～19） 15・18・19は1TのⅢ層、16・17は2TのⅢ層出土である。15は壺の底部と考える。胎土は長さ0.5～2.0mmほどの長石・石英・各種岩石のほか雲母を含む。18・19は外面に「縹目」をもつ土器であり、RL原体を用いて縦位に帯状縄文が施文される。18・19とも焼成不良のため、黒褐色系の色調を帯びる。胎土は長石・石英のほか各種岩石を含むが、いずれも長さ0.5mmほどの微細片である。雲母は認められない。なお、両者は焼成・胎土とも類似しており、同一個体の可能性がある。16は東海系高杯の杯部と考える。内外面ともヘラミガキ調整が行われる。口縁端部は丸く収まる。17は甕の口縁部である。口縁端部は丸く収まる。

まとめ 取扱いについては、遺跡への影響が大きいと

考えられる部分については協議を行い工事計画の変更を行ったため、各工事ともに遺跡への影響が少ないと判断し、慎重工事としている。

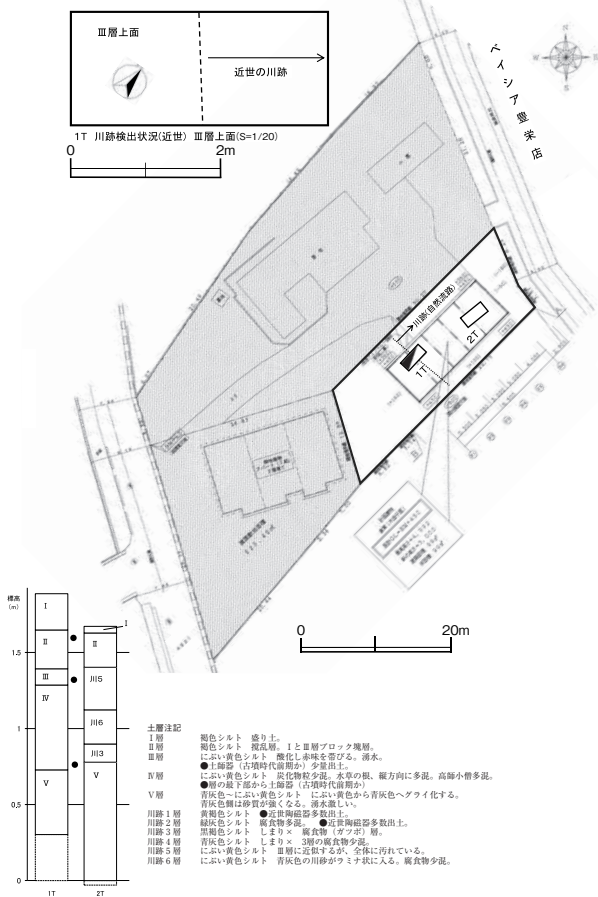
出土遺物は細片が多く時期比定が困難なものもあるが、総体的にはこれまでの調査成果と同様、新潟シンポ編年〔滝沢2005〕6・7期を中心とする時期と考えて良いであろう。また、近世陶磁器は18世紀を中心とする時期が主体をなし、正尺A遺跡の本発掘調査の成果〔尾崎2001〕と共通した内容といえる。

注目されるのは帯状縄文を有する土器（18・19）である。1TのⅢ層からの出土である。縄文施文の特徴から、続縄文土器と判断される。15を含め、同層から出土した遺物は古墳時代に限定され、これまでの調査成果をあわせると、新潟シンポ編年6・7期を中心とする時期の可能性が高い。周辺で続縄文土器が出土した遺跡は、南東約1,100mの新潟市北区椋C遺跡と南南東約1,100mに位置する同葛塚遺跡があるほか、南東約2,200mには阿賀野市腰廻遺跡が存在する。椋C遺跡は正尺遺跡に比べて古相の土器が主体をなし、新潟シンポ編年2・3期及び4・5期以降の土器が出土している。また、続縄文土器は後北C1式末～C2-D式と一般的な後北C2-D式土器がある〔滝沢2014〕。葛塚遺跡の続縄文土器は、一般的な後北C2-D式土器と理解されており〔前山2002〕、新潟シンポ編年4・5期から中期前半を中心とした在地の土器が出土している〔滝沢2014〕。腰廻遺跡の続縄文土器は一般的な後北C2-D式土器とされ、弥生時代後期から古代の土器が出土している〔滝沢2014〕。

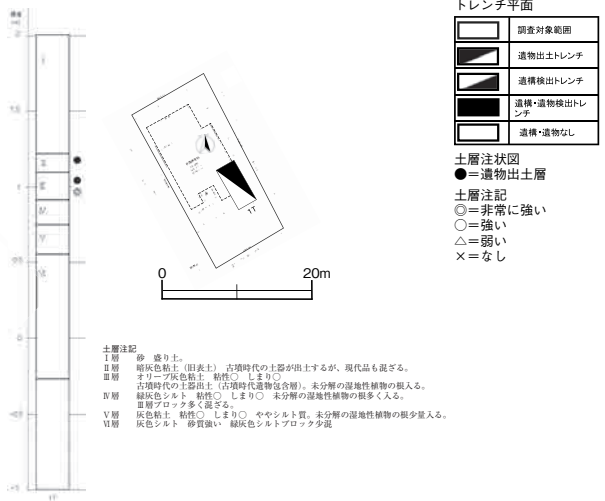
なお、正尺遺跡群ではこれまでも縄文施文土器が報告されている。加藤学氏は、正尺C遺跡第2次調査（2000005）で出土した縄文施文土器について天王山系と捉え、この系譜にある縄文施文土器が新潟シンポ編年6・7期まで残存する可能性を指摘した〔加藤2011〕。正尺C遺跡は18・19出土の調査区から西に約600mの場所に位置し、地点を異にする。また、正尺C遺跡で報告された縄文施文土器の中に18・19のような帯状縄文は確認できない。

県内の一般的な後北C2-D式土器の分布は旧福島潟周辺と角田・弥彦山麓に限定される〔前山1999・滝沢2014〕。今回、新たに正尺A遺跡で続縄文土器が確認されたことで、弥生時代の終わりから古墳時代にかけて、旧福島潟周辺が続縄文土器分布の主体をなす〔滝沢2014〕ことがより鮮明となった。旧福島潟周辺の地域性はもとより、東日本の古墳時代像を考えるうえで重要な資料といえよう。続縄文土器については、新潟県教育庁文化行政課滝沢規朗氏からご教示頂いた。（相田泰臣・金田拓也）

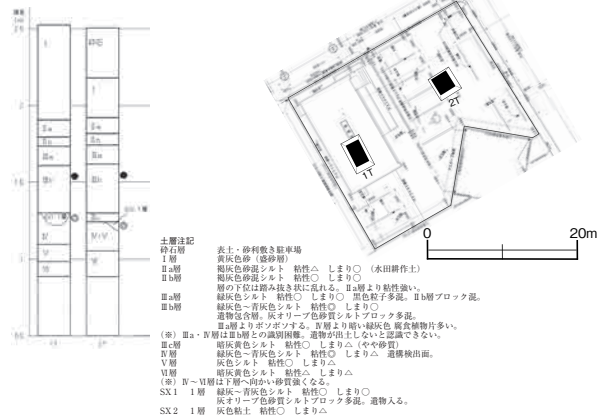
第16次 (2013105)



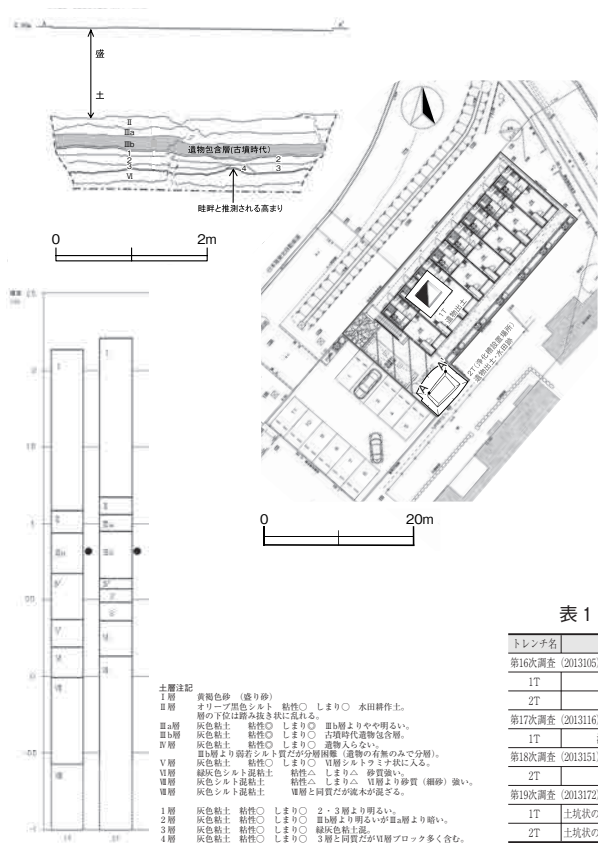
第17次 (2013116)



第19次 (2013172)



第18次 (2013151)



第20次 (2013173)

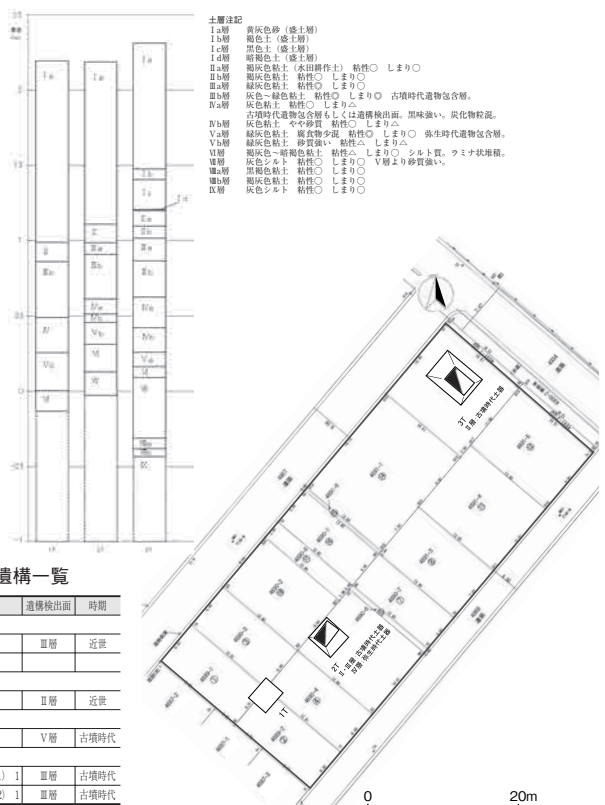
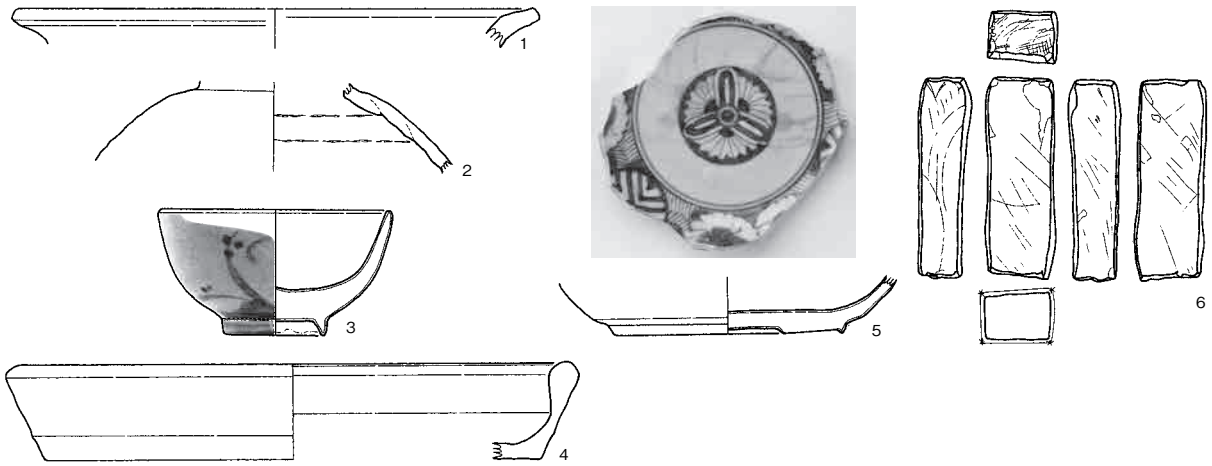


表1 検出遺構一覧

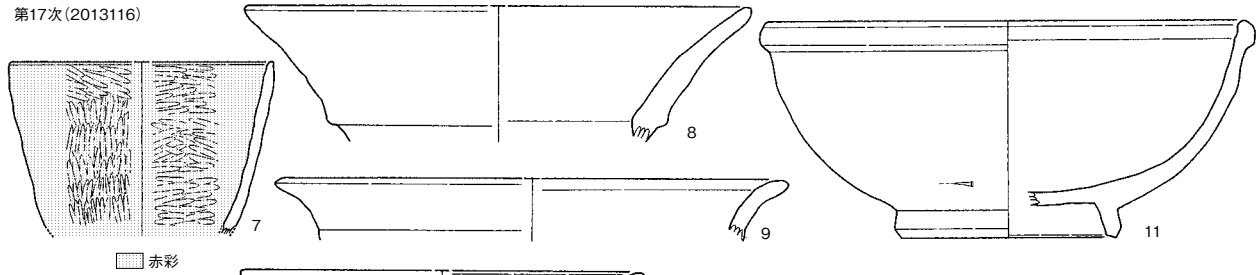
トレンチ名	遺構	遺構検出面	時期
第16次調査 (2013105)			
1T	川跡 1	Ⅲ層	近世
2T	川跡 1		
第17次調査 (2013116)			
1T	溝状遺構 1	Ⅱ層	近世
第18次調査 (2013151)			
2T	畦畔? 1	V層	古墳時代
第19次調査 (2013172)			
1T	土境状の落ち込み (SX1)	1	Ⅲ層
2T	土境状の落ち込み (SX2)	1	Ⅲ層

図2 トレンチ位置図 (1/100)・土層柱状図 (1/50)

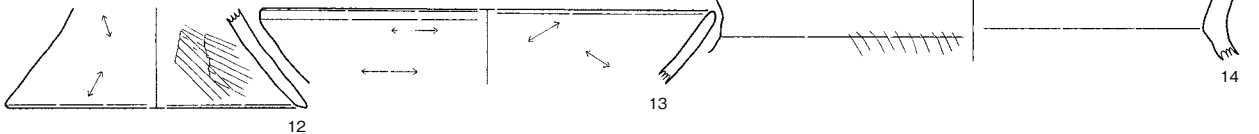
第16次(2013105)



第17次(2013116)



第18次(2013151)



第19次(2013172)

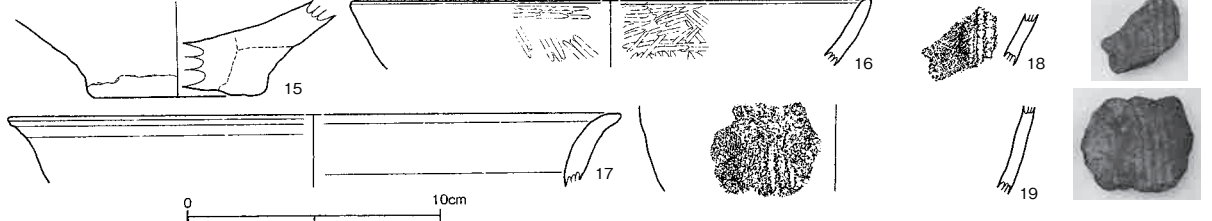


図3 遺物実測図(1/3)

表2 出土遺物一覧(数字は破片点数)

トレンチ名	出土位置	弥生土器	土師器(古墳)	統縄文土器	近世土師器・陶磁器	石製品	木製品
第16次調査(2013105)							
1T	II		2			1	
	III		15			4	2
	IV		25				
2T	川跡2層		2			42	2
	川跡3層					5	
合計			44			52	2 2
第17次調査(2013116)							
1T	I		34			1	
	II		23				
	溝		2			4	
合計			59			5	
第18次調査(2013151)							
1T	II		97				
	I					3	
2T	I		79				
	II						
合計			176			3	
第19次調査(2013172)							
1T	II		212				
	SX1.1層		2				
2T	II		44	2			
				2			
合計			258	2			
第20次調査(2013173)							
2T	II		10				
	III		1				
	IV		1				
	II		1				
3T	II		2				
合計			13				
総計		1	550	2		60	2 2

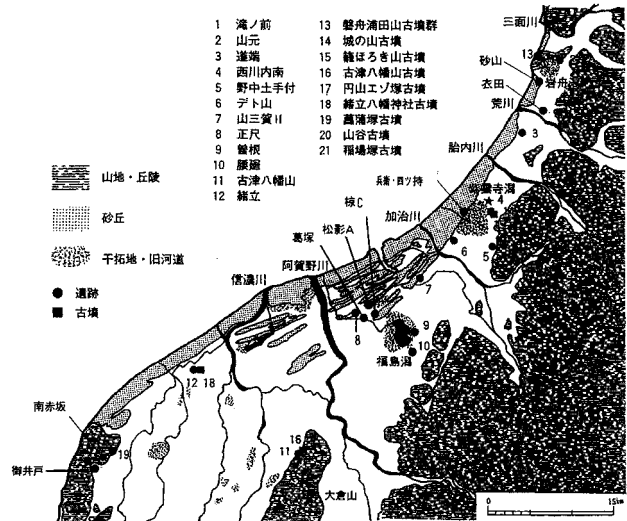


図4 阿賀北を中心とした弥生後期～古墳前期の遺跡(滝沢2014)

(2) 下郷南遺跡 第1・2次調査 (2013106・2013152)

所在地 新潟市江南区横越中央四丁目3986番1外
調査の原因 宅地造成 (民間事業・2013106)、
個人住宅建設 (民間事業・2013152)

調査期間 平成25年4月30日、5月1日、6月3～
12日 (8日間・2013106)、
平成25年8月28・29日
(2日間・2013152)

調査面積 199.04㎡
(調査対象面積3,386.57㎡・2013106)、
18.0㎡
(調査対象面積304.91㎡・2013152)

調査担当 朝岡政康 (2013106)、
諫山えりか (2013152)

処置 工事立会

調査に至る経緯 下郷南遺跡は、宅地造成に伴う試掘調査 (第1次調査) によって発見された遺跡である。

平成25年3月11日に江南区建設課より歴史文化課に遺跡の有無について照会があり、周知の埋蔵文化財包蔵地には該当しないが、その有無を確認するため試掘調査の実施等について協議が必要と回答した。これを受けて、江南区建設課が事業者へ回答し、事業者より埋蔵文化財の事前調査についての依頼があり (平成25年4月30日付)、着手報告を提出し (平成25年4月30日付)、試掘調査 (第1次・2013106) を実施した。

4月30日・5月1日の試掘調査では、1～8Tを設定した。この調査により新遺跡の存在が明らかとなったが、遺跡範囲や内容が不明確であった。このため、事業者との協議を行い、未調査の部分について樹木や家屋を撤去後に追加調査することにした。6月3～12日に9T・10Tを設定し、追加調査を行った (2013106)。その後、『文化財保護法』第93条の届出が提出された (平成25年6月25日付)。上記の第1次調査の結果、開発範囲のほぼ全域が平安時代、鎌倉～室町時代、近世初頭の集落遺跡であることが判明した。遺跡名は小字名の「下郷」を冠し、既存遺跡名との重複を避け「下郷南遺跡」として周知化した。

第2次調査は、個人住宅建設に伴って8月28・29日に実施した確認調査である。『文化財保護法』第93条の届出が提出され (平成25年7月29日付)、これを受けて着手報告を提出し (平成25年8月28日付)、確認調査を実施した (2013152)。第1次調査時には建物等があり、試掘トレンチを設定できなかった地点であり、建物撤去後に3×3mのトレンチを2か所設定した。



図1 調査位置図 (1/10,000)



第1次調査10T全景 (南から)



第1次調査SX22完掘状況 (西から)

位置と環境 下郷南遺跡は、阿賀野川左岸の自然堤防上に位置する。現在の阿賀野川河口から約13.8kmの地点である。標高は約3.9～4.5mを測り、南から北に向かって低くなる。

検出遺構 第1次調査では10か所のトレンチを設定した。調査対象面積に対する調査面積は約17%である。基本層序は、I～VII層に分層し、III層は細分できる。I層：表土・畑耕作土・盛土、II層：にぶい黄褐色シルト、III

a層：褐灰色シルト、Ⅲb層：灰黄褐色～にぶい黄褐色～青灰色シルト、Ⅲc層：黒色～黒褐色～オリーブ黒色シルト、Ⅳ層：黄褐色シルトである。Ⅲa層が遺物包含層となる。遺構確認面はⅢb・c層、Ⅳ層の3面ある。Ⅲb（中世上面）・c（中世下面）層は中世の遺構確認面であり、Ⅳ層が古代の可能性が高い。中世上面と下面には大きな時期差は確認できない。また、調査中はⅢb・c層上面での遺構確認が困難なため、Ⅳ層上面で遺構確認を行った。

検出した遺構は3Tで溝(SD)1条、6Tで溝1条、9Tで井戸(SE)1基、10Tで井戸3基(SE8：中世下面、SE9：中世下面)・土坑(SK)3基・溝2条(SD3：中世下面、SD18：中世下面)・ピット(P)14基(P6：古代、P30：中世上面)・性格不明遺構(SX)2基(SX11：中世上面、SX22：中世下面)である。

井戸の底面標高は9T(SE2)が1.5m、10T(SE8・9・13)が2.2m前後である。北側の9Tの方が低く、地形の傾斜に一致する。

10Tから大形の性格不明遺構(SX22)が確認されている。SX22の8層からは多量の中世土師器が出土した。SX22の中世土師器のほぼすべてが8層からの出土である。完形品に近いものも多いことから、意図的に廃棄されたと考えられる。

第2次調査では2か所のトレンチを設定した。調査対象面積に対する調査面積は約17%である。基本層序はⅠ～Ⅵ層に分層でき、Ⅳ層は細分できる。Ⅰ層：盛土、Ⅱ層：淡灰褐色粘土、Ⅲ層：灰褐色粘土、Ⅳ層：暗灰色～黒褐色粘土、Ⅴ層：青灰色シルト、Ⅵ層：灰褐色粘質シルトである。Ⅲ層が遺物包含層であり、Ⅴ層が遺構確認面となる。検出した遺構は性格不明遺構2基、ピット1基である。

出土遺物 出土遺物の種別と点数は表1のとおりである。

第1次調査(2013106)では、土師器(古代)、中世土師器・陶磁器、近世(以降)陶磁器、石製品、木製品が出土した。このうち、85点を掲載した。土師器は6T・

8T・10Tで、中世の遺物は1T・3T・5T・6T・9T・10Tで出土している。

10TSX22の黒色灰層である8層より出土した中世土師器について特筆する。出土した中世土師器はすべてロクロ成形底部ヘラ切りによるものである。この技法は阿賀野川以北の特に南部域に分布する。下郷南遺跡では、図7-17のように底部切り離しに使用したヘラの木目が顕著に残るものが目立つ。類似のヘラ切り痕は新発田城跡堀2出土の中世土師器に見ることができる〔鶴巻ほか1997〕。SX22より出土した中世土師器の法量は、大中小の3法量に分けられる。法量分布図を図2に示した。小が最も多く(65.2%)、大はごく少量である(2.2%)。また、分類に当てはまらないものが1点ある。各法量は大：口径13.8～14.0cmで器高3cm弱、中：口径11.2～12.8cmで器高2.3～3.5cm、小：口径6.4～8.3cmで器高0.9～1.5cmである。これらの法量は二ツ割遺跡SD1113出土のヘラ切り中世土師器と近似する〔水澤2005〕。これらを勘案すると、下郷南遺跡出土の中世土師器は新発田城跡堀2と二ツ割遺跡SD1113と同時期に位置付けられ、14世紀代のものであるといえる。これまで、ロクロ成形底部ヘラ切りの中世土師器は、阿賀野川以南でも少量出土しているが、主に阿賀野川以北に分布が限られていた。しかし、阿賀野川以南の下郷南遺跡から一定量の出土したことにより、分布域の広がりが確認できた。

第2次調査(2013152)では、土師器(古代)と中世土師器、近世(以降)陶磁器、石製品が出土している。

まとめ 第1次調査(2013106)では、一括性が高く、遺存状態も良好な中世土師器が出土した。今後の当該周辺地域での編年研究に活用できる資料であると評価できる。

試掘・確認調査後の開発行為に対しての取扱いに関して、「新潟県発掘調査の要否等の判断基準」に拠ると、道路部分については、原則として本発掘調査を実施し、記録保存の対象とされている。今回の開発行為に対しても本来ならば、本発掘調査の対象となるが、協議開始日から工事開始日までの期間が短く、本発掘調査を実施する猶予がなかった。このため、追加の試掘調査である9T・10Tの調査をもって道路部分の記録保存に代え、これ以外の道路部分については工事立会として取扱った。宅地造成地縁辺の擁壁部と排水路については、面積が狭小であること、宅地部については保護層が確保できることから、新潟県発掘調査の要否等の判断基準に拠り、いずれも工事立会(2013250)として対応した。

第2次調査(2013152)については、個人住宅であることから、同判断基準に拠り、工事立会(2013264)として対応した。(相澤裕子)

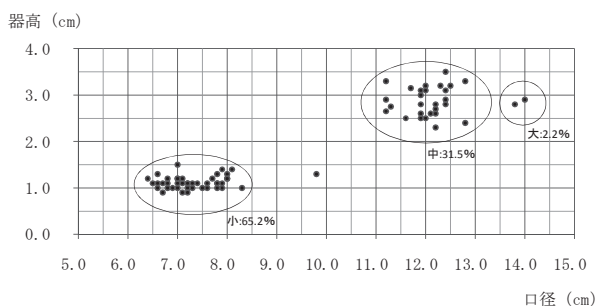


図2 第1次調査SX22出土中世土師器法量分布図

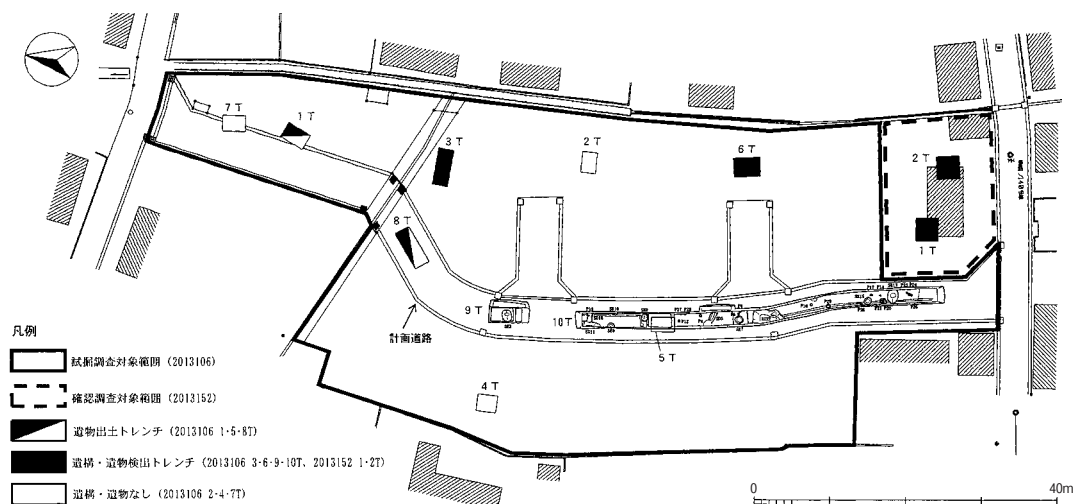


図3 トレンチ位置図 (1/1,000)

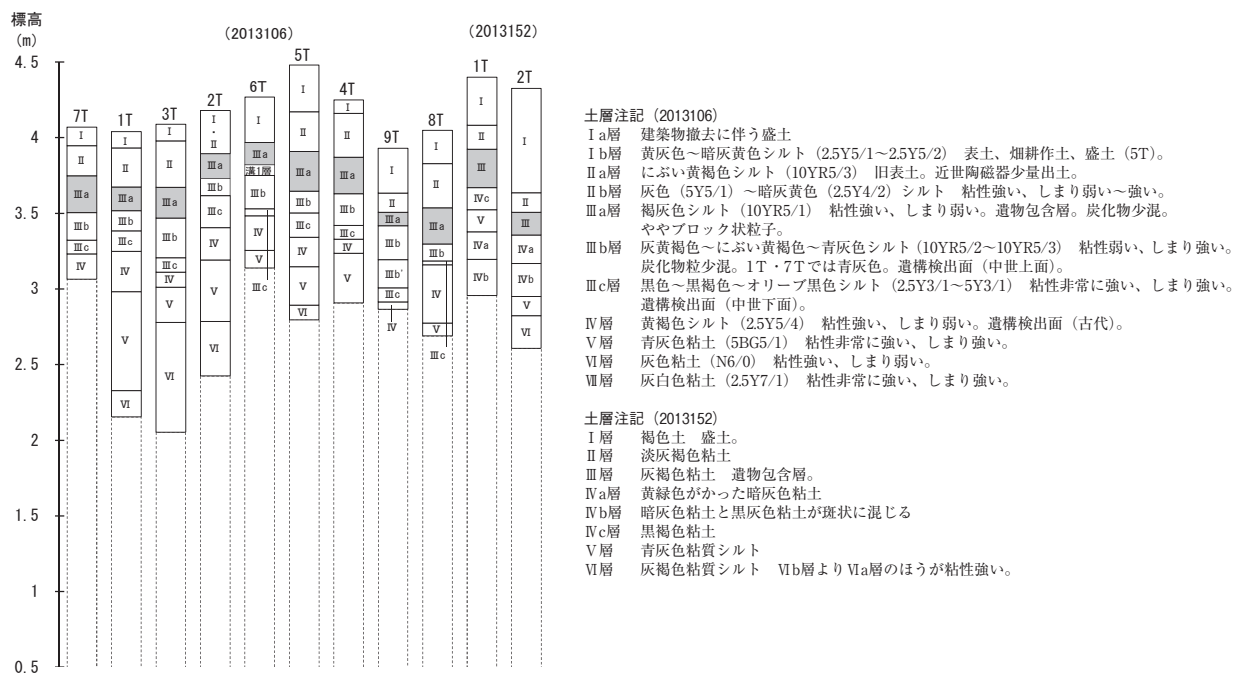


図4 土層柱状図 (1/50)

表1 遺物集計表

第1次調査 (2013106)

トレンチNo.	遺構	土師器	青磁	白磁	珠洲焼	越前焼	北越窯	瓦器	中世土師器	近世以降陶磁器	時期不明陶器	時期不明土器	鍛冶関連遺物	粘土塊	石製品	木製品
1T					1				1	8					1	
2T										5	1			3		
3T			1						1	1						
5T									3	1						
6T		41			3			1	3	3			1		3	
7T										5						
8T		1								1						
9T	SE2				2				2	5						4
10T	SE8								3	15						
10T	SE9					2				2					1	
10T	SE13	17													1	
10T	SK7														1	
10T	SK15								1	1						
10T	SK17														1	
10T	SX22				1				228				1	1	2	
10T	P4	4								1						
10T	P5									1						
10T	P16								5							
10T	P20									1						
10T	カクラン	1							2	7					4	
10T		98	5	1	4		6	5	219	96			1	3	4	
合計		162	6	1	11	2	6	6	473	148	1	1	3	7	14	4

工事立会 (2013250)

トレンチNo.	近世以降陶磁器
合計	21

第2次調査 (2013152)

トレンチNo.	土師器	中世土師器	近世以降陶磁器	石製品
1T	17	3	27	3
2T	2	2	63	2
合計	19	5	90	5

※接合後の破片点数

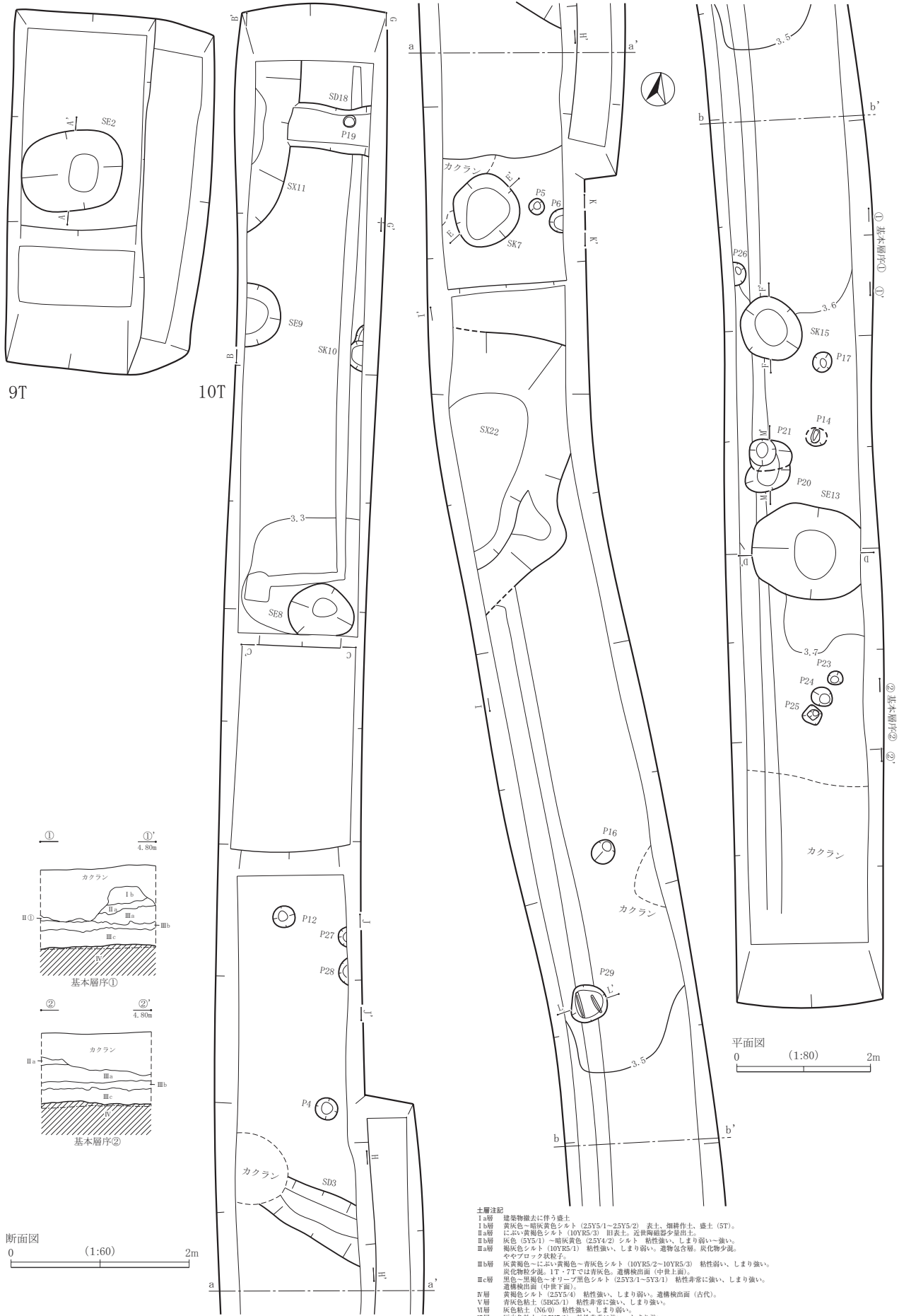
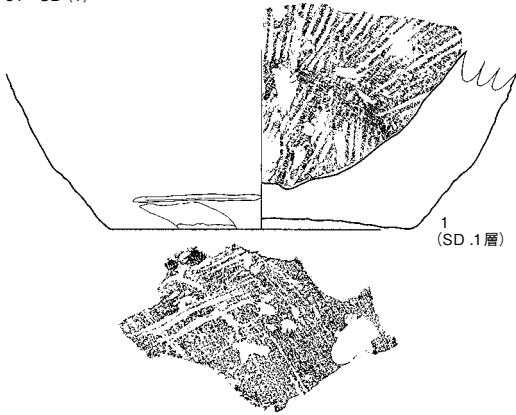
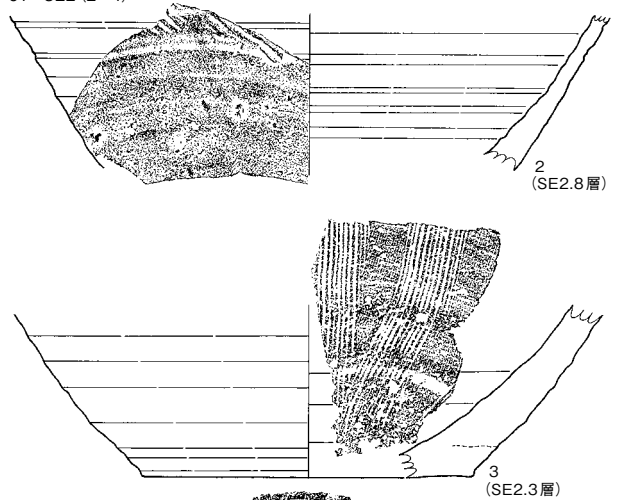


図5 第1次調査9・10T平面図(1/80)、基本層序断面図(1/60)

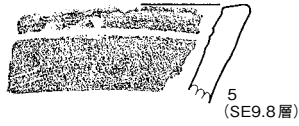
6T SD (1)



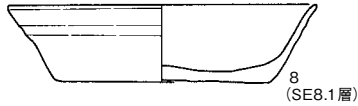
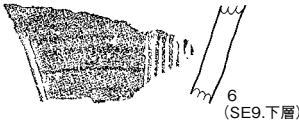
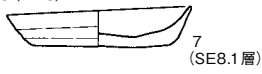
9T SE2 (2~4)



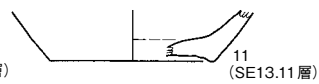
10T SE9 (5・6)



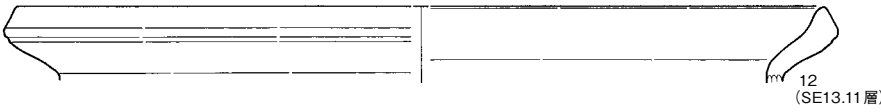
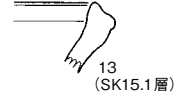
10T SE8 (7・8)



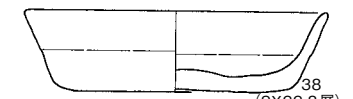
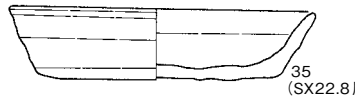
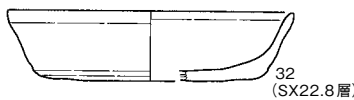
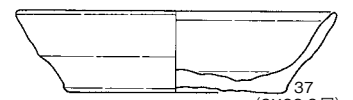
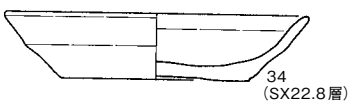
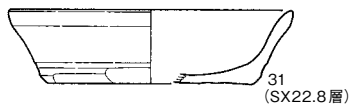
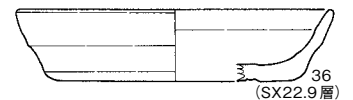
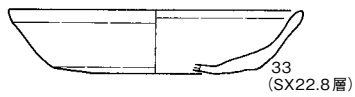
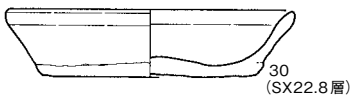
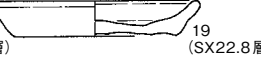
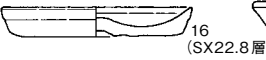
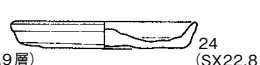
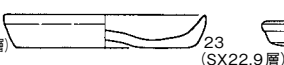
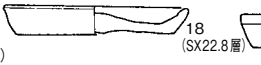
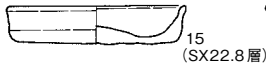
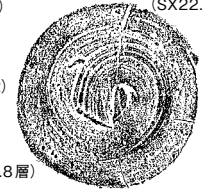
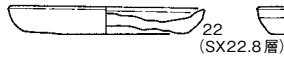
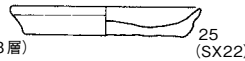
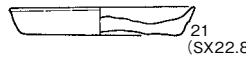
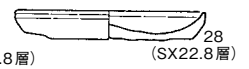
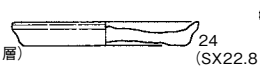
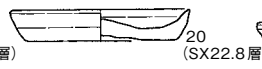
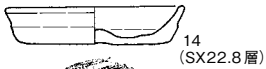
10T SE13 (9~12)



10T SK15 (13)



10T SX22 (14~38)



0 10cm

図7 遺物実測図 (1/3)

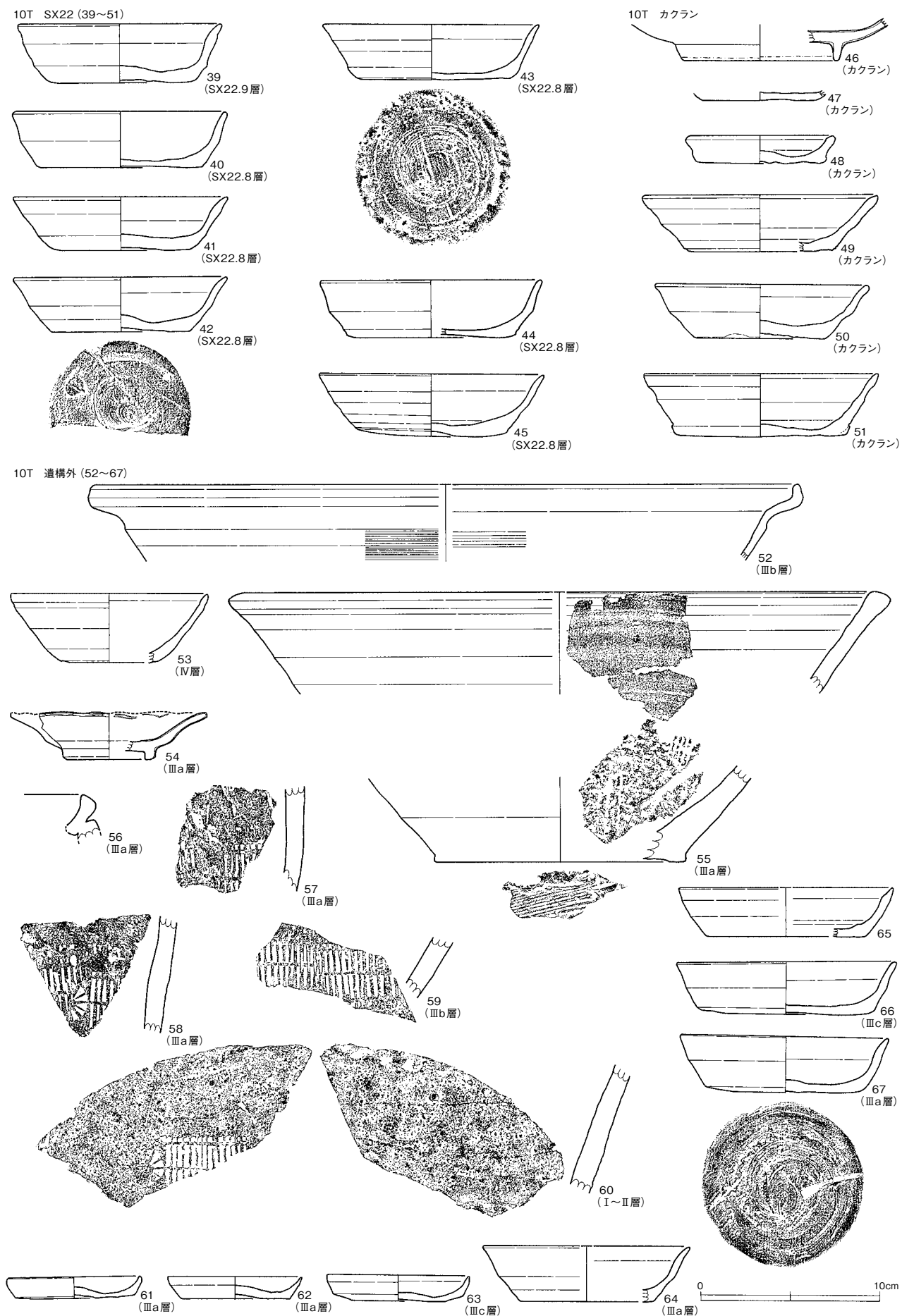
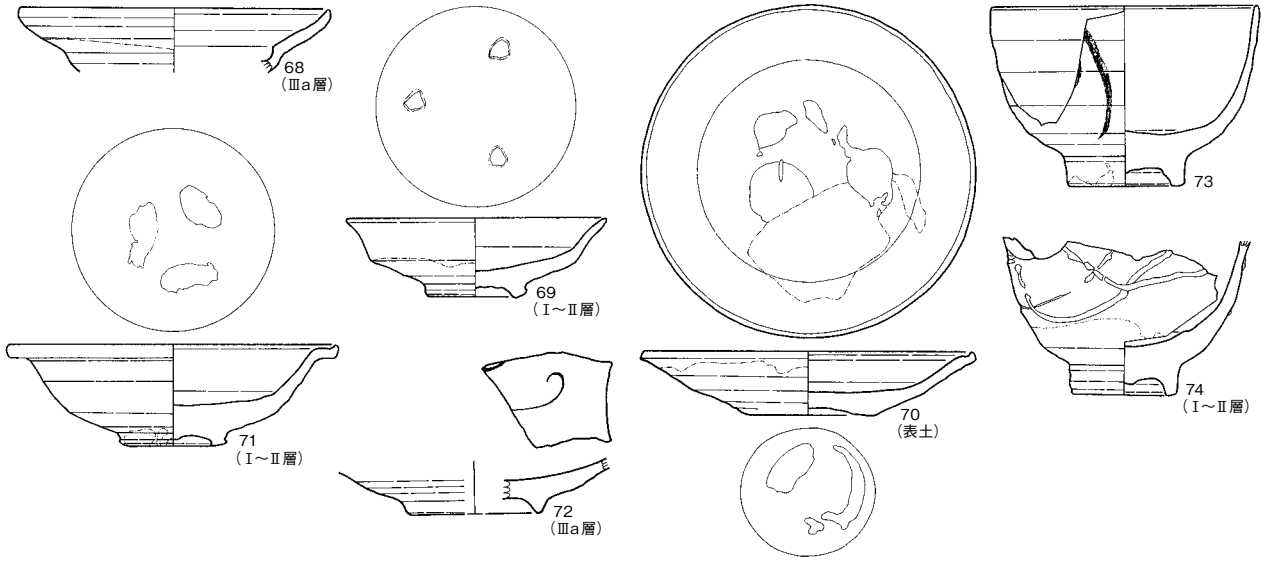
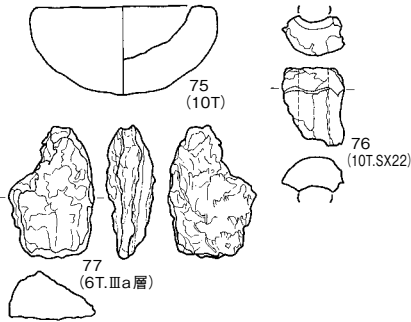


図8 遺物実測図 (1/3)

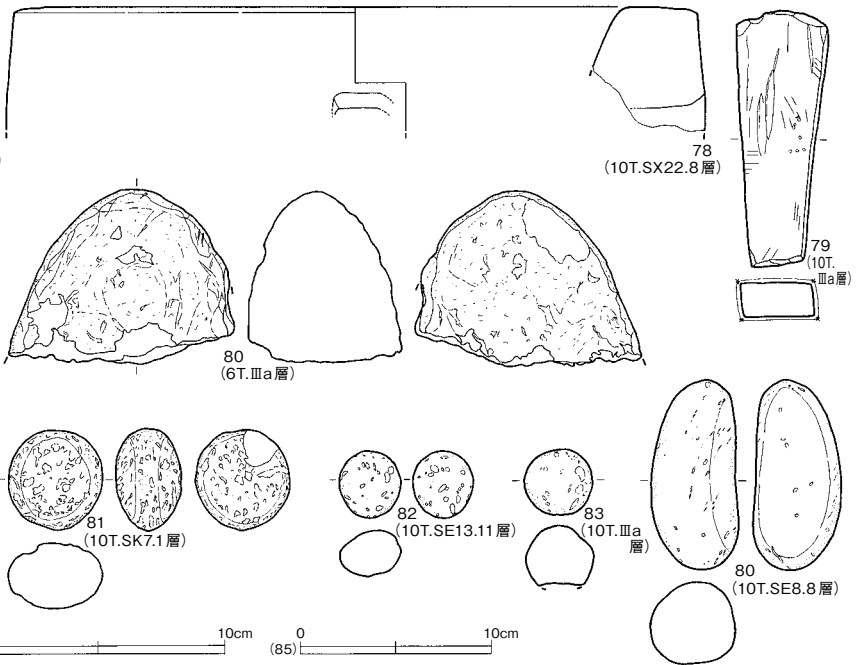
10T 遺構外 (68~74)



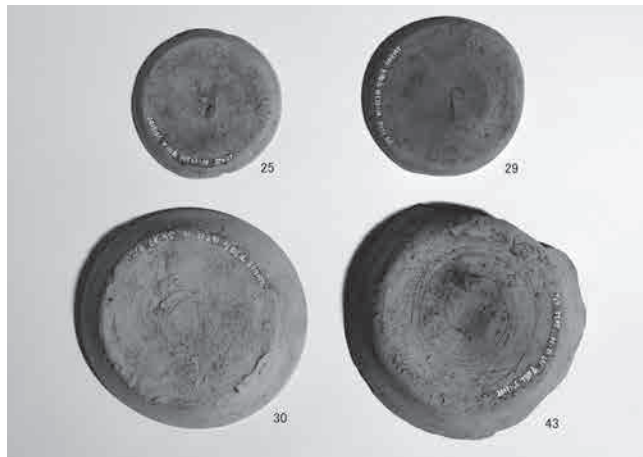
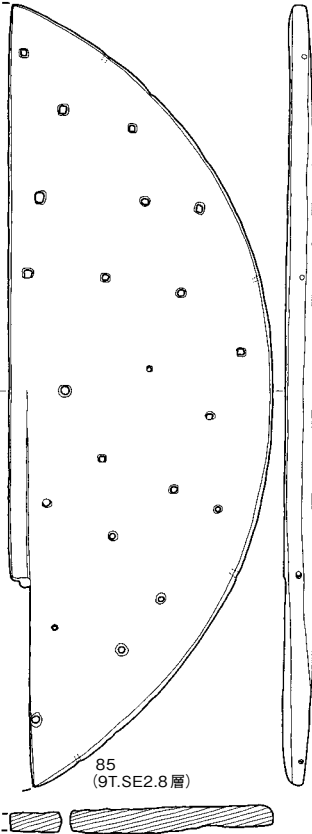
鍛冶関連 (75~77)



石製品 (78~84)



木製品 (85)



左：板状圧痕

右：顕著なヘラの木目

図9 遺物実測図 (1/4・1/3)

表2 土器・陶磁器観察表

掲載No.	出土位置			層位	種別	器種	法量 (cm)			色調	輪索	胎土	含有物	焼成	調整		遺存率		備考		
	トレンチ	クワッド	遺構名				口径	底径	器高						長さ	幅	厚さ	外面		内面	口縁部
1	6T	—	SE2	1	珠洲焼	播鉢	—	12.0	—	—	灰10YR6/1	石英、長石、白色凝灰岩、海綿骨針	粗	還元	ロクロナデ	脚目	静止糸切	—	5/36	吉岡編年Ⅱ期以降	
2	9T	—	SE2	8	珠洲焼	壺	—	—	—	—	灰7.5Y5/1	石英、白色凝灰岩、海綿骨針	精	還元	ロクロナデ	扁平タキ	—	—	—		
3	9T	—	SE2	3	珠洲焼	播鉢	—	13.0	—	—	灰7.5Y5/1	石英、白色凝灰岩、海綿骨針	粗	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	—		
4	9T	—	SE2	3	中世土師器	大皿	11.2	8.5	2.7	—	灰黄2.5Y7/2	石英、長石、雲母	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切	—	4/36	吉岡編年Ⅱ期	
5	10T	5	SE9	8	越前焼	播鉢	—	—	—	—	灰黄2.5Y7/2	雲母、白色凝灰岩	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	0.5/36	11/36	内面・底部外面タール付着	
6	10T	3	SE9	下	越前焼	播鉢	—	—	—	—	灰褐5YR6/2	長石、白色凝灰岩、海綿骨針	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	—	外面スス付着	
7	10T	5	SE8	1	中世土師器	小皿	7.3	5.6	1.4	—	にぶい黄橙10YR7/2	雲母、白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	36/36	36/36	—	
8	10T	5	SE8	1	中世土師器	大皿	12.1	8.5	3.1	—	灰白10YR7/1	雲母、白色凝灰岩	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	20/36	36/36	内外面スス・油シミ付着	
9	10T	21	SE13	11	古代土師器	無台碗	—	5.5	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	長石	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	—	11/36	
10	10T	21	SE13	11	古代土師器	小壺	(130)	—	—	—	灰黄褐10YR8/2	石英、チャート	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	3/36	—	外面スス付着
11	10T	21	SE13	11	古代土師器	小壺	—	6.5	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	石英、長石、雲母	粗	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	—	9/36	—
12	10T	21	SE13	11	古代土師器	長壺	(320)	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	石英、長石、白色凝灰岩	粗	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	2/36	—	—
13	10T	19・20	SK15	1	古代土師器	長壺	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	石英、長石、雲母、白色凝灰岩 5mm以上の塵	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	—	—	—
14	10T	12・13	SX22	8	中世土師器	小皿	7.0	6.0	1.5	—	にぶい黄橙10YR7/3	長石、雲母、チャート、海綿骨針	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	31/36	36/36	—	—
15	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.0	6.5	1.5	—	灰黄2.5Y7/2	石英、長石、雲母	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	34/36	36/36	—	—
16	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.4	6.8	1.1	—	浅黄橙10YR8/3	石英、長石、雲母	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	20/36	36/36	—	—
17	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	6.8	5.8	1.2	—	にぶい黄橙10YR7/3	石英、長石、雲母	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	16/36	36/36	—	—
18	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.2	6.3	1.1	—	にぶい黄橙10YR7/3	石英、長石、雲母、チャート	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	36/36	36/36	—	—
19	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	8.0	6.4	1.3	—	浅黄2.5Y7/3	石英、長石、雲母、チャート 白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	19/36	18/36	—	—
20	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.0	6.0	1.2	—	にぶい黄橙10YR7/3	長石、雲母、チャート	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	14/36	15/36	—	—
21	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.2	6.3	1.1	—	灰5Y6/1	石英、長石、雲母	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	28/36	36/36	—	—
22	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.6	6.5	1.1	—	にぶい黄橙10YR7/2	石英、長石、雲母	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	26/36	27/36	—	—
23	10T	12-14	SX22	9	中世土師器	小皿	7.8	7.1	1.3	—	にぶい黄橙10YR7/3	石英、長石、雲母、白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	25/36	36/36	—	—
24	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.2	6.5	0.9	—	浅黄橙10YR8/3	石英、雲母	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	14/36	14/36	—	—
25	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.4	6.4	1.1	—	浅黄2.5Y7/3	石英、長石、雲母、白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	30/36	—	—	—
26	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.8	6.8	1.1	—	浅黄2.5Y7/3	長石、雲母	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	24/36	29/36	—	—
27	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.3	6.7	1.0	—	にぶい黄橙10YR7/3	長石、長石	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	18/36	26/36	—	—
28	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	7.3	6.5	1.1	—	にぶい黄橙10YR7/3	長石、雲母、チャート、焼土粒	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	16/36	18/36	—	—
29	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	小皿	8.0	7.0	1.2	—	にぶい黄橙10YR7/4	長石、雲母(多)、チャート	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	35/36	36/36	—	—
30	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	11.2	8.4	2.7	—	灰白10YR8/2	石英、雲母、白色凝灰岩	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	36/36	36/36	—	—
31	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	11.2	8.1	2.9	—	にぶい黄橙10YR7/2	石英、雲母、白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	22/36	15/36	—	—
32	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	11.3	8.7	2.8	—	にぶい黄橙10YR7/3	石英、雲母、白色凝灰岩	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	16/36	18/36	—	—
33	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	11.6	8.3	2.5	—	にぶい黄橙10YR7/3	石英、白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	11/36	12/36	—	—
34	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	11.9	7.4	2.6	—	灰白10YR8/1	石英、雲母	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	11/36	36/36	—	—
35	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	11.9	9.7	2.8	—	灰黄2.5Y7/2	石英、長石、雲母	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	24/36	24/36	—	—
36	10T	12-14	SX22	9	中世土師器	大皿	12.2	9.5	2.8	—	浅黄2.5Y7/3	石英、長石、雲母、チャート 白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	12/36	12/36	—	—
37	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	12.5	8.5	3.2	—	浅黄2.5Y7/4	石英、長石	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	8/36	12/36	—	—
38	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	12.0	9.2	3.2	—	灰白10YR7/1	石英、雲母	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	17/36	27/36	—	—
39	10T	12-14	SX22	9	中世土師器	大皿	11.2	8.0	3.3	—	灰白2.5Y8/2	石英、雲母	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	4/36	18/36	—	—
40	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	11.7	9.2	3.2	—	にぶい黄橙10YR7/3	石英、雲母	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	21/36	14/36	—	—
41	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	11.9	7.9	3.0	—	灰白10YR8/1	石英	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	36/36	36/36	—	—
42	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	11.9	7.8	3.1	—	浅黄2.5Y8/3	石英、雲母	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	8/36	21/36	—	—
43	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	12.0	8.6	3.1	—	にぶい黄橙10YR7/3	石英、雲母、白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	9/36	36/36	—	—
44	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	12.3	9.4	3.2	—	にぶい黄橙10YR7/3	白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	13/36	13/36	—	—
45	10T	12-14	SX22	8	中世土師器	大皿	12.4	8.4	3.5	—	灰白7.5YR8/1	石英、雲母、白色凝灰岩	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	15/36	21/36	—	—
46	10T	16	カクラン	—	青磁	碗	—	7.8	—	—	灰白5Y7/1	明緑灰10GY6/1	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7/36	—	—	かわらけと同時期
47	10T	16	カクラン	—	白磁	皿	—	6.5	—	—	—	明オリブ灰2.5GY7/1	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	—	11/36	—	—	—
48	10T	16	カクラン	—	中世土師器	小皿	8.0	7.0	1.6	—	にぶい黄橙10YR7/3	石英、長石、雲母、白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	36/36	36/36	—	—
49	10T	16	カクラン	—	中世土師器	大皿	13.0	8.5	3.2	—	にぶい黄橙10YR7/2	石英、長石、雲母、チャート	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	11/36	12/36	—	—
50	10T	16	カクラン	—	中世土師器	大皿	11.8	7.5	3.0	—	浅黄10YR8/3	石英、長石	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	32/36	36/36	—	—
51	10T	16	カクラン	—	中世土師器	大皿	13.0	9.5	3.5	—	灰白10YR8/2	石英、雲母、チャート	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	3/36	9/36	—	—
52	10T	22	—	Ⅲb	古代土師器	鍋	(39.2)	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	石英、長石、雲母、白色凝灰岩	粗	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	4/36	8/36	—	—
53	10T	22	—	Ⅳ	古代土師器	無台碗	(11.0)	5.4	3.9	—	橙7.5YR7/6	石英、長石、白色凝灰岩	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	4/36	8/36	—	—
54	10T	12	—	Ⅲa	珠洲焼	皿	10.9	5.2	2.6	—	にぶい黄橙10YR7/2	明緑灰10GY6/1	精	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切	2/36	4/36	—	—
55	10T	4・5	—	Ⅲa	珠洲焼	播鉢	(35.0)	14.0	(15.1)	—	明緑灰7.5YR7/1	白色凝灰岩、海綿骨針	普通	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切	2/36	4/36	—	—
56	10T	12	—	Ⅲa	中世陶器	壺	—	—	—	—	オリブ灰2.5GY5/1	石英、長石、白色凝灰岩	粗	還元	ヨコナデ	ヨコナデ	—	—	—	—	
57	10T	12	—	Ⅲa	中世陶器	壺	—	—	—	—	オリブ灰2.5GY5/1	石英、長石、白色凝灰岩	粗	還元	ヨコナデ	ヨコナデ	—	—	—	—	
58	10T	12	—	Ⅲa	中世陶器	壺	—	—	—	—	オリブ灰2.5GY5/1	石英、長石、白色凝灰岩	粗	還元	ヨコナデ	ヨコナデ	—	—	—	—	
59	10T	1																			

(3) 三王山遺跡 第14次調査 (2013109)

所在地 新潟市江南区所島一丁目760番17

調査の原因 個人住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成25年5月17日 (1日間)

調査面積 12.3㎡ (調査対象面積216.64㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 工事立会

調査に至る経緯 遺跡は昭和48 (1973) 年の発見以降、確認調査や本発掘調査が複数回行われるなど調査履歴は多い。個人住宅建設計画に伴い、埋蔵文化財の取扱いを決めるために着手報告を提出し (平成25年5月13日付新歴B第24号の2)、確認調査を実施した。調査の結果、遺跡の広がりの確認され『文化財保護法』第93条の届出 (平成25年9月30日付) が提出された。

位置と環境 遺跡は、新砂丘Iに比定される亀田砂丘及びその縁辺の自然堤防上に立地する。標高は現地表面で約2.7mを測り、同じ砂丘上やその周辺には平安時代の遺跡が多く点在する。これまでの調査成果によって、古代～中世にかけて断続的に人々の生活が営まれていたことが分かっている [朝岡2010]。

検出遺構 2か所のトレンチを設定した。I層：盛土層、II層：オリーブ褐色シルト、III層：灰色シルト、IV層：ぶい黄色シルトに分層される。III層が遺物包含層、IV層が平安時代の遺構確認面である。現地表面下約65cmでIII層、約75cmでIV層上面が検出される。1Tで溝状遺構1条・浅い土坑1基・ピット2基が、2Tでは溝状遺構1条・土坑2基・ピット1基が検出されるなど遺構密度は高い。遺構の状況を確認後さらに砂丘層 (VIII層) まで約1.8m掘り下げたが、遺構・遺物ともに確認できなかった。

出土遺物 コンテナケース半分ほどの遺物が出土した。図化した5点を含め全て平安時代の所産と考えるが、小破片であり3以外の詳細な時期は不明瞭である。1は土師器無台碗、2は須恵器無台杯、3は9世紀前半の須恵器有台杯、4・5は同一個体で須恵器大甕の体部破片である。2～5は、胎土から笹神丘陵などの阿賀北産と思われる。

まとめ 今回の調査では、古代とともに主体となる中世の遺物は認められなかった。しかし、調査地まで確実に遺跡が広がっている事を確認した。取扱いは、調査後の設計により施工が遺跡に与える影響を軽微にできたため工事立会とした。

(龍田優子)

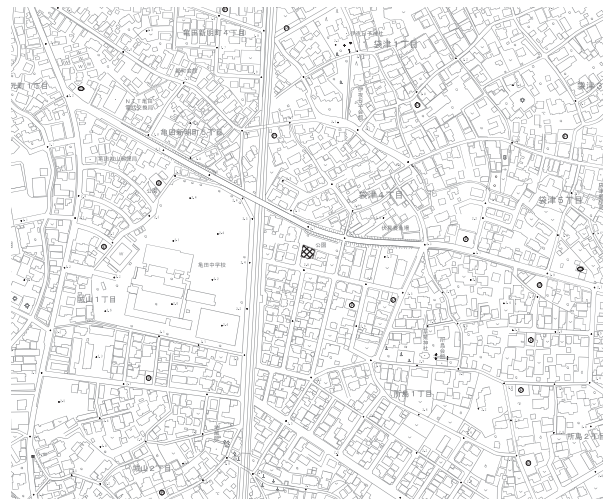


図1 調査位置図 (1/10,000)

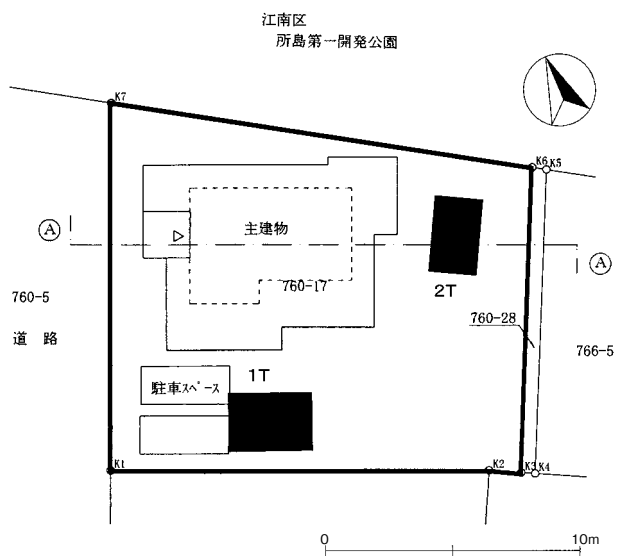


図2 トレンチ位置図 (1/300)

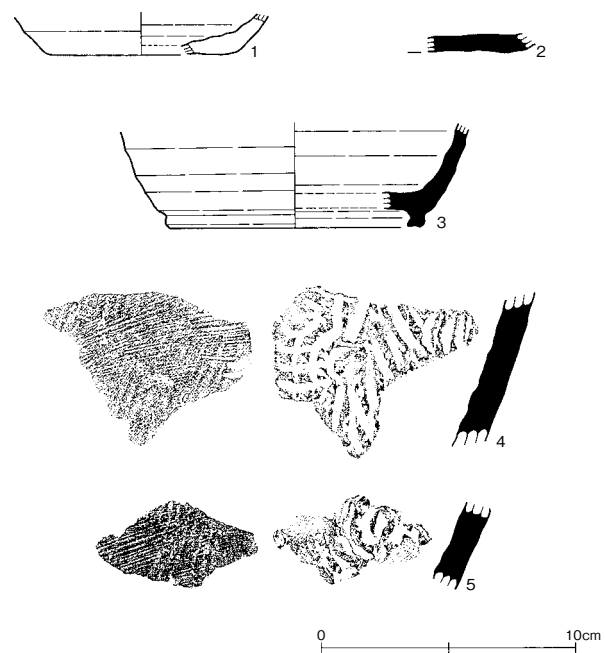


図4 遺物実測図 (1/3)

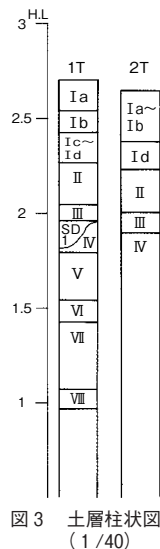


図3 土層柱状図 (1/40)

(4) 新道遺跡 第1次調査 (2013111)

所在地 新潟市西蒲区巻字新道甲4121番1外

調査の原因 葬祭場建設 (民間事業)

調査期間 平成25年5月22・23日 (2日間)

調査面積 75.0㎡ (調査対象面積1649.61㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会

調査に至る経緯 葬祭場建設に伴い、埋蔵文化財の有無を確認するため、着手報告を提出し (平成25年5月20日付)、試掘調査 (2013111) を実施した。その結果、新たに遺跡が所在することが判明したため、『文化財保護法』第93条の届出を提出した (平成25年5月27日付)。

位置と環境 西川右岸の現標高約3.4mの沖積地内、自然堤防上に位置する。周辺は調査歴が少なく、遺跡は希薄である。

基本層序はⅠ～Ⅷ層に分かれる。Ⅰ層：盛土、Ⅱ・Ⅲ層：灰色シルト質粘土、Ⅳ層：暗褐色シルト質粘土、Ⅴ層：褐灰色シルト質粘土である。Ⅴ層が遺物包含層で、3Tでのみ確認された。また遺物は出土していないが、3TⅦ層：褐灰色シルト質粘土で炭が定量認められ、Ⅵ層より下層にも遺物包含層や遺構確認面等が存在する可能性もある。土層の特徴から、周辺は低湿な環境にあったと推測される。

検出遺構 遺構は検出されなかったが、土器が集中して出土していることから、遺構の存在が推測される。

出土遺物 土師器・須恵器がコンテナケースで1箱出土した。いずれも3TのⅤ層出土遺物である。このうち遺存率の高い遺物を中心に計16点実測図を掲載した (図3)。なお、須恵器は1点出土しているが、細片のため掲載しなかった。

1は土師器高杯の杯部と推測する。内面黒色土器である。復元口径は17.1cm。口縁部外面には沈線状に2条の凹みが巡る。内外面ともヘラミガキが認められる。2は土師器鉢で口径9.8cm、器高5.0cm。内外面とも粗いハケメで、ハケメの条間はやや広い。3は小形の壺と推測され、口縁端部を欠損する。内外面ともヘラミガキが認められる。4は底部を欠損するが、形態から甑と推測する。口径16.7cm。頸部外面は口縁部のヨコナデにより段状を呈する。体部外面上半及び体部内面は条間が広めの粗いハケメで、体部外面下半はヘラケズリも確認される。器壁は約1.0cmと比較的厚い。5～15は甕と考える。いずれもハケメが確認できる。6のように体部が張らないものと、7のようにやや体部が張るものがある。13は底部で外方へ突出する特徴をもつ。東北地方の影響を受けた可能性がある。14・15は平底の底部で、器壁は



図1 調査位置図 (1/10,000)



図2 トレンチ位置図 (1/1,000)



3T南壁土層断面 (北から)

厚い。体部が張らない形態と考えられる。16は形態・調整等から円筒形土製品と考えられる。外面はハケメ、内

面は指頭圧痕のちハケメで、粘土紐接合痕も確認される。

まとめ 今回の調査結果を受け、新道遺跡（新潟市遺跡番号756番）として新たに周知化された。

取扱いについては、建物基礎部分の掘削において工事立会を実施した。

遺物の年代は、形態や法量、調整技法などから、春日編年〔春日1999など〕Ⅲ期（8世紀前半）を中心とした

時期と考える。今回の調査で微高地上に遺跡の存在することが確認されたことから、当地域周辺で今後新たに遺跡が発見される可能性も考えられる。市内で資料数が少ない時期でもあり、当該期の社会の動向を探るうえで重要な資料といえる。なお、出土遺物については（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団春日真実氏・（株）吉田建設笹澤正史氏からご教示頂いた。（相田泰臣）

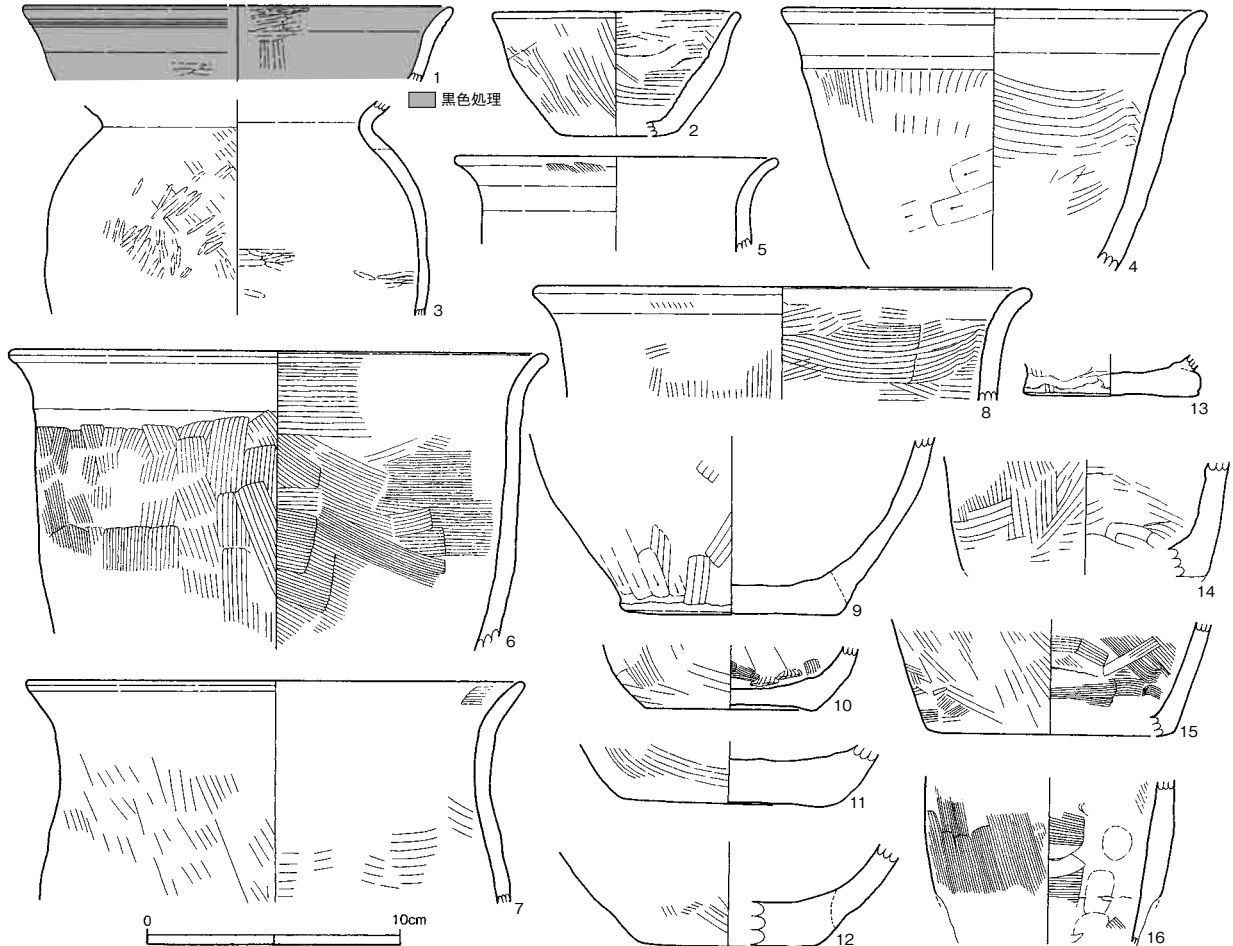


図3 遺物実測図（1/3）

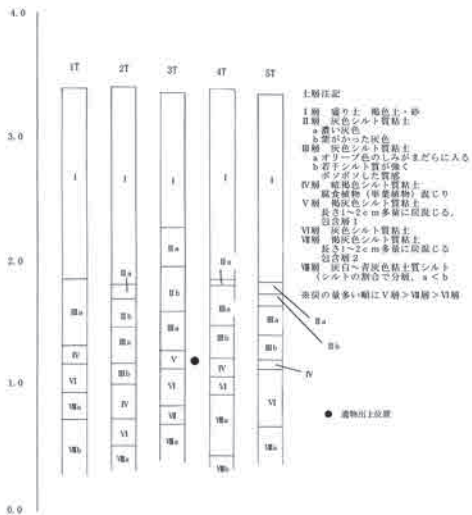


図4 土層柱状図（1/60）

表1 実測図掲載遺物一覧

掲載番号	出土位置	種別	器種	調整	
				外面	内面
1	3T V層	内面黒色土器	高杯	ヘラミガキ	ヘラミガキ
2	3T V層	土師器	鉢	ハケメ	ハケメ
3	3T V層	土師器	壺	ヘラミガキ	ヘラミガキ
4	3T V層	土師器	甕	ハケメ・ヘラケズリ	ハケメ
5	3T V層	土師器	甕	ハケメ	
6	3T V層	土師器	甕	ハケメ	ハケメ
7	3T V層	土師器	甕	ハケメ	ハケメ
8	3T V層	土師器	甕	ハケメ	ハケメ
9	3T V層	土師器	甕	ハケメ・ヘラケズリ	
10	3T V層	土師器	甕	ハケメ	ハケメ
11	3T V層	土師器	甕	ハケメ	
12	3T V層	土師器	甕	ハケメ	
13	3T V層	土師器	甕	ハケメ	
14	3T V層	土師器	甕	ハケメ	ハケメ
15	3T V層	土師器	甕	ハケメ	ハケメ
16	3T V層	円筒形土製品		ハケメ	ハケメ・指頭圧痕

(5) 山木戸居付遺跡 第1次調査 (2013113)

所在地 新潟市東区山木戸四丁目376番地1外

調査の原因 長屋建設 (民間事業)

調査期間 平成25年6月5・6日 (2日間)

調査面積 約27㎡ (調査対象面積1,461.39㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会

調査に至る経緯 長屋建設に伴い東区役所建設課から『都市計画法』第32条に基づく意見照会があった (平成25年3月28日付)。埋蔵文化財の有無を調べるため着手報告を提出し (平成25年5月31日付)、試掘調査を行った。その結果、埋蔵文化財が確認されたことから新発見遺跡として周知化した。そのことを受け、『文化財保護法』第93条の届出が提出された (平成25年8月30日付)。

位置と環境 調査地は、阿賀野川右岸の新砂丘Ⅱ-4である牡丹山砂丘に立地する。現地標高は約0.6mを測り、約200m東には古代・中世の集落跡である山木戸遺跡が位置している。周辺は、開発により宅地化が進み畑地がまばらに残る程度である。

検出遺構 4か所のトレンチを設定した。基本層序はⅠ層：盛砂・暗褐色砂、Ⅱ層：暗褐色砂、Ⅲ層褐色砂 (暗褐色砂がまだらに混じる)、Ⅳ層：黄褐色砂に分かれる。Ⅰ層が表土、Ⅱ・Ⅲ層が遺物包含層、Ⅳ層が遺構確認面と考えられるが、今回の調査で遺構は検出されなかった。現地表面から0.2~0.4mの深さで包含層上面が検出される。

出土遺物 1~3Tから弥生土器・須恵器・珠洲焼・近世陶磁器が出土し、6点を図化した (図3)。1は外面が赤彩された弥生土器である。横位沈線より上部は縄文が施文され、壺と推測される。2は須恵器無台杯、3~6は珠洲焼片である。3は壺、5はすり鉢とともに吉岡編年のⅢ期 [吉岡1994] と思われる。4は甕で6は土器片円板である。

まとめ 本遺跡は新発見遺跡であり、小字名から山木戸居付遺跡とした。出土遺物からは、弥生時代から断続的に中近世まで営まれた遺跡と推測される。取扱いは、協議の結果、工事の掘削幅が1.0m以下となったため工事立会とした。 (龍田優子)



1T北壁土層断面 (南から)

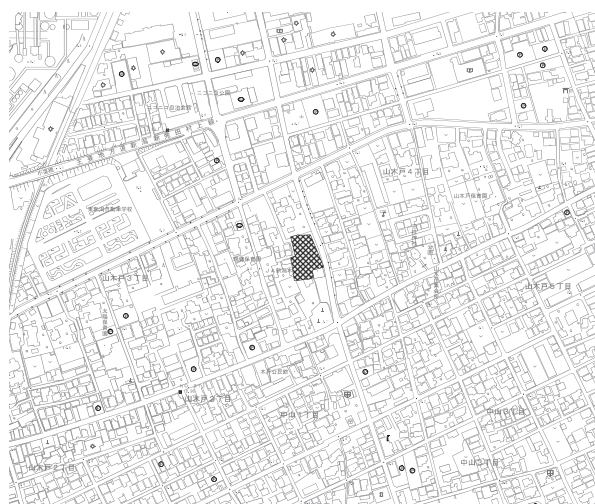


図1 調査位置図 (1/10,000)

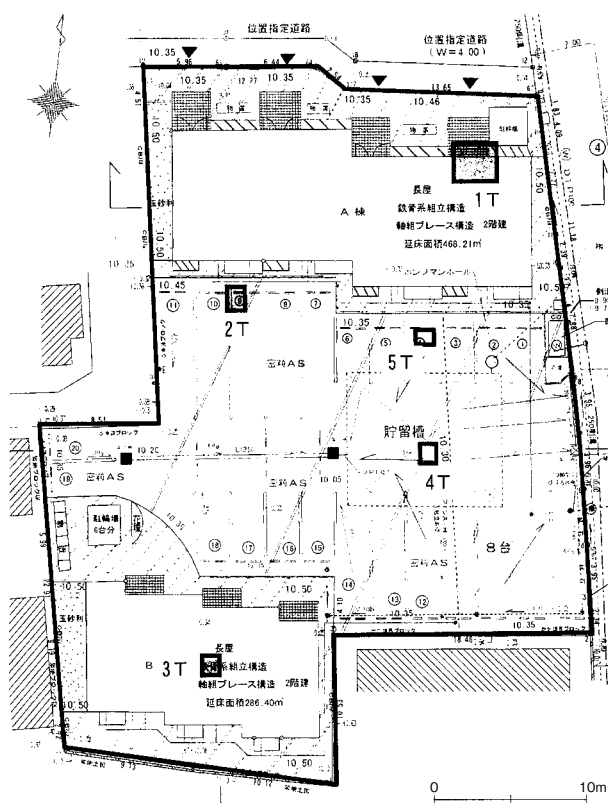


図2 トレンチ位置図 (1/500)

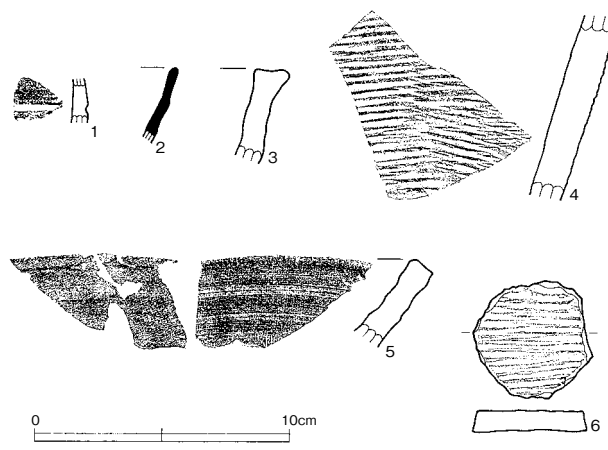


図3 遺物実測図 (1/3)

(6) 桜大門遺跡 第4次調査 (2013134)

所在地 新潟市秋葉区西島字大和167番地外
 調査の原因 農業用倉庫建設 (民間事業)
 調査期間 平成25年7月22日 (1日間)
 調査面積 9.16㎡ (調査対象面積228.09㎡)
 調査担当 朝岡政康
 処置 工事立会

調査に至る経緯 農業用倉庫建設に伴い、平成25年6月21日に『文化財保護法』第93条の届出が出された。取扱いを決めるために、平成25年7月16日付新歴B第53号の3で着手報告を提出し、確認調査を実施した。

位置と環境 桜大門遺跡は新津丘陵西側の北西方向に伸びた丘陵先端部に位置し、調査箇所は西側には沖積地が広がっている。遺跡は古くからある西島集落の中にあり、集落内にある連徳寺境内は中世の西島館跡に比定されている。調査地点の標高は約8.4mを測る。

調査成果 1か所のトレンチを設定した。丘陵上の遺跡のために堆積土は65cm程で厚くはないが、Ia・Ib層：盛土層、Ic・Id層：攪乱層、II層：暗褐色シルト層、III層：黄褐色シルト層 (丘陵の基盤層) に分層される。II層・III層間には攪乱層を挟む場所もある。

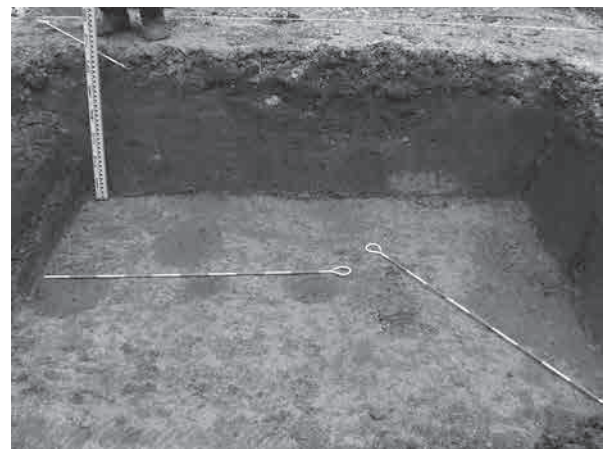
II層は、平安時代の可能性が高い遺構 (ピット：P1・P2) の覆土と類似する暗褐色シルト層であり、本来の遺物包含層の可能性が高いが、調査地点では攪乱によりほとんど遺存していなかった。

検出遺構 III層上面でピット5基と土坑2基が検出された。遺構は覆土により、①類：II層の暗褐色シルト層と同質のもの、②類：II層より上層の黒褐色シルト層と同質のものに2分類された。①類のP1・P2はII層と同質の暗褐色シルトが覆土となっており、平安時代の可能性が高いと考えられている。②類のP3～P5はいずれも黒褐色の覆土で、P3から近世以降の陶磁器が出土したことから、他の2基もこれと同時期の遺構と考えられている。検出された土坑2基も同類である。この黒色シルト層には近世陶磁器や現代遺物を混入し、III層を直線的に切っている部分も見られたことから、後世に改変を受けた土層と考えられている。また、平安時代の遺物もこの層から出土するが、II層を削平したことによる混入と考えられている。

出土遺物 I層盛土層や攪乱層から平安時代の須恵器・土師器、珠洲焼・近世陶磁器がコンテナケース1箱出土した。図化したものは須恵器大甕2点 (2・3)、珠洲焼の壺 (1) である。珠洲焼はIV期頃 [吉岡1994] か。この他に須恵器杯蓋、土師器椀・甕小破片がある。近世陶磁器は17～19世紀頃のもの。4は工事立会の際に



図1 調査位置図 (1/10,000)



北壁土層断面及び遺構確認状況 (南から)

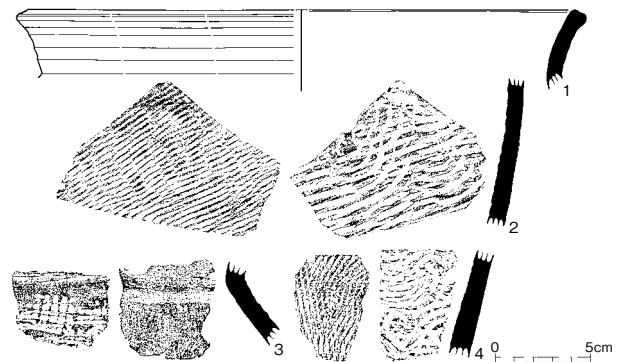


図2 遺物実測図 (1/4)

出土した須恵器大甕体部破片である。

まとめ 確認調査の結果、遺物包含層は攪乱を受けているが、遺構検出面は良好に遺存していることが判明した。農業用倉庫の基礎は盛土内に納まり、保護層も確保されることから工事立会に対応することとなった。

(渡邊朋和)

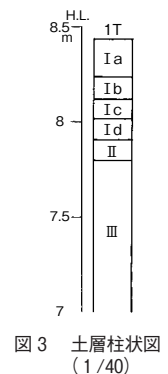


図3 土層柱状図 (1/40)

(7) 日水南遺跡 第6次調査 (2013142)

所在地 新潟市江南区日水一丁目481外

調査の原因 駐車場造成 (民間事業)

調査期間 平成25年6月17・18・20・21・24～26日
(7日間)

調査面積 14㎡ (調査対象面積2,500㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 現状保存

調査に至る経緯 日水南遺跡は、平成24年度に寺院の駐車場造成に伴い、確認調査 (第5次・2012159) を実施した [金田2014]。その結果、掘削工事の際に工事立会を行うこととなり、調査範囲の西部に位置する小丘について現代の盛土と判断し工事立会を行った。この工事立会時に小石が多数確認されたが、この時点では遺物として認識しておらず工事立会後にこの小石が一石経ということが判明した。そのため、工事立会によって削平された小丘が経塚である可能性が推察された。以上の経緯を踏まえて、埋蔵文化財の状況を確認することを目的に、平成25年6月17日付で着手報告を提出し、追加の確認調査を実施した。その後、平成25年7月16日付で『文化財保護法』第93条の届出が提出された。

現状では工事に伴い、小丘の上部は削平されている。

位置と環境 日水南遺跡は新潟砂丘の新砂丘 I - 1 (亀田砂丘前列) の東側斜面に位置する。現地は標高約8mを測り、西から東に向かって傾斜しその比高差が約5mある。

これまでにも複数回調査が行われており、第5次調査では、縄文・古墳・平安時代の遺物やそれらと同時代と考えられる遺構が確認されている [金田2014]。

また、同一砂丘列上に多くの遺跡が所在し、砂丘上を中心に人々が生活を営んでいたことが分かっている。

検出遺構 今回の調査では、経塚の可能性のある小丘があった地点に長さ南北約13m、東西約14m、幅約50～60cm程の2本のトレンチを十字に設定した。

基本層序は、I層：表土、IIa層：暗褐色砂層、IIb層：暗褐～黒褐色砂層、III層：褐色砂層、IV層：黄褐色砂層に分けられる。第5次調査の成果から、IIb層が縄文～平安時代の遺物包含層、IV層が遺構確認面となる。

遺構確認面であるIV層から土坑 (SK) が1基、時期不明のピット (P) 1基、性格不明遺構 (SX) 5基が確認されている。遺構は検出状況のみ記録した。土坑 (SK 2) は検出時点で縄文土器が確認できたことから、縄文時代と考えられる。

トレンチの十字に重なる位置より北西の地点で一石経が集中して確認された。この地点は小丘の中心部に近



図1 調査位置図 (1/10,000)

く、一石経は遺物包含層であるIIb層を掘り込んだ地点に一括で出土した。このことから小丘は平安時代以前の遺物包含層を掘り込んで一石経を埋納した経塚と考えられる。SX 4・7・8は、経塚を構成するIIb層を切っている性格不明遺構及び落ち込みである。なかでも、SX 4はその上層にIIa層が存在しており、経塚に近い時期の遺構と推定できる。そのため、この3つの遺構が経塚の端部を形成するための遺構と考えられる。以上の結果と削平以前の地形図から経塚は一辺5～6mの方形と推定されており、高さは現存で0.9m程度となる。

出土遺物 今回の確認調査では、縄文土器・弥生時代から古墳時代にかけての土器・近世陶磁器・一石経が出土している。土器は、コンテナケース4箱程度である。うち、土器8点を図化した。一石経に対しては、赤外線撮影を行い文字の判読を行っている。また、一石経は今回の確認調査付近で行われた工事立会 (2013143) 時に採集されたものも含めている。

1はIIb層から出土した鉢の口縁部破片である。平口縁で、外面に斜行縄文が施されている。胎土には、繊維の混入が見られる。縄文時代前期前葉と考えられる。2はIIb層から出土した胴部破片である。細片のため器形不明である。外面に細く集合した沈線文が縦に施されている。南三十稲場式新段階と考えられ、縄文時代後期前葉と推定される。3はIIb層または攪乱から出土した深鉢の胴部破片である。外面に2条の沈線文が横位に施されており、それより下位に羽状縄文が施されている。縄文時代晩期前葉から中葉と考えられる。

4はSX 3の1層から出土した壺の口縁部破片である。内外面にミガキ調整・赤彩が施されている。5はIIb層から出土した壺の胴部破片である。外面にミガキ調整・赤彩が施されている。内面にはハケメ調整が施されている。6はIIb層から出土した小形の壺の口縁部破片であ

る。7は表土から出土した器台の破片である。内外面にミガキ調整・赤彩が施されている。4点とも弥生時代終末から古墳時代初頭にかけてと推測される。

8はⅡb層または攪乱から出土した備前磁器碗の口縁部破片である。二重網目模様の染付けが確認でき、18世紀ごろと考えられる。

先述の通り、経塚はすでに上部が削平されている状況であり、一石経はトレンチ内で一括して出土した資料以外にも、トレンチ内及び周囲で確認できる状況であった。それら全ての資料を合わせると、経石と考えられるものは328点であり、その内、墨痕が確認できるものは182点となる。さらに、文字が判読または推定できるものは64点となっている。墨痕が確認できるものが全体の約60%、文字が判読できる資料にいたっては約20%である。また、一石経の調査事例では総数が1万点を超える事例が珍しくなく〔池田1999など〕、日水南遺跡においても出土状況を加味すれば、経塚造営時に埋納された一石経の数量はさらに多かったと推測できる。

出土した一石経は単語あたりの字数と書かれている面数から7つに分類できる(表1)。1字のみのものが一字一石経と呼ばれるものである。なかには、石の代わりに土器片を用いるものもあるが、2点のみのため意図的に用いたとは考えづら

表1 一石経分類表

分類	点数
片面1字	149
土器片面1字	2
両面1字	20
3面1字	3
片面2字	5
両面2字	1
黒塗り	2
合計	182

表2 日水南遺跡出土一石経文字一覧

1字						
右(2)	王(1)	過(1)	臥(1)	願(1)	議(1)	供(1)
行(1)	驅(1)	應(1)	五(1)	功(1)	劫(1)	業(1)
之(1)	今(1)	左(1)	又(1)	座(1)	齋(1)	薩(2)
三(1)	衆(1)	生(1)	諸(1)	身(1)	人(1)	是(3)
千(1)	善(2)	其(1)	草(1)	属(1)	陀(1)	大(2)
坏(1)	天(1)	當(5)	汝(1)	若(1)	念(2)	便(1)
福(1)	佛(1)	夜(1)	業(1)	有(3)	世(1)	

2字						
□以	海□	解□	□之	南無	衆生	百十

※□は、不明文字である。不確定の字も含まれる。
※字横の括弧は、確認数であり、2字は1つしか確認されなかった省略している。



主要一石経 (右下 越前焼の可能性ある土器片)

い。細片のため詳細は不明だが、1つは近世の越前焼の可能性が考えられる。また、複数面に書かれているものも存在する。一方で、小数であるが2字書かれているものがある。これは多字一石経と呼ばれるものである。多字一石経にも複数面に書かれているものも存在する。また、墨書ではなく全面黒塗りのものが2点確認できる。

表2が判読できる文字の一覧である。一石経に書かれている内容は、主に経典を書き写したものと経塚造営に係わるものと考えられている。特に一字一石経は経典を書き写していると考えられ、なかでも『法華経』が書き写されている事例が多く報告されている。日水南遺跡においても判読できる文字の内、1字のものは全て『法華三部経』内で確認できる文字である。しかし、その他の経典においても確認できる可能性がある。また、2字のものは「衆生」など仏教に係わる単語であるが、経典内の文字かは不明である。さらに、複数面に文字が書かれているものについては、他の事例では書き損じによる書き直しなどが指摘されているが〔水野ほか1985〕、日水南遺跡では全く別の字が書かれているため、書き直しの可能性は低く複数面に書かれた理由は不明である。

まとめ 一石経の経塚は中世から確認され、近世に全国的に普及する。土器片を用いた一石経の土器片が近世の越前焼の可能性のあることから、日水南遺跡の経塚は近世に造営されたと考えられる。

また、経塚は寺院敷地内にある。この寺院の開基については諸説あり、詳細は不明である。しかし、この寺院は曹洞宗であり、寺院で読まれる『法華経』の「観世音菩薩普門品第二十五」では、一石経で確認された文字48字の内7字確認できない。そのため、寺院とは直接の関係が無い可能性もある。しかし、地域の歴史を考える上で重要な資料であることには間違いない。

経塚以外にも、経塚の下層からは縄文時代の土坑を含む遺構が数基確認されている。遺物は縄文土器や弥生時代終末から古墳時代初頭に掛けての土器などこれまでの調査成果とも一致している。特に、今回は縄文時代前期前葉の土器が確認されたことも注目される。

取扱いについては、今回の確認範囲は工事による掘削を行わない予定のため、土嚢を入れて埋め戻し、現状保存としている。

今回の確認調査にあたり、新潟県教育庁文化行政課滝沢規朗氏、柏崎市教育委員会伊藤啓雄氏に現地にてご指導いただいた。一石経の判読について帝京大学相澤央氏、経典及び寺院の来歴等について栄徳寺茅原雅道氏にご教示いただいた。(金田拓也)

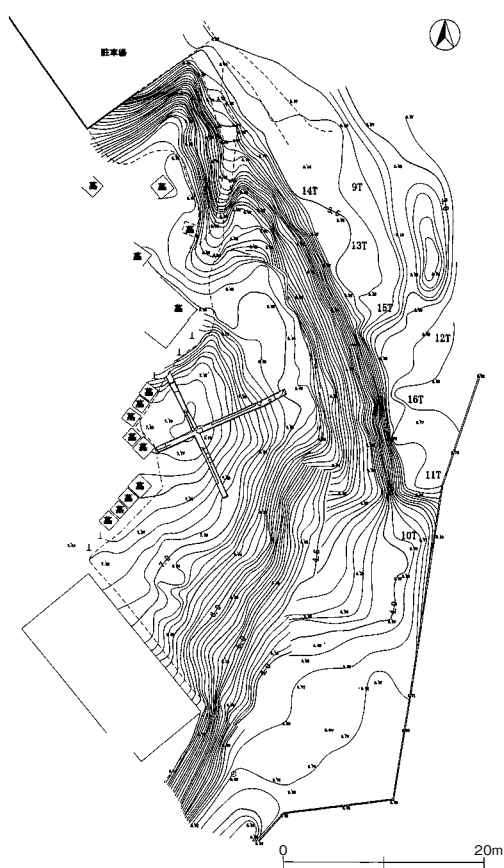


図2 トレンチ位置図 (1/750)

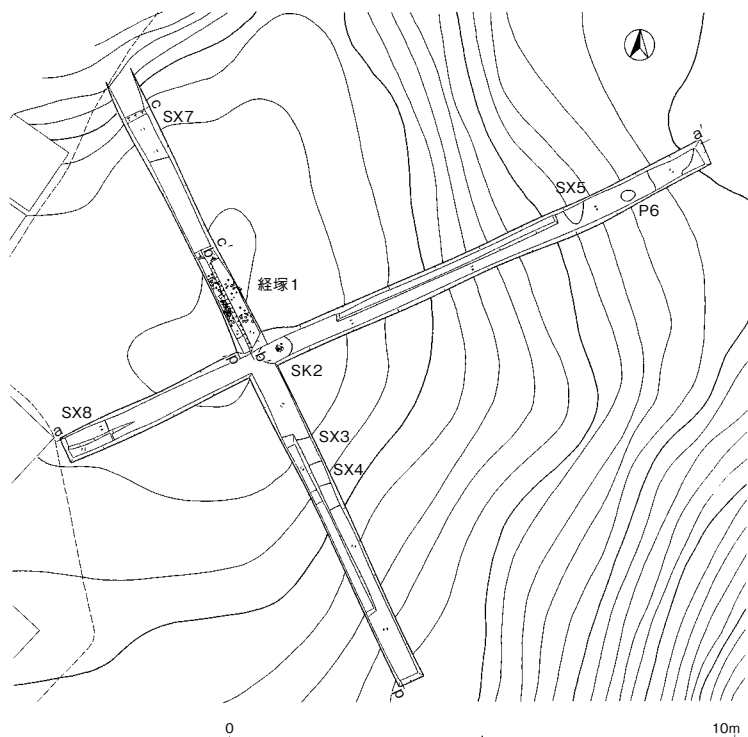
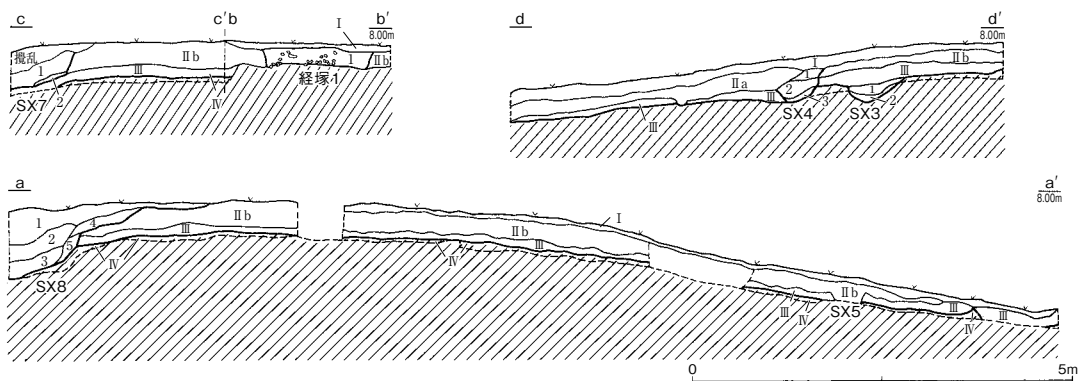


図3 調査区平面図 (1/150)



基本層序	経塚1	SX3	SX4	SX7	SX8
I層 表土	1層 暗褐～黒褐色砂 しまりあり。 IIb層類似。	1層 暗褐色砂	1層 暗褐色砂 IIa層類似。	1層 暗褐色砂 しまりややあり。	1層 暗褐色砂 根多く混じる。
IIa層 暗褐色砂 しまり弱い IIb層より明るい。		2層 褐色砂	2層 黒色砂 粘性ややあり。	2層 褐色砂 2層混じる。	2層 黒褐色砂
IIb層 暗褐～黒褐色砂 しまりあり。(遺物包含層)		3層 褐色砂	3層 褐色砂		3層 黒褐色砂
III層 褐色砂 黄褐色・黒褐色砂混じる。					4層 暗褐色砂 細砂混じる。
IV層 黄褐色砂 (遺構確認面)					5層 褐色砂

図4 調査区断面図 (1/100)

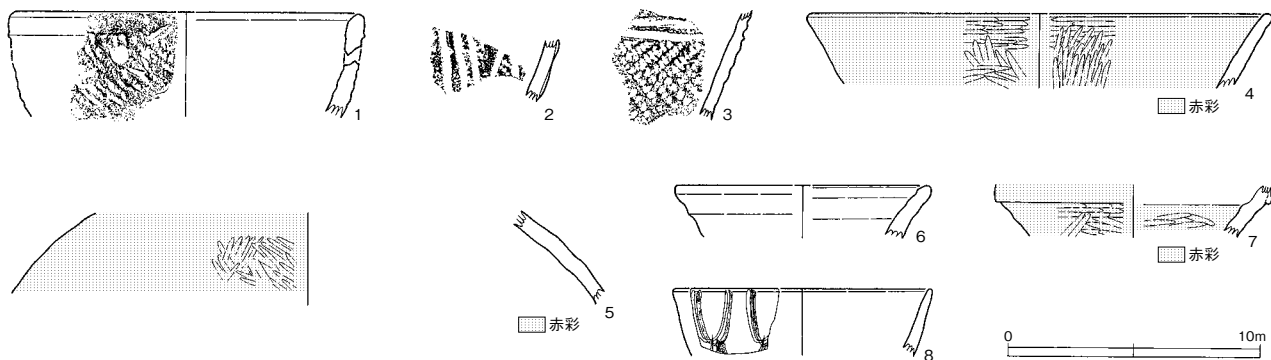


図5 遺物実測図 (1/3)

(8) 塩辛遺跡 第7次調査 (2013155)

所在地 新潟市秋葉区朝日112番6
 調査の原因 個人住宅建設 (民間事業)
 調査期間 平成25年9月6日 (1日間)
 調査面積 3.64㎡ (調査対象面積335.74㎡)
 調査担当 朝岡政康
 処置 慎重工事

調査に至る経緯 個人住宅建て替えに伴い遺跡の広がりを確認するため平成25年9月4日付新歴B第66号の2で着手報告を提出し、確認調査を実施した。その結果、平成26年4月8日付で『文化財保護法』第93条の届出が提出された。

位置と環境 塩辛遺跡は、古津駅東側に位置し、現在の東大通川の南側、東西約250m、南北約150mの範囲に広がる。新津丘陵北西に隣接する微高地で、丘陵末端から沖積地にかけて広がる扇状地に立地する。付近では第二次世界大戦後に水田が埋め立てられ、宅地造成が進んでいる。調査地点の現在の標高は約7.8mである。

塩辛遺跡では、これまでにも試掘・確認調査や下水道工事等に伴う工事立会で、弥生時代中期末・古墳時代中期末～後期初頭・飛鳥時代・奈良・平安時代の遺物が検出されている。古墳時代と奈良・平安時代の遺物が間層(砂層)を挟んで積層しており、洪水等に見舞われながらも、断続的に集落が営まれたものと推察される。隣接する台地や沖積地にも遺跡が広範囲に分布し、塩辛遺跡の西側には古津八幡山古墳との関連が指摘されている大規模な舟戸遺跡があるが、時代によって居住域を移動した同一遺跡になる可能性が高い。

調査成果 調査時には古い建物が残されていたために、宅地内の庭に1か所のトレンチしか設定することができず、遺構は検出されなかった。

層序は図2に示したが、115cm程の盛土層 (Ia・Ib・Ic層)があり、その下層を75cm程調査している。調査成果によれば、Ⅲ層とⅧ層が砂層で他は粘質土層。Ⅱ層とⅥ層から遺物が出土している。盛土直下のⅡ層から遺物が出土しているが、この層が本来の表土ではなく、盛土をする前に、元来の表土である水田耕作土を掘削した後に盛土を行ったことに起因するものと推測される。

出土遺物 1はⅡ層、2はⅣ層出土である。1は基部を欠損する羽口先端部。全周の1/4程が残っており、現存長6cm、推定外径5cm、内径1.7cm程度を測る。先端部は緑灰色に溶解し、滓に垂れ下がったと思われる部分が破面となっている。直径0.5～4mm程度の砂粒を含む硬質な胎土で、長石粒を多く含む。鍛冶用の羽口であろう。2は外面に附加条第1種RL+Rを斜位に施文



図1 調査位置図 (1/10,000)



塩辛遺跡周辺 (米軍撮影)



北壁土層断面 (南から)

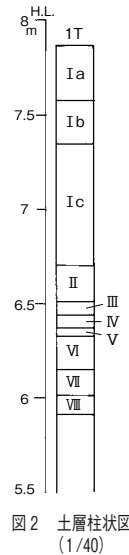


図2 土層柱状図 (1/40)

し、条を縦走させる。弥生時代後期の天王山式系土器で、古津八幡山遺跡に多くあり、隣接する舟戸遺跡からも出土している。この他に小片の為に図示していないが、1と共に出土した土器片が1点ある。内外面磨耗した小片で、砂粒の少ない胎土は古墳時代の土師器の可能性が高い。

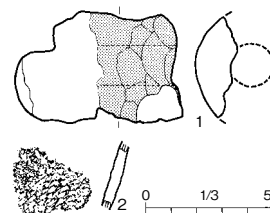


図3 遺物実測図 (1/3)

(渡邊朋和)

(9) 前山遺跡 第7次調査 (2013162)

所在地 新潟市江南区北山字前山264番外

調査の原因 共同住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成25年10月8・9日 (2日間)

調査面積 42㎡ (調査対象面積986㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会

調査に至る経緯 前山遺跡は、昭和42 (1967) 年頃の土取り工事によって広範囲に包含層が削平された。その後、昭和61 (1986) 年に包含層等の状況確認のため、発掘調査 (第1次・1985105) が行われ、一部の範囲で遺物包含層及び遺構の残存が確認された [酒井1987]。

共同住宅建設に伴い平成25年9月27日付で調査の依頼及び工事の届出が提出された。これを受けて平成25年10月1日付で報告し、確認調査 (第7次調査) を実施した。

位置と環境 前山遺跡は、新潟砂丘で最も内陸側の亀田砂丘 (新砂丘 I - 3) の南西斜面に立地する。現況の標高は約34mで、周囲は畑地となっている。

これまでの調査によって、主に古代 (奈良・平安時代) の土師器・須恵器等が確認されている。

同じ砂丘列南斜面周辺には金塚山遺跡・彦七山遺跡が並列するように所在し、両遺跡からも古代の土師器・須恵器などが確認されている。

検出遺構 基本層序は I ~ VI 層に分かれる。I 層：盛土、II 層：灰褐色～黄褐色砂混じり粘土、III 層：シルト混じり粘土であり、遺物包含層は II 層である。3 T では遺物包含層は確認されなかった。明確な遺構は確認されなかったが、3 T では遺構の可能性のある落ち込みが III 層上面で認められた。落ち込み内からは土器 (3) が出土した。

出土遺物 土師器と石製品がコンテナケースで2箱分出土した。掲載遺物は、1・2が2 T の II a 層、3が3 T の落ち込み内、4が4 T の Id 層、5が1 T I 層からの出土である。

1は高杯で、杯部は内湾しながら立ちあがる半球状の体部に短く外反する口縁端部が付く。脚部は短い中実脚で、脚裾部に向かって内湾気味にのびる。裾部との境界付近には段状の括れが巡る。杯部内外面および脚部外面はヘラミガキ調整である。

2・3は壺または甕の底部である。3は外面に指頭圧痕が観察される。

4は甕の口縁部である。外反する口縁部で、端部を丸く収める。内外面ともにハケメ調整が認められる。

5は敲石・磨石状石製品である。円形でやや平べったい形態をなす。石材は凝灰岩である。

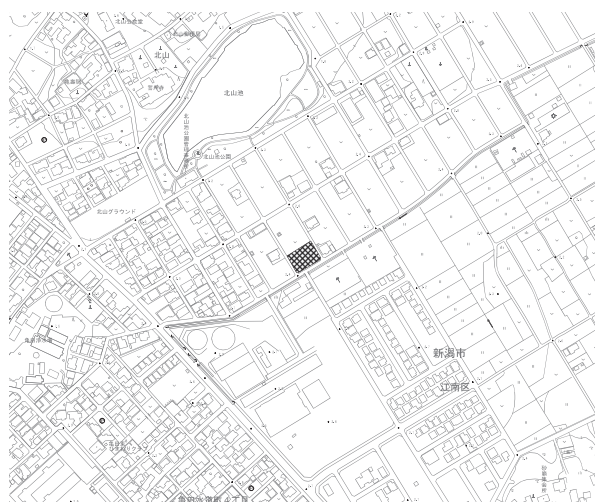


図1 調査位置図 (1/10,000)



調査風景 (3 T)



実測遺物写真

まとめ 1は形態や法量等から春日編年のII期 (7世紀) を中心とする時期が推測される。

取扱いについては、表土のすきとり及び側溝掘削時に工事立会を行った。遺構・遺物とも確認されなかった。

(相田泰臣・金田拓也)

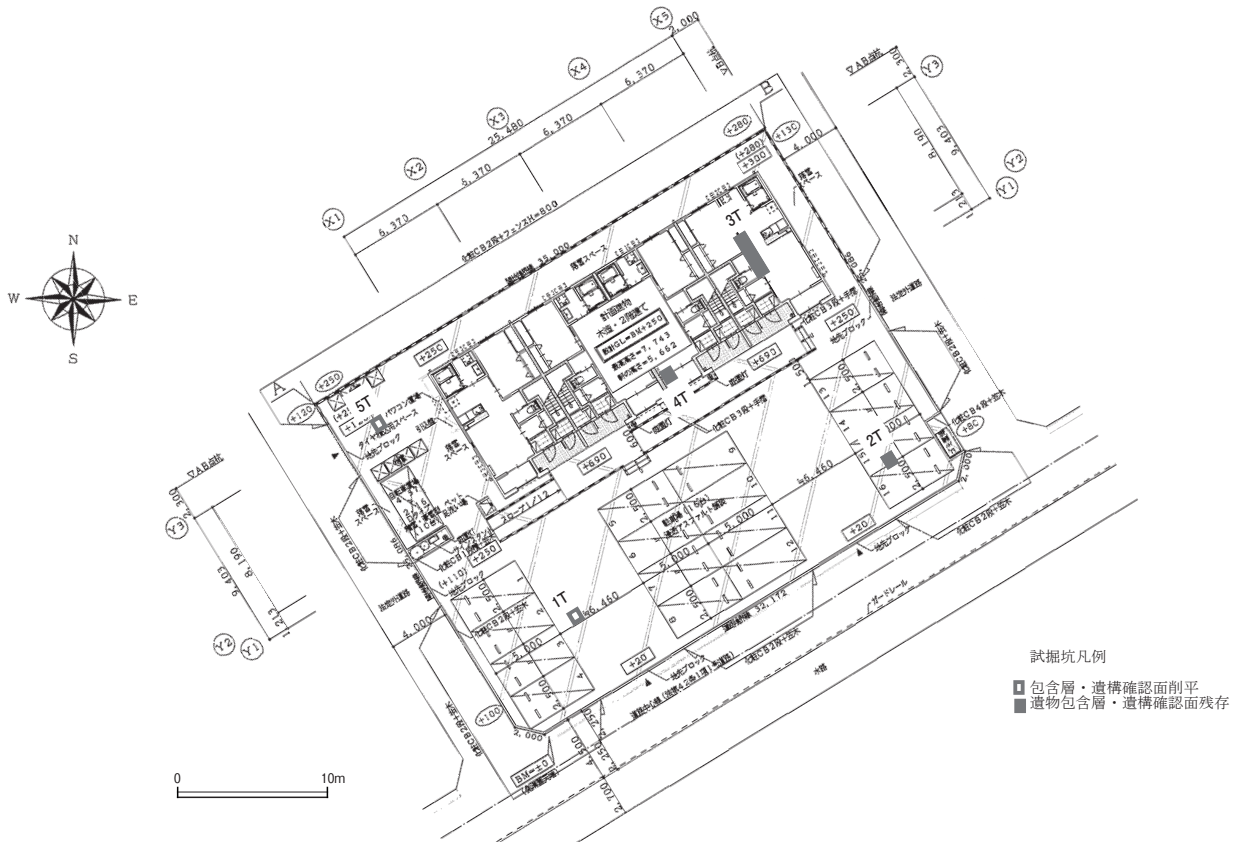
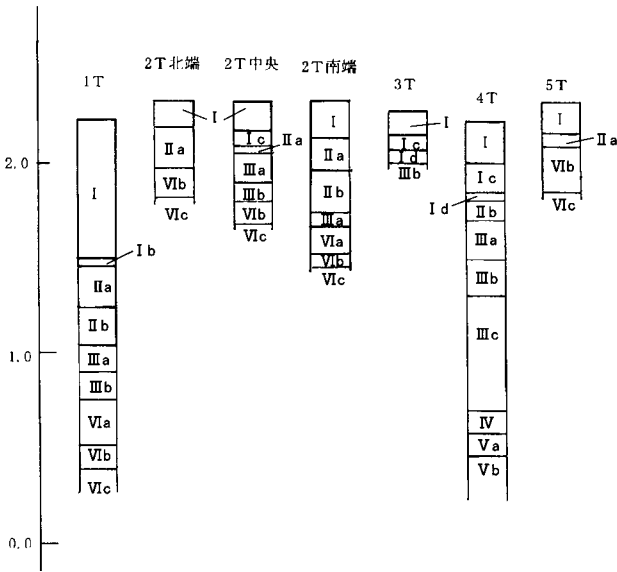


図2 トレンチ位置図 (1/500)

単位 m



基本層序
 I層: a褐色土, b黄褐色砂, c暗褐色土, d褐色土に黄褐色土まだらに混ざる (すべて盛り土)
 II層: 砂混じり粘土 a灰褐色, b黄褐色 (遺物包含層)
 III層: シルト混じり粘土 a灰白色, b灰黄褐色, c灰褐色シルトと互層
 IV層: 褐色粘土・灰色砂の互層
 V層: 砂混じり粘土 a灰白~灰褐色, b暗灰褐~黒褐色 ※下層ほど砂気が強まる
 VI層: 砂 a暗褐色, b褐色, c黄褐色

図3 基本層序 (1/40)

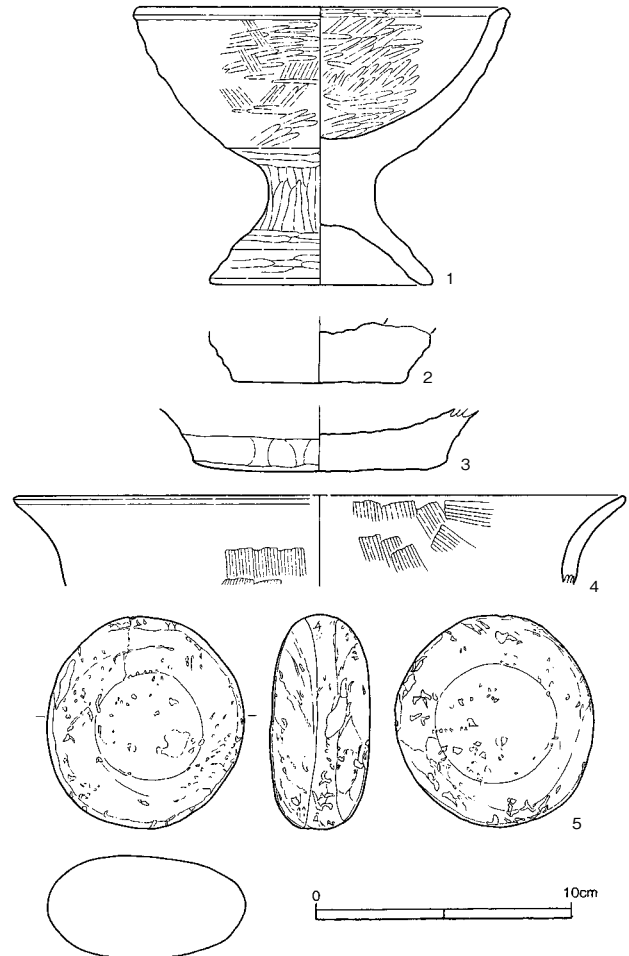


図4 遺物実測図 (1/3)

(10) 前田遺跡 第11次調査 (2013215)

所在地 新潟市西区山崎1044番地外

調査の原因 個人住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成26年2月21日 (1日間)

調査面積 15.4㎡ (調査対象面積234㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 慎重工事

調査に至る経緯 遺跡隣接地で計画された個人住宅建設に伴い、埋蔵文化財の取扱いを決めるために、平成26年2月19日付新歴B第223号の2で着手報告を提出し、確認調査を実施した。調査により遺跡の広がりが確認されたために『文化財保護法』第93条の届出が3月18日に提出された。

位置と環境 前田遺跡は新砂丘Ⅱ-a列の南斜面に立地し、東西700m、南北20m程の範囲に細長く広がる。佐潟・御手洗潟の砂丘列の延長上に位置し、周囲の砂丘上には縄文時代から中世にかけての遺跡が多数分布する。

調査地点は遺跡の南西端にあたり、南側には砂丘間低地が広がる。調査地点の標高は4.5~4.8mを測る。

これまでも昭和63 (1988) 年に確認調査〔藤塚1989〕、平成11年に本発掘調査 (第5次調査)〔廣野2000〕が行われ、弥生時代中期後葉・飛鳥~平安時代・中世にかけての遺物が出土している。第5次調査は、砂丘南端に沿って設けられた用排水路の改修に伴い全長500mにわたって行われたもので、弥生土器が調査区南側 (報告書記載のX区) で検出されている。

調査成果 トレンチを2か所設定したが、遺存状況の良好な1Tの層序を図示する (図3)。層序は、I層：盛砂層、II層：黄灰色砂層、III層：浅黄色粘土層に黑色砂がブロック状に混入、IV層：黑色砂層 (遺物包含層)、V層：黑色~暗褐色砂層、VI層：暗灰黄色~黄灰色砂層 (砂丘基盤層) である。IV層から弥生土器がまとまって出土しており、遺物包含層として遺存状況も良好であった。第5次調査のVI層に対応するものと考えられる。遺構は、1Tで溝状遺構が検出されたが、III層を切って構築されており、近現代の遺構と考えられている。

出土遺物 弥生土器を3点図示した (図2)。いずれも1トレンチIV層出土である。1は甕で、内湾状の口縁部から体部上半にかけての破片。細かいハケメ調整後、口縁部はナデ、頸部には横位に櫛描直線文を3条入れるが、擬似簾状文となる止めが2か所ある。内面はハケメ調整後、口縁部ヨコナデ、体部ナデ調整である。色調は橙色で1mm以下の長石を含む。2は頸部に櫛描直線文を3条入れる壺。1同様止めが2か所ある。外面はハケメ、内面はハケメ調整後ナデ調整。色調は淡褐色で、胎土は1に似る。3は底部で、外面はハケメ後ナデ、内面はナ



図1 調査位置図 (1/10,000)



1T北壁土層断面 (南から)

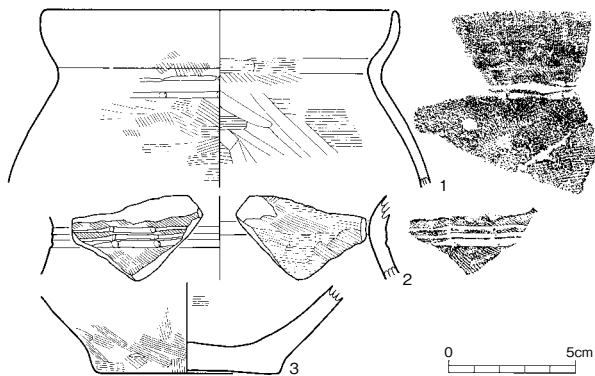


図2 遺物実測図 (1/3)

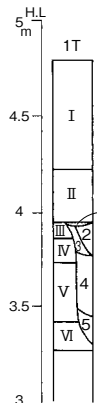


図3 土層柱状図 (1/40)

デ調整。色調は淡褐色で、1・2に比べ1・2mm程度の砂粒を多く含む。1・2は口縁部形態や擬似簾状文から中部高地の弥生時代中期末~後期初頭の頃のもの、3は同時期の北陸系土器であろう。

まとめ 確認調査では弥生土器しか出土しておらず、第5次調査結果に近い。前田遺跡の中でも弥生時代の中心域が南側にあることを示している。

(渡邊朋和)

(11) 近世新潟町跡 試掘・確認調査及び工事立会

(a) 近世新潟町跡の概要

新潟町は日本海有数の湊町であった。古新潟町と呼ばれる場所から明暦元（1655）年に現在の信濃川左岸の河口付近へ移転し、その後拡大しながら現在の新潟市市街地となった。この明暦元年に移転してからの江戸時代の町を「近世新潟町跡」としている。絵図や地子帳等の史料から、江戸時代の町割りが現在の区画に残っていると考えられており、北は烏帽子町、東は上大川前通、南は白山公園、西は寺町裏通を端とした南北約2.2km、東西約1.1kmと推定されている（〔渡邊2014〕図1参照）。

(b) 周知化と取扱い

近世新潟町跡の周知化について検討されたのは平成16年度に遡る。本市は平成16年7月に県教委によって実施された国道7号線万代橋下流事業に伴う試掘調査の結果を受け、周知化について検討を重ねた。近世遺跡は文化庁の通知により、「地域において必要なものを対象とすることができる」とされ、近世新潟町跡は江戸時代から現在の市街地へと区画などの町並みが連綿と続いており、まさに地域においてその重要性が認識されるものであった。しかし、都市化が進む軟弱地盤地帯での遺跡の遺存状況が不明であること、市街地での大小多くの開発に対して保護体制が十分でないこと等から、遺跡推定範囲内の試掘調査によって江戸時代と考えられる遺物包含層又は遺構が確認された地点について周知化を行うこととしている。平成25年度末で周知化された地点は12か所である。

(c) 平成25年度の試掘・確認調査

平成25年度に実施された試掘・確認調査は、公共事業に伴うものが2件、民間事業に伴うものが1件である。このうち、江戸時代の遺物包含層が確認されたのは1件であり、周知化を行った。以下、周知化を行った地点及び周知化は行っていないが出土遺物が江戸時代の遺物として高く評価できる地点の2調査について記す。

(d) 東堀前通6番町1061番地外地点試掘調査(2013131)

(図2・4)

所在地 新潟市中央区東堀前通6番町
調査の原因 駐輪場建設（公共事業）
調査期間 平成25年8月7日
調査面積 18㎡（1T：9㎡、2T：9㎡）
調査担当 朝岡政康
処置 慎重工事

調査概要 調査地はコンクリート舗装された駐車場であり、トレンチを2か所設定した。コンクリート舗装は厚く、0.2~0.4mほどあり、さらに下地に人頭大の川原

石が敷き詰められていた。近代のコンクリート舗装と盛土は1Tで1.3~1.4mに及ぶ。地表下約1.6~2.3m（IV層）で江戸時代の遺物包含層（18世紀半ば~後半）が確認された。また、VI層からは、砂目痕の残る磁器皿や刷毛目の大皿など17世紀代の肥前陶磁器が出土している。両トレンチとも崩落が激しく、遺構の確認はできなかった。

天保14（1843）年の新潟町地子帳によれば調査地は加賀屋倉右衛門となっており、通し屋敷で本町につながっているが、規模やどのような店であったかは不明である。

当該地は17~18世紀代の遺物包含層が残っていることが確認されたことから、近世新潟町跡の範囲として周知化した（平成25年12月26日付）。工事による掘削深度が1.0m以内にとどまることから、慎重工事で対応した。

(e) 古町通5番町622外地点試掘調査(2013195)(図3・5)

所在地 新潟市中央区古町通5番町622外
調査の原因 駐輪場建設（公共事業）
調査期間 平成25年12月25日
調査面積 約15㎡
調査担当 朝岡政康
処置 慎重工事

調査概要 調査地は店舗撤去後の更地で、トレンチを2か所設定した。トレンチはいずれも崩落が著しく、1.5~2.0mの掘削が限界であった。表土下のII層からは埋甕が1個体見つかった。19世紀の肥前大甕（ハンズー甕）とみられる。またトレンチは計4か所の焼土・焼礫を廃棄した土坑によって大きく攪乱を受けていた。I層直下の焼土・焼礫土坑は機械掘削によるものと考えられる。遺物は全てこの焼土・焼礫の攪乱土坑から出土した。遺物の年代は18世紀の肥前系陶磁器が主体であるが、焼土・焼礫3では17世紀末の肥前磁器皿も確認されている。

調査の結果、17世紀末から18世紀にかけての遺物が出土しているが、大規模な掘削により江戸時代の遺構及び遺物包含層が残っていないと判断し周知化はしなかった。

(f) 平成25年度の工事立会

平成25年度に行った遺跡範囲内の工事立会件数は8件である。その全てが国道7号線万代橋下流事業に伴うものである。工事の多くの場所が重複しているため、本稿では国道7号線万代橋下流事業の範囲を示す。（図6）

全ての工事区間において地表下1m前後までが近・現代の盛土であり、その下に江戸時代の粘質シルト土層が存在する。しかし、工事掘削深度が1.2~1.6mの範囲であるため、安定した江戸時代の遺物包含層までは達していない。それでも、出土遺物は江戸時代の陶磁器を中心にコンテナケースに17箱分になった。



図1 調査位置図 (1/10,000)

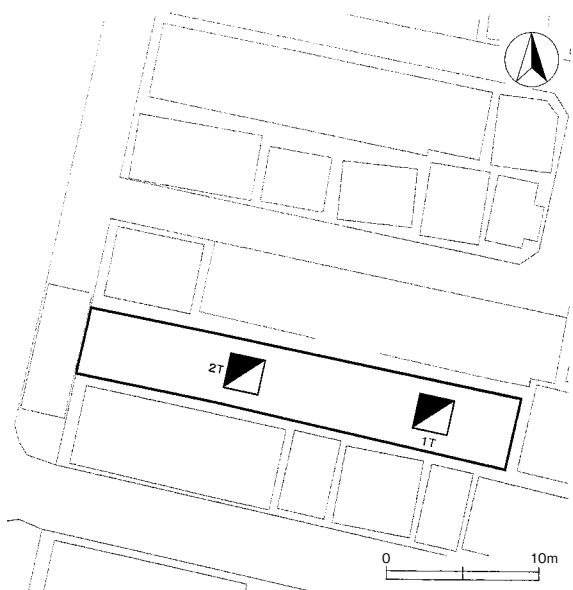


図2 トレンチ位置図 (1/500) 2013131

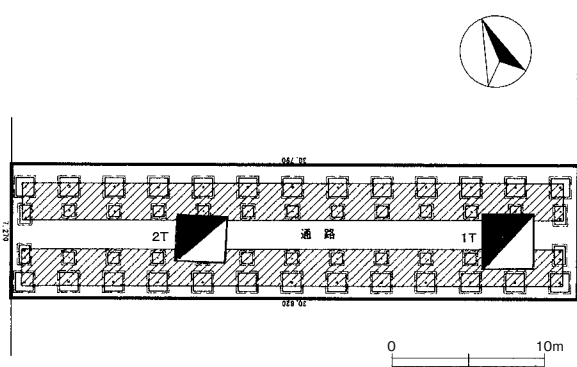


図3 トレンチ位置図 (1/500) 2013195

平面図凡例

	調査対象範囲
	遺物出土トレンチ

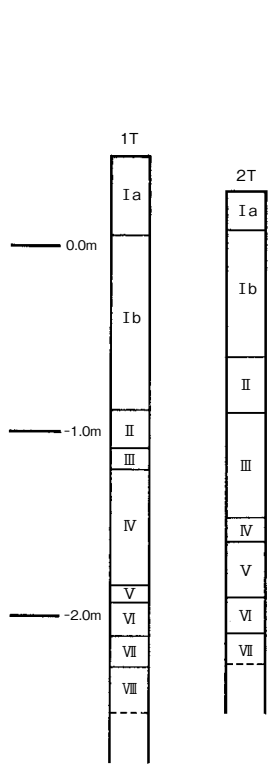


図4 土層柱状図 (1/40) 2013131

- 2013131
- I層: a アスファルト舗装、b 盛土
 - II層: 黄褐色シルト
 - III層: 青灰～黄褐色シルト
 - IV層: 灰色砂、粘性・しまり無
 - V層: 灰黄褐色シルト、2Tでは黄色粘性強
 - VI層: 灰～黒褐色砂、17世紀代の遺物出土
 - VII層: 黒褐色シルト、炭化物を多く混じる、木くず多い
 - VIII層: 暗灰～青杯砂、湧水

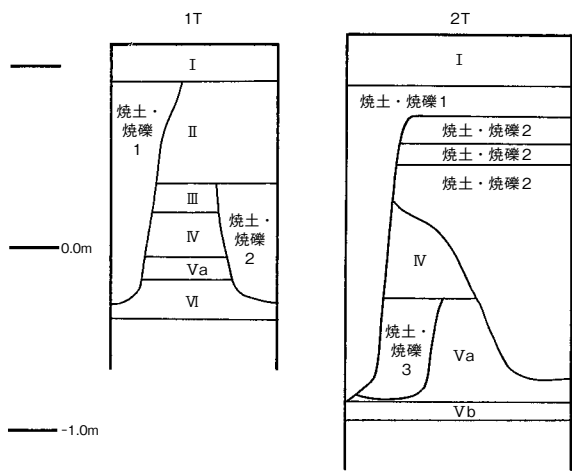


図5 土層柱状図 (1/40) 2013195

- 2013195
- I層: 表土、砂利など
 - II層: にぶい黄色土、人頭大の礫多量に入る、埋甕あり
 - III層: オリーブ褐色土、撤入土の可能性が高い
 - IV層: 黄褐色シルト、焼土粒混入
 - V層: a 灰色シルト、b 灰色砂
 - VI層: 橙色シルト



試掘調査地近景 (2013131)



1 T東壁断面 (2013131)



2 T東壁断面 (2013131)



試掘調査地近景 (2013195)

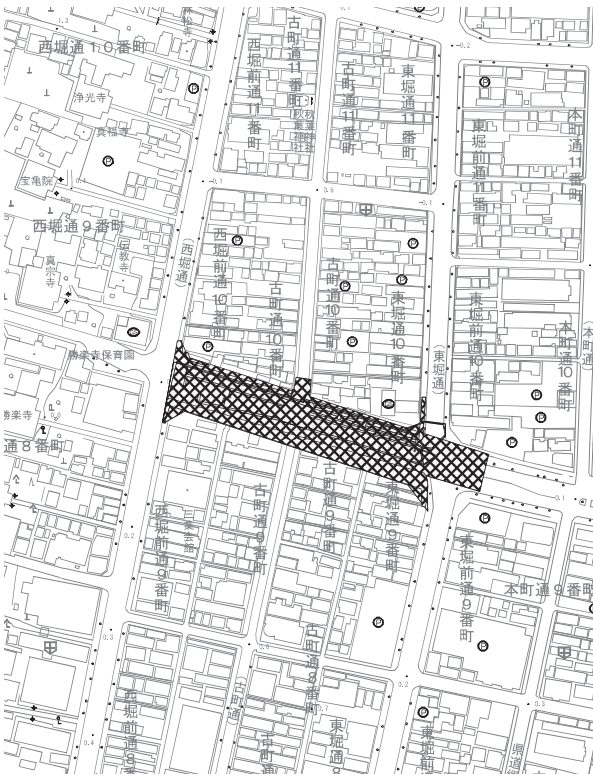


図6 平成25年度工事立会範囲 (1/5,000)



2 T北壁断面 (2013195)



工事立会土層断面 (2013277)

(g) 出土遺物

近世新潟町跡はこれまでの調査において、1) 移転(1655年)以前の初期伊万里が一定量出土する。2) 幕末まで肥前産の陶磁器が主体を占める。3) 高級品・上質品が出土する。等の特徴が報告されている。〔渡邊2014〕

平成25年度においては、2)の肥前産陶磁器が主体を占めるという点は合致したが、3)の高級品・上質品については、小皿等で薄手の上質品が見られるものの、平成24年度出土のような芙蓉手や口径40cmを超える大皿は出土しておらず、1)の初期伊万里についても出土しなかった。

出土品の年代は、17世紀後半から18世紀後半にかけてのものが多く、特に18世紀半ば以降のものが目立った。

これは、平成25年度の調査において、崩落と湧水により江戸時代後期の層までしか調査できなかったことと、工事立会では、掘削が1.2~1.6mに留まることに起因するものであり、当該場所に移転時の遺構が残らないということにはならないので、今後も注意が必要である。

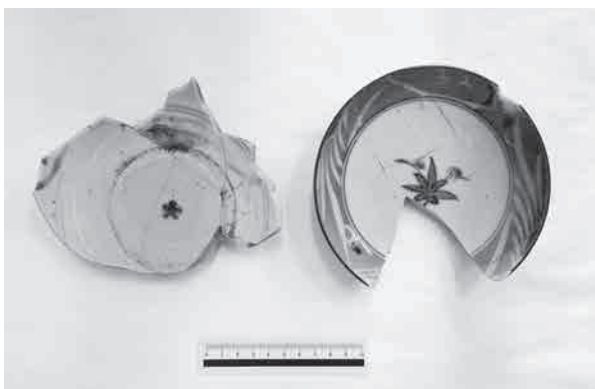
また、2013195調査地点においては、焼土・焼礫土坑がみつき、出土品においても二次被熱を受けているものが見受けられるため、付近で火事がありそれを当該地に廃棄したことが窺われる。(今井さやか)



肥前磁器皿 (17世紀後半~18世紀前半) 2013131



肥前陶器・火入れ (17世紀後半~18世紀) 2013131



肥前磁器皿 (17世紀末~18世紀前半) 2013195



肥前磁器蓋付鉢、二次被熱 (18世紀) 2013195



肥前磁器鉢 (18世紀) 内面 2013277



肥前磁器鉢 (18世紀) 外面 2013277

III 文化財センターの事業

1 本発掘調査の概要

(1) 本発掘調査について

本市では、本発掘調査の要否について、文化庁の示した標準（平成10年9月29日付庁保記第75号 各都道府県教委教育長宛文化庁次長通知「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について（通知）」）及びそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（平成11年9月10日付「発掘調査の要否等の判断基準」）に即して判断している。

試掘・確認調査で遺跡の内容を十分に把握した後、開発事業者等と遺跡の取扱いについて協議する際、可能な限り本発掘調査が回避され、また調査せざるを得ない場合もその規模が最小限となることを目指している。しかし民間の宅地開発事業における道路部分や、公共事業では大規模な圃場整備での用排水路部分ではそうした回避策が取りにくく、本発掘調査に至ってしまう場合が多い。

本発掘調査実施にあたっては、『文化財保護法』第99条により、市教委がこれを実施するものとし、基本的に

直営の体制で対応しているが、調査担当はもちろん、その下に入る調査員となる市職員も人数が限定され、現場作業と並行して整理・報告書作成作業も遅滞なく進めていかなければならない中、民間調査組織の適切な導入と監理体制の構築が急務となっている。

しかし、近年、県や他市町村でも発掘調査が増加傾向にあり、民間調査組織の調査員も不足気味の現状があり、対応に苦慮しているところである。

(2) 平成25年度の本発掘調査

表1に示した通り、5遺跡で本発掘調査を行った。

民間事業にかかるものは小丸山東遺跡のみで、他は道路関係2件、圃場整備関係2件とすべて公共事業が原因である。

圃場整備の面施工部分が対象となった細池寺道上遺跡の調査面積が2,800㎡を超える他は、公共事業関係の本発掘調査では約2,000㎡前後の調査面積となっている。

（廣野耕造）

(3) 平成25年度の発掘調査現地説明会

本市では、発掘調査や文化財保護についての市民の理解を深めるため、各発掘調査現場において調査成果を公開する現地説明会を開催している。平成25年度は、4か所において現地説明会を開催した（表2）。小丸山東遺跡発掘調査の現地説明会は、面積が狭小で駐車場を確保することが困難なため行わなかった。（今井さやか）



下新田遺跡現地説明会風景

表2 平成25年度発掘調査現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数(人)
2013/8/3 (土)	峰岡上町遺跡	90
2013/9/14 (土)	大沢谷内遺跡	106
2013/11/23 (土・祝)	下新田遺跡	40
2013/11/24 (日)	細池寺道上遺跡	75

表1 平成25年度本発掘調査一覧

調査番号	遺跡名	発掘調査面積(m ²)	所在地	調査の原因	調査担当	調査員	発掘調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2013001	小丸山東遺跡	116.1	江南区直り山字小丸山1046番1	宅地造成	遠藤恭雄	朝岡政康 八藤後智人	4/2~4/6	古代・近世	川跡・土坑・性格不明遺構	土師器・近世陶磁器・土製品 石製品・金属製品
2013002	大沢谷内遺跡	2,128.0	秋葉区横川浜17-1外	国道新設	相田泰臣	金田拓也 藤ノガミ 佐藤 俊	4/15~9/19	縄文・弥生・古墳 飛鳥・奈良・平安 鎌倉・室町・近世	掘立柱建物・井戸・土坑 溝・性格不明遺構・ピット	縄文土器・土師器・須恵器 中世土師器・珠洲焼・土製品 石製品・木製品・金属製品 骨角製品・アスファルト
2013003	峰岡上町遺跡	2,080.4	西蒲区峰岡262-2外	国道新設	前山精明	龍田優子 牧野耕作	4/22~10/7	縄文・弥生・古墳 奈良・平安・近世	掘立柱建物・井戸・土坑 土坑・畑・ピット・溝 遺構・性格不明遺構	縄文土器・土師器・須恵器 土製品・石製品
2013004	細池寺道上遺跡	2,814.6	秋葉区東金沢字稲場567-1番地外	県営圃場整備	立木宏明	藤吉田建設 中川見子 藤吉田建設 不破野希春	7/25~12/27	平安・中世	掘立柱建物・井戸・小土坑 土坑・溝・水田・杭列 性格不明遺構	古代土器・中世土器・石製品 鉄製品・礫・自然遺物
2013005	下新田遺跡	1,875.0	西蒲区道上字下新田5244外	県営圃場整備	龍田優子	藤シン技術コンサル 長澤展生	8/6~12/18	奈良・平安	井戸・柱穴・溝状遺構 土坑・畑・水田	土師器・須恵器 土製品・木製品
120.0										

2 平成25年度の本発掘調査

平成25年度本発掘調査の概要を次項より記す。概要は、調査番号順である。概要掲載遺跡の位置を図1、一

覧を表3に、試掘・確認調査の概要掲載遺跡と併せて示した。各項題は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。(金田拓也)

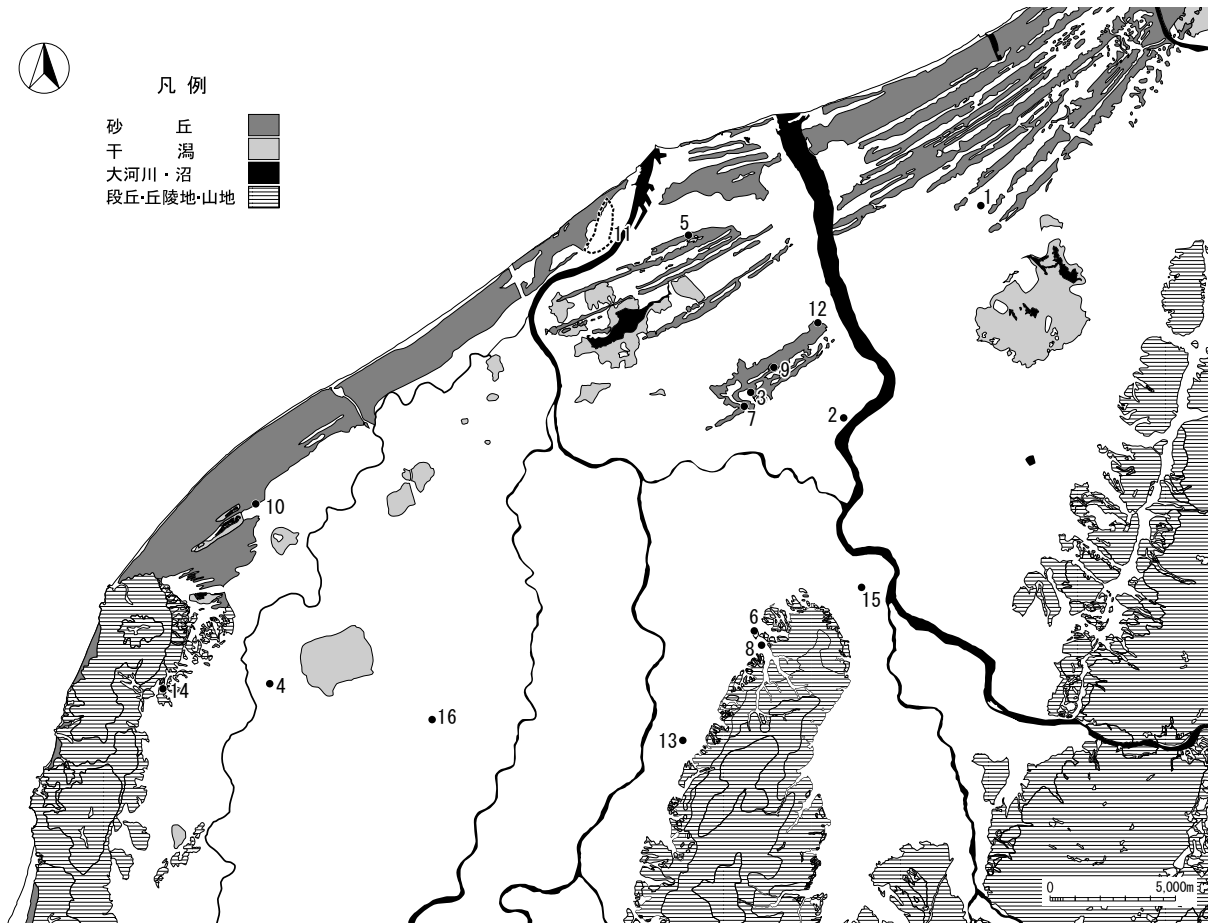


図1 平成25年度概要掲載発掘調査位置図 (1/300,000)

表3 平成25年度概要掲載発掘調査索引

平成25年度事前審査に係る試掘・確認調査

遺跡番号	遺跡名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(図1)	掲載頁
291	正尺A遺跡	16~20	2013105	1	7
			2013116		
			2013151		
			2013172		
			2013173		
758	下郷南遺跡	1・2	2013106 2013152	2	11
419	三王山遺跡	14	2013109	3	20
756	新道遺跡	1	2013111	4	21
757	山木戸居付遺跡	1	2013113	5	23
164	桜大門遺跡	4	2013134	6	24
391	日水南遺跡	6	2013142	7	25
134	塩卒遺跡	7	2013155	8	28
11	前山遺跡	7	2013162	9	29
53	前田遺跡	11	2013215	10	31
575	近世新潟町跡		2013131	11	32
			2013195		

平成25年度本発掘調査

遺跡番号	遺跡名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(図1)	掲載頁
752	小丸山東遺跡	1・2	2012184 2013001	12	38
342	大沢谷内遺跡	21	2013002	13	42
731	峰岡上町遺跡	3	2013003	14	43
151	細池寺道上遺跡	41	2013004	15	44
573	下新田遺跡	8・9	2013005	16	45
			2013006		



本発掘調査風景(平成25年度大沢谷内遺跡)

(1) 小丸山東遺跡 第1・2次調査
(2012184・2013001)

所在地 新潟市江南区直り山字小丸山1046番地1
 調査の原因 宅地造成(民間)
 調査期間 平成24年10月12日(201284)
 平成25年4月2日～4月6日(2013001)
 調査面積 116.1㎡
 調査担当 諫山えりか(201284)
 遠藤恭雄(2013001)
 調査員 朝岡政康 八藤後智人(2013001)
 処置 記録保存

調査に至る経緯 平成24年10月5日付で、(株)真柄建築事務所(以下、事業者)より、宅地造成に伴い、市教委宛てに照会があった。これを受けて、平成24年10月12日に試掘調査を行った。6か所設定したトレンチのうち調査地中央部の2Tで平安時代の遺物3点(41p写真1～3)が出土し、遺物包含層(XI層)の残存が確認されたことから、新遺跡として周知化された(第1次調査)。なお、小字名と小丸山遺跡の東に位置する立地から、本遺跡の名称を「小丸山東遺跡」としている。

宅地造成に伴い新設される道路の範囲内に、平安時代の遺物が出土した2Tが含まれることから、事業者と協議を進めた結果、2Tから北側の道路新設範囲、約150㎡について本発掘調査を実施することで合意した。平成25年3月21日付で事業者より依頼文および『文化財保護法』第93条の届出があり、平成25年4月1日付新歴F第56号で『文化財保護法』第99条第1項による発掘調査の通知を提出し、同年4月2日より調査に着手した。

位置と環境 遺跡は、阿賀野川と信濃川の間挟まれた新潟砂丘の新砂丘I-3列(亀田砂丘後列)北東端部に位置する。阿賀野川左岸まで東へ1kmの距離にある。南東約300mの小砂丘上には、平安時代の集落跡である小丸山遺跡が、南約300mの同一砂丘頂部付近には、松山遺跡が所在する。

調査は宅地造成区域の道路部分幅6m、延長約25mを対象とした。計画道路中心線を軸に10m方眼の大グリッドおよび2m方眼の小グリッドを設定し、南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで表示した。調査範囲内の2C-1グリッドの座標は、X座標209742.351、Y座標56497.802で、座標北は真北方向に対し0度23分40秒西偏する。標高は、砂丘端部にあたる調査範囲では、南端の最高所で2.6m、北端部で2.1mを測り、南から北に向かって2%程度の緩やかな下り勾配となっている。

基本層序と検出遺構 現地表面から0.3～最大1.2mの深度まで盛土など近世～現代の堆積物がみられ(I層)、



図1 調査位置図(1/10,000)

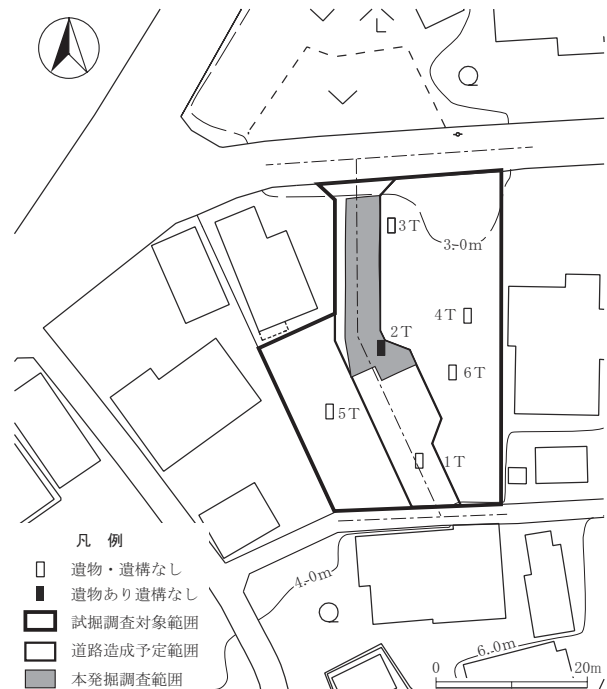


図2 トレンチ位置図(1/1,000)

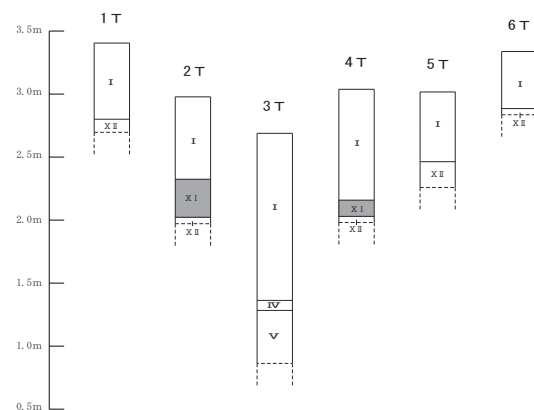


図3 第1次調査土層柱状図(1/60)

※ローマ数字は第2次調査基本層序(図4)と対応する。第2次調査に合わせてI層の表示を改変している。

その下層では、川跡1を境にして南側では砂丘砂の堆積（Ⅻ層）、北側では砂丘間低地に堆積する粘質土層（Ⅱ～Ⅸ層）が検出された。川跡1南側の砂丘落ち込み部では、部分的に灰褐色の遺物包含層（XI層）が残存し、調査区北端部（図4基本層序①）では、表土から3.2mの深度（標高-0.7m）で黒褐色砂層（X層）を確認した。砂層堆積の想定線を図4に示した。

検出遺構は土坑2基（SK1・2）、性格不明遺構1基（SX3）、旧流路2条（川跡1・2）である。

SK1はI層中から掘り込まれ、17世紀～19世紀の陶磁器が出土している（41p写真6～8）。近世以降の廃棄土坑とみられる。SK2は、I層直下からⅫ層を掘り込む円形の浅い土坑である。埋土はI層で遺物包含層XI層に類似する。遺物は出土していない。平安時代の遺構の可能性がある。SX3はI層直下からXI・Ⅻ層を掘り込んでおり、川跡1を切る。遺物の出土はないが、埋土から近世以降のものと考えられる。

川跡1はI層直下で検出され、Ⅱ～Ⅴ層およびXI・Ⅻ層を切る。幅6.2m、深度0.8mを測り、南東から北西方向に延びる。遺物は出土していない。平安時代の遺物包含層XI層を切ることから、同時期以降のものである。川跡2は、Ⅲ層直下で検出され、Ⅳ・Ⅴ層を切る。川跡1より古い。幅3m、深度0.2mを測り、南東から北西方向

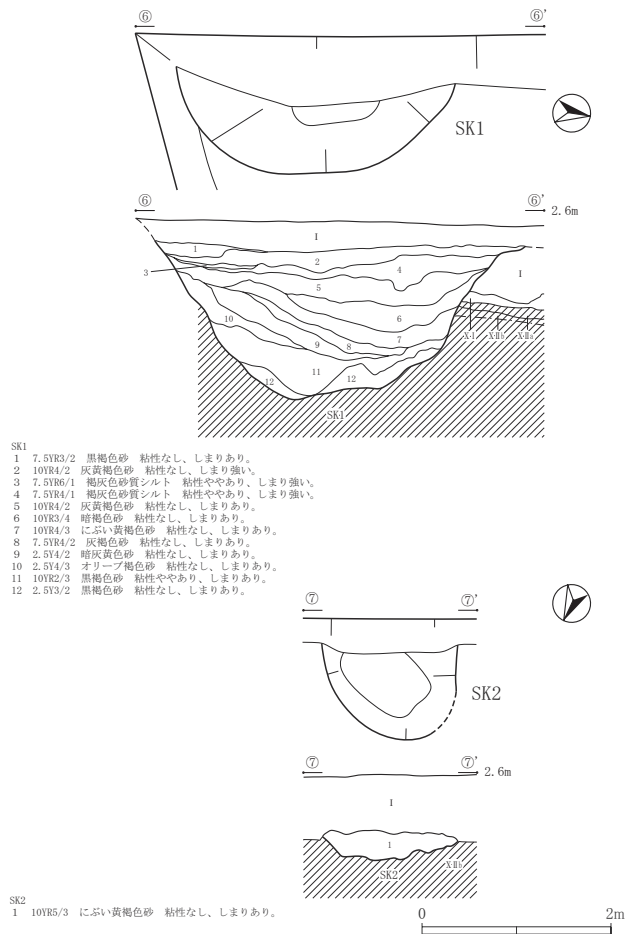


図5 遺構実測図（1/80）



着手前現況（北東から）



調査区完掘状況（南東から）



SK2完掘状況（北から）



川跡1 断面（西から）

に延びる。遺物は出土していない。

出土遺物 第1次・2次調査の出土遺物を合わせて報告する。

土師器5点が出土している。1～3は1次調査2T、XI層で出土したロクロ成形の土師器長甕である。1を図化した(図6)。口縁形状から9世紀代のものと考えられる。4・5は、調査区北端の粘土堆積層(VII層)から出土している。非ロクロの土師器甕体部片で、いずれも外面に縦位のハケメ調整がみられる。胎土と調整が共通しており、接合関係はないが、同一個体の可能性が高い。8世紀代のものと考えられる。

近世以降の陶磁器がコンテナケースで3箱分出土している。SK1でまとまりがあるほかは、ほとんどが調査区表土の盛土中(I層)で出土している。16世紀末～17世紀代を上限に18世紀代～近現代の所産である。

ほかにI層からは、太形管状土錘(12)・軽石製石製品(13)や砥石、銭貨(寛永通宝)などが出土している。

まとめ 調査対象範囲は、近世～現代の地形改変の影響を大きく受けており、第1次調査の出土遺物に相当する年代の遺構は確認されなかった。調査の結果からは、砂丘の形成→砂丘間低地堆積層の形成(出土遺物からVII層が8世紀代以降の堆積)→17世紀代には新田開発の開始という経過が推定される。なお、古代の土器については、(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団の春日真実氏にご教示いただいた。

小丸山東遺跡第2次調査については、本書の記述をもって正式報告とする。(遠藤恭雄)

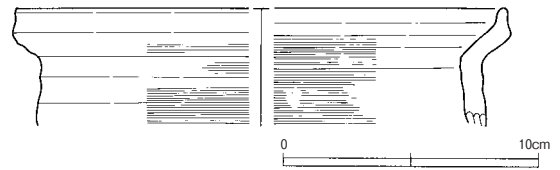
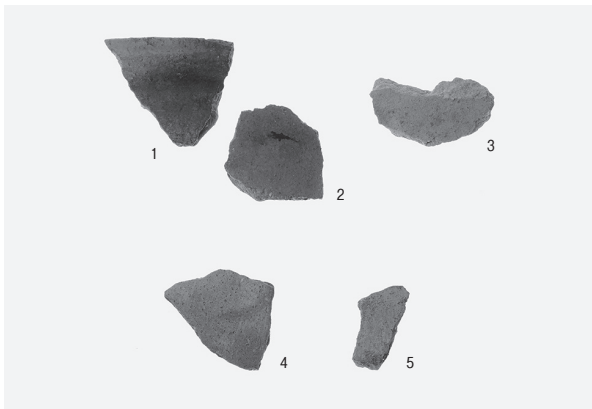
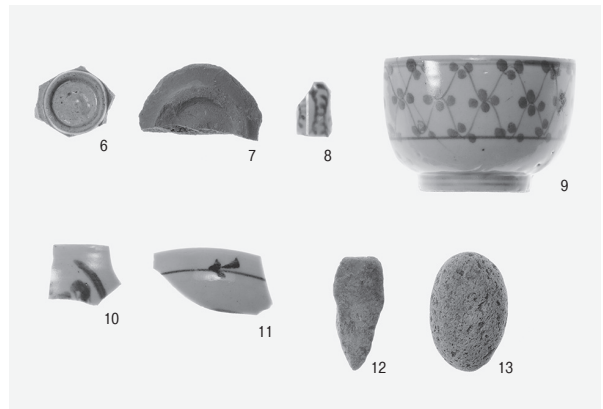


図6 遺物実測図(1/3)



古代土器(1/3)



陶磁器・土製品・石製品(1/3)

表1 小丸山東遺跡 古代土器観察表

報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	色調	法量(cm)			胎土含有物	遺存率	焼成	備考
	遺構名	グリッド					口径	底径	器高				
1		2T(3C-13)	XI	土師器	長甕	灰黄褐(10YR5/2)	19.3	-	-	石英・長石	3/36	酸化	内外面:ロクロナデ・カキメ 2と同一個体か
2		2T(3C-13)	XI	土師器	長甕	灰黄褐(10YR5/2)	-	-	-	石英・長石		酸化	内外面:ロクロナデ 1と同一個体か
3		2T(3C-13)	XI	土師器	長甕	にぶい黄橙(10YR7/3)	-	-	-	石英・長石		酸化	外面:カキメ 内面:ロクロナデ
4		1C-22	VII	土師器	甕	灰黄(2.5Y7/2)	-	-	-	石英・長石・赤色微粒子		酸化	非ロクロ 外面:縦位ハケメ 5と同一個体か
5		1C-22	VII	土師器	甕	灰黄(2.5Y7/2)	-	-	-	石英・長石・赤色微粒子		酸化	外面:ハケメ 4と同一個体か

表2 小丸山東遺跡 陶磁器観察表

報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	産地	法量(cm)			年代	遺存率		備考
	遺構名	グリッド					口径	底径	器高		口縁部	底部	
6	SK1	3B-25		陶器	小杯	不明(瀬戸?)	-	2.8	-	18C以降	36/36		内外面灰釉 見込貫入
7	SK1	3B-25		染付	皿	肥前	-	3.6	-	16C末～17C	18/36		底部外面無釉
8	SK1	3B-25		染付	御神酒德利	肥前	1.8	-	-	18C末～19C	1/36		外面施文 蛸唐草文
9		3C-11	I	染付	椀	肥前	10.0	-	6.0	17C後半	13/36	16/36	外面施文 一重網目文
10		3C-11	I	染付	椀	肥前	-	-	-	17C末～18C前半	3/36		外面施文 漆接ぎ痕
11		3C-11	I	染付	皿	肥前	13.6	-	-	17C後半	5/36		内外面施文

表3 小丸山東遺跡 土製品・石製品観察表

報告書 No.	出土位置		層位	種別	色調	法量(mm)			胎土含有物	遺存率	重量(g)	備考
	遺構名	グリッド				長さ	幅	厚さ				
12		2C-11	I	太形管状土錘	にぶい橙(7.5YR7/4)	長さ:37.0	幅:120	厚さ:120	長石・赤色微粒子	1/10	15.0	
13		3B-15	I	軽石製石製品		55.5	36.0	32.0		完形	34.0	

(2) 大沢谷内遺跡 第21次調査 (2013002)

所在地 新潟市秋葉区横川浜17-1外
 調査の原因 国道403号線改良工事 (公共事業)
 調査期間 平成25年4月15日～9月19日
 調査面積 2,130㎡
 調査担当 相田泰臣
 調査員 金田拓也
 佐藤 俊 (株ノガミ)
 処 置 記録保存

調査に至る経緯 新潟市東部地域土木事務所から国道403号線改良工事に伴う発掘調査が依頼され、平成25年4月15日～9月19日にかけて本発掘調査が行われた。

第21次調査は8区について調査を行った(図1)。8区は403号本線への北側乗り入れ部分にあたり、2011年度の第19次調査時に、南端の一部を調査している。

位置と環境 大沢谷内遺跡は、新潟市の南東端、新津丘陵と信濃川に挟まれた沖積地上に立地する。縄文時代から室町時代にかけて継続的に営まれ、東西約600m、南北約900mと広大な範囲に及ぶ遺跡である。

平成23年度に実施した9区の調査では畑跡が確認されている。8区では明確な畑跡が確認されない一方、建物や井戸などが多く見つかった。遺構確認面の標高は約3.5mで、畑跡が見つかった9区南側よりも0.5～1.0m高く、微高地を利用して居住域が形成されたと考えられる。

検出遺構 奈良・平安時代と鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。今回の調査で見つかった遺構は、掘立柱建物9棟、井戸52基、溝196条、土坑110基、性格不明遺構105基などで、井戸の大半は遺構の中の堆積土の違いなどから鎌倉時代のものと考えられる。

奈良・平安時代の遺構は、掘立柱建物が5棟見つかった。建物のなかには周りに雨落ち溝を有し、柱の掘り方が方形の掘立柱建物も存在する。他では、幅約2.4m・深さ約0.8mと比較的大きな溝や、方形の水溜状遺構などが確認された。井戸は、井戸側に専用の曲物を利用したものや、舟を転用したものがある。後者では、井戸底で完形の須恵器の椀2個体が重なった状態で出土した。

出土遺物 土器の他、土製品、石器・石製品、木製品、金属製品、骨角製品、アスファルト、種子が出土している。遺物量は、コンテナケースで207箱である。出土土器から、奈良・平安時代が8世紀後半から10世紀前半を中心とする時期、鎌倉時代が12世紀後半から14世紀紀頃と考えられる。奈良・平安時代では、花卉文様をもつ円面硯、石帯、施釉陶器(灰釉陶器・緑釉陶器・奈良三彩)といった希少品のほか、「寺」や「田」などの墨書土器、ほぼ完全な形で出土した鍬、斎串などのまじない用と考



図1 調査位置図 (1/10,000)



8区全景 (東から)



平安時代の掘立柱建物跡 (南から)

えられる木製品などが出土した。

鎌倉時代では、かわらけや青磁、白磁、珠洲焼のほか、井戸を中心に櫛や漆器、下駄などの木製品が多く出土した。また、市内で初例となる骨角製の筭も出土した。

なお、平安時代、鎌倉時代ともアスファルト塊が遺構内外から定量出土した。

まとめ 出土遺物などから、奈良・平安・鎌倉時代を通じて有力な集落であったと判断される。農耕やアスファルト資源、木器製作などを基盤とし、内水面交通を利用して繁栄した集落の姿がうかがえる。平成26年度に報告書刊行予定である。(相田泰臣)

(3) 峰岡上町遺跡 第3次調査 (2013003)

所在地 新潟市西蒲区峰岡字上町・御手洗山
調査の原因 一般国道460号道路改良工事 (公共事業)
調査期間 平成25年4月22日～10月7日
調査面積 2,080㎡
調査担当 前山精明
調査員 龍田優子 牧野耕作
処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟市西部地域土木事務所から平成25年3月5日付で本発掘調査の依頼文書が提出された。調査初年度にあたる本年は、これをうけて遺跡東部の丘陵部 (1区) と低地 (2区) で本発掘調査を行った。

位置と環境 角田山の東南麓に形成された低丘陵の裾部 (8~10m) とこれに接した低地 (7m) にかけて立地する遺跡である。低地の2区では縄文時代の埋没谷を確認した。この谷は、古代の段階で埋積化が進み、沼地に変貌したことが自然科学分析を通じ明らかになっている。

検出遺構 1区から奈良・平安時代の遺構を確認した。台地の頂部から緩斜面に構築された3棟の掘立柱建物、緩斜面に点在する6基の焼土坑、調査区全域を覆う1,300条ほどの畝間痕が主なものである。掘立柱建物は、いずれも梁間2間型にあたる。焼土坑の平面形は円形・楕円形・方形を呈し、クリを主とした多量の炭化材を伴う。畝間痕は地山に残る粘質部から見出したものである。掘立柱建物との重複関係からみて、古代集落の形成期間を通じ存在した可能性が高い遺構と考えられる。

検出遺物 1区出土の古代遺物は、コンテナケースで50箱あまりを数え、8世紀半ばから9世紀半ばまでの土器が大半を占める。須恵器無台杯の焼成不良品や権状錘と有溝石錘の未成品の出土が目される。1区では、このほか近世三根山藩に関連する陶磁器が20箱出土した。

2区の調査は遺物包含層の範囲確認に留まるが、台地の裾部付近から9世紀前半の土器、地表面下3mほどの谷底部から縄文時代中期～後期の土器と石器が出土した。出土量は10箱である。縄文時代の遺物包含層には樹枝や種実が良好に保存されており、今後の調査によって木製品の発見が期待できる。

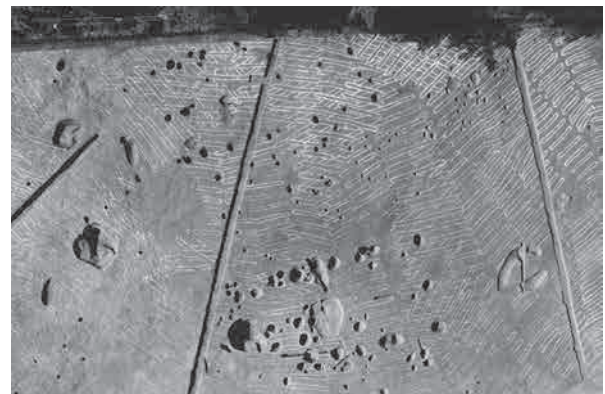
まとめ 角田山の周辺でこれまで行われた古代遺跡の調査はきわめて限られる。今回の調査で古代の遺構と遺物が見いだされた峰岡上町遺跡は、丘陵上で確認された初の集落跡となるものである。遺構・遺物のあり方や古環境復元に基づけば、この集落では畑作に基盤を置きながら、漁撈や森林資源の利用、土器製作を行っていたと考えられる。沖積地の古代遺跡との関連性を視野に入れた本遺跡の位置付けが今後の課題となる。(前山精明)



図1 調査位置図 (1/10,000)



北上空から見た調査地



掘立柱建物と畝間痕



2区埋没谷

(4) 細池寺道上遺跡 第41次調査 (2013004)

所在地 新潟市秋葉区東金沢字稲葉567-1外

調査の原因 両新地区圃場整備事業 (公共事業)

調査期間 平成25年7月25日～12月27日

調査面積 2814.55㎡

調査担当 立木宏明

調査員 中川晃子・不破野希春 (株吉田建設)

処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟県地域振興局から平成25年4月26日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、これを受けて圃場工事により保護層が確保できない範囲 (1区2498.58㎡) と幅2mの管理設区域とこれに接したユニット埋設場所 (2区212.30㎡・3区103.67㎡) を対象とした調査を、平成25年7月25日付で報告し、本発掘調査を実施した。

位置と環境 細池寺道上遺跡は、新津丘陵の東側を流れる能代川と阿賀野川に挟まれた沖積地に立地する古代・中世の遺跡である。遺跡の広がりには南北1.7km、東西1.2kmにおよぶ。磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会が本発掘調査を行った細池寺道上遺跡の西に隣接し現地表面標高は8mである。

これまでも複数回の発掘調査が行われており、古代・中世の遺物や遺構が確認されている〔立木・相澤 (高野) ほか2014〕。

検出遺構 1区から古代・中世、2・3区から古代を中心とする遺構を確認した。

基本層序は、I～V層に分けられ、IV層が古代・中世の遺物包含層、V層上面が遺構確認面となる。各区ともに地表下0.5～0.8mに遺構確認面がある。

検出された遺構は1区では調査区南側に古代の土坑や溝が分布し、北側には中世の掘立柱建物・井戸・溝・水田跡などが検出された。掘立柱建物には廂付建物が確認されている。水田跡は7面検出した。長方形から不整形の平面形状を持ち、長軸20m、短軸10m前後で0.3m程度掘りこまれている「掘込田」である。底面は耕作痕が顕著に認められる。水田跡には溝が付属し排水路として利用されている。それぞれの水田跡は複数回の耕作がおこなわれている。2・3区では古代の溝や性格不明遺構、中世以降と考えられる水田跡が確認されている。

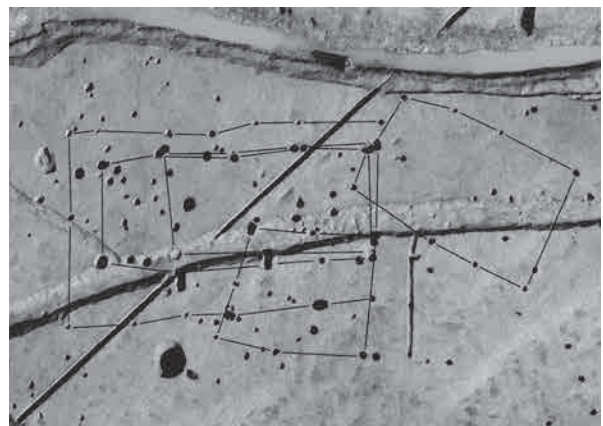
出土遺物 今回の本発掘調査では、コンテナケース45箱を数え、大半は1区の遺物で2・3区は少ない。古代では9世紀代の須恵器・土師器の食膳具が多く出土した。中世では14世紀代の珠洲焼大甕・壺・片口鉢が出土した。その他に鉄鏝などの鉄製品や砥石・磨石などの石製品が出土した。



図1 調査位置図 (1/10,000)



1区調査区全景 (北から)



1区掘立柱建物 (南西から)

まとめ 1区では平安時代の集落跡の一部が確認された。中世の掘立柱建物群と隣接する溝でつながる水田跡の検出は貴重な例である。2・3区については古代・中世の遺跡の広がりが広範囲にわたることが確認された。報告書は平成27年度以降に刊行予定である。

(立木宏明)

(5) 下新田遺跡 第8・9次調査
(2013005・2013006)

所在地 新潟市西蒲区道上字下新田5244外
調査の原因 道上地区県営圃場整備事業（公共事業）
調査期間 平成25年8月6日～12月18日
調査面積 1,875㎡（2013005）、120㎡（2013006）
調査担当 龍田優子
調査員 牧野耕作
長澤展生（株シン技術コンサル）
処置 記録保存

調査に至る経緯 圃場整備事業に伴い平成24年度に確認調査を実施した（第7次・2012212）。その結果を受けて、新潟県地域振興局より『文化財保護法』第94条の通知が提出された（平成25年2月25日付）ため、着手報告を提出し（平成25年7月30日付）、本発掘調査を実施した（第8次、1～3区）。その後、調査中に1区隣接地で同事業に伴う『文化財保護法』第94条の通知が新たに提出されたため（平成25年10月8日付）、着手報告を提出し（平成25年11月11日付）、連続して本発掘調査を実施した（第9次、4・5区）。さらに、本発掘調査対象外での工事立会中に完形の土師器長甕2個体が合わせ口の土器棺状態で検出されたため、約40㎡について急遽工事立会から確認調査に切り替えた（第10次・2013221）。

位置と環境 中ノ口川左岸の自然堤防上に立地する。北西から南東方向に細長く広がる遺跡の現標高は約0.4～1.0mで北東に向かってわずかに傾斜している。遺物が出土する深さは現況とは異なり北西側では浅く、南東側で深い。

検出遺構 遺存状態は良好で平成24年度調査（第6次）と同様に、遺構確認面が上・中・下層に分かれる状況が全ての調査区で確認された。奈良時代の遺物が主体的に出土する下層からは井戸・柱穴・溝状遺構などが検出された。遺跡の北西側ほど中層で検出される遺構が多く、出土する土器の時期も新しい。4区中層の浅い土坑（SK4）からは土師器無台椀が置かれたような状態で多数出土した。

また、全ての調査区を覆うように畑や水田が上層壁面で明瞭に確認された。特に、1・3区では南北方向にのびる水田の大畦畔が数条検出された。

出土遺物 土器類を中心にコンテナケース約93箱出土した。調査区によって時期的に異なるが、8世紀前半を主体に9世紀後半から10世紀初頭の土器が出土し、残存状態は良好である。なお、工事立会では灰釉陶器や中世土師器がわずかであるが初めて出土した。

まとめ 主体を占める奈良時代の遺物や検出された様々な遺構は、調査事例の少ない当地域の様相を考える

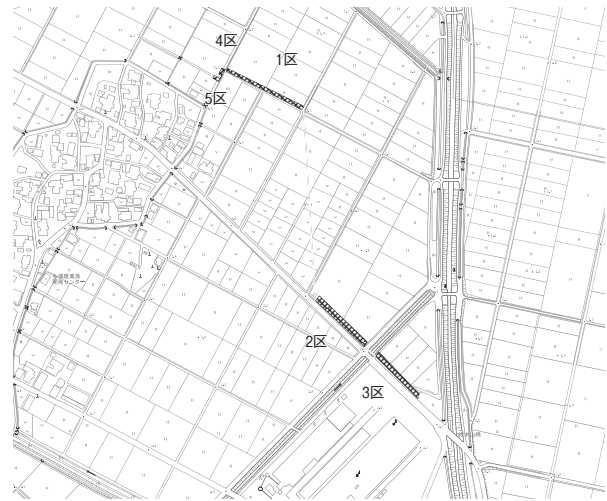


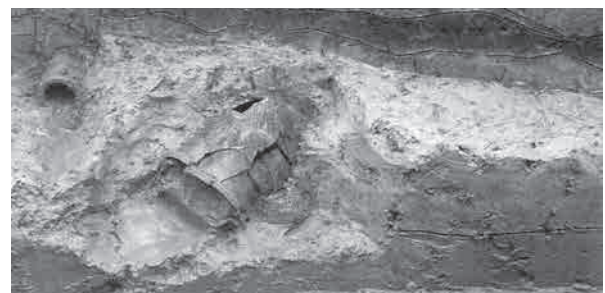
図1 調査位置図（1/10,000）



調査区全景（東から）



1区水田跡（東から）



土器棺検出状況（西から）

上で貴重な資料である。今回の調査では、徐々に北西側へ移動しながら一定期間生活をしていた場所と考える。

なお、第6～10次調査まで含む報告書を平成27年度に刊行する予定である。（龍田優子）

3 整理作業の概要

平成25年度に文化財センターが実施した発掘調査整理作業の一覧を調査番号順に表4に示した。整理作業のうち、主要なものについて以下に記述する。

(1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の再整理事業

試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物や報告書は刊行したが収蔵のための整理作業が未了の遺物、新潟県教育委員会から譲与を受けた資料等について、所在を把握し効率的な収蔵を行うことでその後の活用を利用しやすくするために再整理作業を行った。

試掘・確認調査、工事立会は歴史文化課で実施し、出土遺物については文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。報告書刊行済の本発掘調査に関する再整理は平成24年度に刊行した四十石遺跡と平成22年度に刊行した三王山遺跡について収蔵のための作業を行った。

平成24年度より実施している馬場屋敷遺跡等再整理は確認調査遺物及び興野遺跡遺構・遺物デジタルトレースについて外部委託を行った。また、馬場屋敷遺跡下層出土の木製品について実測作業を進めた。平成25年8月には、これまで存在が知られていなかった馬場屋敷遺跡下層遺物分布図等の現場図面が当時の調査員から返却され、これまで不明であった遺物分布状況の一部が明らかになった。(相澤裕子)

(2) 沖ノ羽遺跡第18次・19次・22次・24次調査の整理作業

整理の流れ 県営満日地区圃場整備事業(秋葉区)に伴う沖ノ羽遺跡本発掘調査について第18次および第19次調査1～4・7区を『沖ノ羽遺跡V』、第19次調査5・6区および第22・24次調査を『沖ノ羽遺跡VI』として刊

行する予定で整理作業を行った。

『沖ノ羽遺跡V』報告書について平成25年度は全体の最終校正を行い、平成26年2月に印刷・刊行した。本報告では古墳時代から中世までの集落が断続的に営まれていたことが確認された。主体となるのは古代で、9世紀後半には仏教関係の遺物が多く出土しており、「村落内寺院」を持つ有力者層の集落であったと推定される。

報告書刊行後、遺物・図面等を収蔵するための整理作業を行った。

『沖ノ羽遺跡VI』報告書については平成24年度で土器の集計・接合・実測を終了し、平成25年4月からは石製品・木製品等の実測を行った。これと並行して業者委託による遺物のデジタルトレースを進めた。遺物の実測は6月で概ね終了し、その後写真撮影を行った。遺物のデジタル図化と写真撮影が進んだ段階で図版・写真図版の作成を開始した。出土遺物のうち第24次調査でまとまって出土した鍛冶関連遺物については詳細な検討が必要と判断し、穴澤義功氏の指導の下、整理・分類・実測までを行った。遺構図面は平成24年度までに第19・22次調査の整理が終了していたため、主に第24次調査の整理を進めた。遺構断面図のデジタル図化を行い、個別の遺構平面図と合わせて遺構図版を作成した。第24次調査についてはこの他に遺構写真図版の作成も行った。

整理作業の成果 第24次調査の鍛冶関連遺物は、精錬鍛冶から鍛錬鍛冶の各段階に関わる資料であることがわかった。鍛冶関連遺物が集中する地区では中世の鍛冶工房と推定される6m×3mの掘立柱建物が検出されており、この工房内で鍛冶工程の一貫した作業が行われていたことが推定される。今後は図版類の編集を引き続き行い、本文の執筆を進めていく。『沖ノ羽遺跡VI』報告書は平成27年度に刊行の予定である。(澤野慶子)

表4 平成25年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査回数(次)	調査番号	整理原因	整理担当	主な作業内容
峰岡上町遺跡	3	2013003	本発掘調査に伴う整理	前山精明	基礎整理
小丸山東遺跡	2	2013001	本発掘調査に伴う整理	遠藤恭雄	基礎整理・遺物実測
下新田遺跡	6・8・9	2012008・2013005・2013006	本発掘調査に伴う整理	龍田優子・牧野耕作・潮田憲幸 長澤展生(株シン技術コンサル)	基礎整理・遺物実測・写真整理・報告書作成
日水遺跡	6	2012007	本発掘調査に伴う整理	立木宏明	報告書作成・印刷刊行
峰岡城山遺跡	2	2012002	本発掘調査に伴う整理	立木宏明	報告書作成・印刷刊行
大沢谷内遺跡	19・20 21	2011006・2012001 2013002	本発掘調査に伴う整理	相田泰臣・金田拓也 佐藤 俊(株ノガミ)	基礎整理・遺物実測
四十石遺跡	2	2008009	本発掘調査に伴う整理	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成
三王山遺跡	4・7	2007010・2008004	本発掘調査に伴う整理	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成
細池寺道上遺跡	25・26・27 30・31・41	2007005・2008006・2010003 2011005・2012006・2013004	本発掘調査に伴う整理	立木宏明・前山精明・相澤裕子 潮田憲幸・澤野慶子・牧野耕作 中川晃子・不破野希春(株吉田建設)	基礎整理・遺物実測 報告書作成・印刷刊行・収蔵作業
西江浦遺跡	3	2012005	本発掘調査に伴う整理	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成
古津八幡山遺跡	15・16・17 18・19	2006112・2010207・2011153 2012217・2013147	足跡整備に伴う整理	相田泰臣・渡邊朋和・八藤後智人・金田拓也	基礎整理・遺物実測・写真整理 報告書作成・印刷刊行・収蔵作業
沖ノ羽遺跡	18・19 22・24	2005002・2006005 2007004・2008002	本発掘調査に伴う整理	遠藤恭雄・立木宏明・澤野慶子	遺物実測・報告書作成 印刷刊行・収蔵作業・台帳作成
中谷内遺跡	15・16	2011002・2012004	本発掘調査に伴う整理	遠藤恭雄・立木宏明・澤野慶子	報告書作成
内野遺跡	8・9	2011003・2012003	再報告に伴う整理	相澤裕子・渡邊朋和	再整理
馬場屋敷遺跡ほか	1・2・3	1983006ほか	再報告に伴う整理	相澤裕子・渡邊朋和	再整理
試掘調査・確認調査・工事立会・本発掘調査再整理事業	—	—	収蔵作業に伴う整理	相澤裕子・渡邊朋和	収蔵作業・台帳作成

4 資料の収蔵・保管

(1) 収蔵方針

文化財センターでは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面などの記録類を一括集中管理している。一括集中管理することによって、木簡などの木製品や金属製品などの脆弱遺物、図面・写真などの記録類を、適切な温度・湿度で保管することが可能となっている。また、出土した土器や石器などの遺物も分散することなく、まとめて収蔵している。これにより、文化財センターが行う展示などの活用だけでなく、資料閲覧や貸出などの対応についても文化財センターで一括して対応することが可能となっている。

なお、発掘調査によらない考古資料や個人寄贈・寄託資料に関しては、各区の博物館や資料館などで収蔵・保管が行われている。このことにより、博物館などで発掘調査資料を展示する場合には文化財センターから貸し出し、文化財センターで個人寄贈資料などを展示する場合には博物館などから借用する仕組みとなっている。

(2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料は(6)に記載した。

埋蔵文化財収蔵庫 土器や石器などの比較的周辺環境で劣化のしづらい資料を収蔵している。平成26年1月末時点で11,117箱収蔵している。

特別収蔵庫1・2 保存処理が完了した木製製品や金属製品などを収蔵している。平成26年10月末時点で特別収蔵庫1に566箱（木製品）、特別収蔵庫2に181箱（金属製品95箱、骨・骨製品86箱）収蔵している。

資料収蔵庫 発掘調査の図面や写真フィルム・CD・DVDなどの記録類を収蔵している。

図書室 新潟市の他、全国で刊行された発掘調査報告等の考古学・歴史関係図書を中心に収蔵保管している。平成26年3月末時点で38,054冊登録されている。

(3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査に対し調査番号を付けている。

(4) 再整理作業

文化財センター開館以前の資料について、平成25年度も継続して作業を継続中である。

(5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

保存と活用のために、遺構に関しては遺構台帳を作成し、図面や写真等の記録類についても紙やフィルムなどのアナログデータのデジタル化を実施している。

発掘調査図面は、殆どが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えてtiffデータとしている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に報告書を入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。

収蔵図書に関しても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。

(6) 民俗資料等

民俗資料収蔵庫には、農具・漁労具・生活用具等の民具を中心に収蔵している。非常勤職員を雇用し、整理作業や台帳作成を行っている。平成25年度時点で、約3,000件が収蔵されている。

また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大形民具収蔵庫」として利用され、敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。

発掘調査で出土する遺物、特に木製品等は、破片で出土することがほとんどであり、具体的な器種を特定することが困難な場合がある。そのような時に、民俗資料が参考になる場合がある。また、実際の展示においても、民俗資料を活用することで、入館者の理解の助けになると考えられる。

(7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、『埋蔵文化財情報管理システム』を活用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。

平成25年度に、新潟市役所の統合型GISの契約終了に伴うシステムの変更が決まった。それに伴いサブシステムとして運用している『埋蔵文化財情報管理システム』についても、システムを継続するか、改めて再構築するかの問題が発生している。利便性や不具合等を考慮して検討し、再構築する方向で準備を進めている。（金田拓也）



民俗資料収蔵庫

5 資料の公開・活用

(1) 展 示

新潟市文化財センター条例の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」ための主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。

文化財センターの展示は以下のような方針で構成されている。文化財センターには市内から出土した埋蔵文化財が大量にあり、これからも毎年行う発掘調査で新資料が増えるため、博物館のようにストーリー性を持った固定的な展示ではなく、展示品・グラフィックパネル共に自ら容易に変更できるようにする。そして、出土品をできるだけ多く展示し、出土品そのもので何かを感じ取ってもらうように展示方法を工夫する。ともすれば、展示品ではなく展示解説に目が奪われがちなため展示解説は極力少なくし、来館者には職員やボランティアが展示解説をすることで補っている。展示は、展示室1・2、エントランスホールで行っている。

展示室1 導入展示室兼、展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器・陶磁器、縄文時代から近世の木製品を壁一面に展示している。また、緒立遺跡出土の網代や御井戸遺跡の木柱などの大型

木製品、市内出土の木簡レプリカを展示している。平成25年度には、「利器」の展示スペースを「近世新潟町跡」出土の陶磁器に変更した。

展示室2 大きく3つの展示に分かれている。「新潟市文化財センターの活動」では、文化財センターが行っている発掘調査現場を再現した西区四十石遺跡のジオラマと、発掘調査・整理作業で使用する器材を展示している。また、4面のウォールケースでは「遺跡が語る新潟市の歴史」と題して旧石器時代から江戸時代までの通史展示を行っている。一般になじみの薄い原始・古代・中世・近世等とせず、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥・奈良・平安時代、鎌倉・南北町・室町時代、安土・桃山・江戸時代と表記している。中央は企画展示コーナーで、「交流・交じり合う文化」と題した企画展を行った。

エントランス エントランスでは、大形品の展示のほか、速報性のある出土品の展示を行っている。平成25年度には、平成24年度に本発掘調査を行った日水遺跡と峰岡城山遺跡の展示を行った。また、寄贈を受けた海揚がりの縄文土器深鉢の展示を行い、テレビ報道されたこともあり多くの見学者があった。その後、この展示によってさらに海揚がりの珠洲焼2点が寄贈されることとなり、エントランスに露出展示することとなった。

文化財センターの開館から3年が経過し、問題点も

多々見られる。例えば、エントランスホールから展示室へ入る自動扉が壁と同色のためわかりにくく、展示室に気づかない来館者が少なくないということである。改善するべく、展示室入口の表示を大きくしたり、職員おすすめの展示を紹介する掲示を行ったりしてはいるが、根本的な解決には至っておらず、来館者に直接声をかけて展示室への入場を促している現状である。(今井さやか)

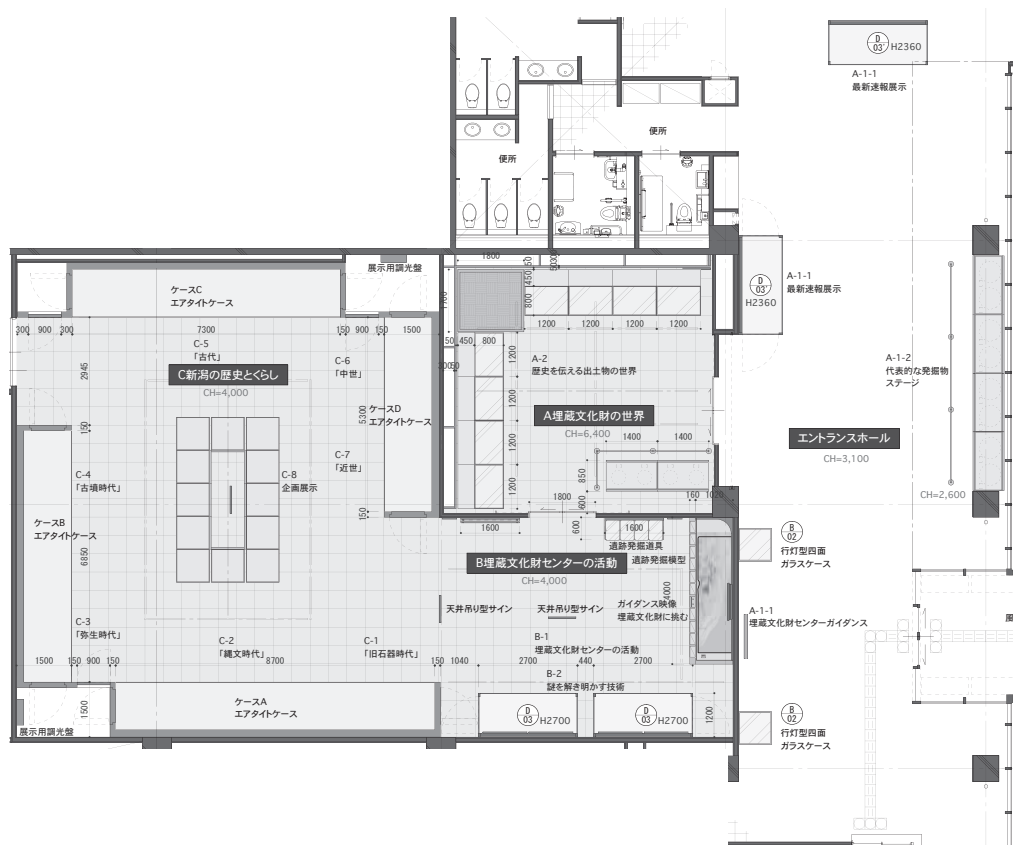


図2 エントランス・展示室平面図

6 教育普及活動

(1) 公開講座

文化財は歴史的・文化的資産としてだけでなく、地域の成り立ちなどを知る地域資産や教育的資産でもある。新潟市ではこれらの資産を普及事業として積極的に公開・活用し、地域の歴史や文化に対する意識や愛着を育んでいきたいと考えている。

本市ではこれまでも遺跡発掘調査速報会や発掘調査現地説明会、広聴課の「動く市政教室」での遺跡めぐりの開催などを行ってきた。平成23年度の文化財センターの開館により、これまでの事業に加えて募集型の講座やイベントの開催、学校などの団体利用などが可能となった。以下、平成25年度の概要について記す。

講座 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では「はじまり」をテーマとし、一つの事象を二人の講師が違う切り口で解説することとした。民俗学講座については、文化財センターの民俗資料の中から、黒埼に關係の深いテーマを2つ取り上げた。

また観察再現講座とし、ものを観察しその作り方をじっくり学ぶ講座を開催した。縄文土器を観察して再現する講座では、文化財センターのボランティアが講師となって参加者に教えた。

体験イベント 子ども向け歴史体験「縄文土器づくり」、「文化財センター仕事体験」を夏休みに開催した。

平成25年度の試みとしては、地域の方々との交流を目的とした「旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会」を開

表5 平成25年度公開講座一覧

考古学講座			
年月日	内容	講師	人数
2013/7/7 (日)	新潟市の考古学の歴史1 —江戸から昭和40年代	関 雅之 (新潟県考古学協会会員)	23
	新潟市の考古学の歴史2 —考古学者上原甲子郎さんの業績	酒井和男	
2013/10/20 (日)	我が国における農耕の起源 —現在の日本と韓国の食文化の違いから—	渡邊明和	20
	新潟県における古墳時代の稲作関連遺跡と資料	相田泰臣	
2013/11/16 (土)	縄文土器と調理	寺崎裕助	20
	森と水辺の縄文食	前山精明	
2014/1/19 (日)	馬場屋敷遺跡下層の再整理	相澤裕子	12
	保存処理のしくみ	今井さやか	
2014/3/16 (日)	新潟市の旧石器時代 —新潟市域最初の住人—	立木宏明	32
	新潟市のはじまり —土器出現期の頃を中心に—	龍田優子	
観察再現講座			
年月日	内容	講師	人数
2013/6/8 (土)	秋葉遺跡の縄文土器(王冠型土器)をつくる 【大人向け】3週連続 (6/8、6/15、6/22)	斉藤正三・佐藤英世・ 今井浩男 (まいぶんポートボランティア)	7
2013/10/6 (日)	アスファルト精製を再現する	本間敏則	10
2013/11/23 (土)	大沢遺跡の縄文土器(火箱型土器)をつくる 【大人向け】5週連続 (11/23、11/30、12/7、12/14、12/21)	斉藤正三・佐藤英世・ 今井浩男 (まいぶんポートボランティア)	11
民俗講座・体験講座			
年月日	内容	講師	人数
2013/5/11 (土)	新潟の木造和舟	岩野邦康 (新潟市新津鉄道資料館)	12
2013/9/7 (土)	藁の民具と低湿地文化	五十嵐稔 (新潟県民具学会会長)	16
2013/10/13 (日)	旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会	江戸千家新潟不白会	61
夏休み子ども歴史体験			
年月日	内容	講師	人数
2013/7/28 (日)	文化財センター仕事体験 君も考古学者	今井さやか	12
2013/8/3 (土)	縄文土器を作ってみよう ～高さ15cmの土器づくり	今井さやか、 まいぶんポートボランティア	39
2013/8/21 (水)	黒埼っ子限定 縄文土器づくり	今井さやか	9
2013/8/24 (土)	縄文土器を作ってみよう ～高さ15cmの土器づくり	今井さやか	9
新潟市遺跡発掘調査速報会			
年月日	内容	講師	人数
2014/3/2 (日)	講演 新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳めぐって	橋本博文 (新潟大学教授)	303
	報告 峰岡上町遺跡 —縄文の谷と丘陵上の奈良・平安時代集落—	前山精明	
	報告 下新田遺跡 —地中深く眠る奈良・平安時代のムラ—	龍田優子	
	報告 細池寺道上遺跡 —平安から室町時代の水田跡と人々の暮らし—	立木宏明	
	報告 大沢谷内遺跡 —平安・鎌倉時代における有力者の集落—	相田泰臣	

表6 平成25年度職員派遣・出前講座一覧

年月日	内容	会場	依頼者	派遣職員名
通年	「阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究」 研究協力者	福島県立博物館ほか	福島大学行政政策学類	金田拓也
2013/5/23 (木)	石川県史跡整備市町協議会総会・文化財研修	小松市栗津温泉 おびし荘	石川県史跡整備市町協議会	渡邊明和
2013/6/4 (火)	弥生の丘展示館について	新津中央ロータリークラブ例会場	新津中央ロータリークラブ	寺崎裕助
2013/6/8 (土)	古津八幡山古墳の遺跡見学	史跡古津八幡山 弥生の丘展示館	新潟県考古学会	渡邊明和
2013/6/9 (日)	新潟県考古学会調査報告 「古津八幡山古墳：墳丘の特徴的な盛土工法が判明」	万代市民会館	新潟県考古学会	相田泰臣
2013/8/1 (木)	夏休み子ども体験教室「勾玉づくり」	小針青山公民館	小針青山公民館	今井さやか
2013/8/1 (木)	縄文体験実習	農と縄文の体験実習館	津南町教育委員会	磯部保衛
2013/8/2 (金)		小さな美術館季	大江山縄文市実行委員会	今井さやか
2013/8/8 (木)	縄文文化の話と土偶製作体験	新潟県庁	新潟県教育庁文化行政課	今井さやか
2013/8/12 (月)	市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修 事例報告「校外学習の受け入れ」	新潟県庁	新潟県教育庁文化行政課	今井さやか
2013/9/19 (木)	秋葉区公民館講座 「史跡古津八幡山遺跡—2,000年の時を越え、よみがえる弥生の丘」	史跡古津八幡山 弥生の丘展示館	新津地区公民館	渡邊明和
2013/10/14 (月・祝)	大江山縄文市	大江山公園	大江山地区コミュニティ協議会	廣野耕造 今井さやか
2013/11/9 (土)	越後国確定1300年遺跡ウォーキング	古津八幡山遺跡ほか	新潟県教育庁文化行政課	渡邊明和 相澤裕子
2014/1/15 (水)	講演 新潟市の遺跡とその活用について	新潟県健康づくり・ スポーツ医学センター	新潟市小学校教育研究協議会	今井さやか
2014/1/21 (火)	3学年社会科授業「昔のくらし」	立仏小学校	立仏小学校	本間敏則 酒井和男
2014/1/30 (木)	3学年社会科授業「昔の道具の用途や特徴」	真砂小学校	真砂小学校	今井さやか 酒井和男
2014/2/1 (土)	キッズクラブ「勾玉づくり」	西川地区公民館	西川地区公民館	今井さやか
2014/2/14 (金)	3学年社会科授業「昔のくらし」	大形小学校	大形小学校	本間敏則 酒井和男
2014/3/9 (日)	講演「縄文時代の日本海交流—糸魚川市六反田南遺跡の事例から」	新潟県埋蔵文化財センター	新潟県教育庁文化行政課	寺崎裕助

表7 平成25年度旧武田家住宅利用状況

年月日	利用者名	目的
2013/7/7 (日)	宮本あきら (黒埼とんと)	語り部の会

表8 平成25年度体験利用人数

個人													
メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
拓本体験	5	0	2	3	10	0	0	2	2	0	3	2	29
勾玉づくり	42	58	14	41	129	36	10	25	27	8	18	53	461
勾玉づくり (スピード)	2	2	0	0	3	5	0	3	0	0	2	3	20
鑄造体験	13	4	11	17	44	25	0	2	4	6	5	33	164
火起こし (夏季)	—	—	—	56	136	—	—	—	—	—	—	—	192
さき織 (冬季)	—	—	—	—	—	—	—	—	17	12	—	—	29
合計	62	64	27	117	322	66	10	32	50	26	28	91	895

団体													
メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
拓本体験	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	15
勾玉づくり	201	86	116	79	64	23	7	66	0	0	45	0	687
鑄造体験	0	8	0	105	15	6	31	0	0	34	0	0	199
土器・土偶づくり	113	0	0	48	35	0	246	0	0	0	0	0	442
火起こし	309	94	124	124	10	47	218	66	0	0	0	0	992
合計	623	188	240	356	124	76	517	132	0	34	45	0	2,335

表9 平成25年度化財センター入館者数

月	開館日数 (日)	入館者数 (人)		
		個人	団体	計
4	25	561	326	887
5	27	676	152	828
6	26	731	223	954
7	26	869	270	1,139
8	27	990	94	1,084
9	25	706	317	1,023
10	27	713	478	1,191
11	25	589	120	709
12	23	667	47	714
1	24	495	104	599
2	19	328	88	416
3	25	719	34	753
合計		299	8,044	2,253
				10,297

表10 平成25年度団体利用・行政視察一覧

団体利用 (学校以外)			
年月日	団体名	利用内容	人数
2013/5/22 (水)	亀田福寿大学探訪部	見学	50
2013/6/5 (水)	西区役所健康福祉課	見学	28
2013/6/14 (金)	動く市政教室「立仏校区ふれあい協議会」	見学	26
2013/6/15 (土)	東北・関東前方後円墳研究会	見学	16
2013/6/18 (火)	青年海外協力協会 (バプアニューギニア)	見学・勾玉づくり	14
2013/6/29 (土)	中学通親長会	見学	15
2013/7/2 (火)	動く市政教室「上近江二丁目自治会」	見学	22
2013/7/7 (日)	東町子ども会	見学・勾玉づくり	23
2013/7/21 (日)	湯東今井子供会	見学・火起こし 勾玉・土偶づくり	60
2013/8/4 (日)	寺尾新町第一自治会	見学・勾玉・土偶・和同開珎	35
2013/8/6 (火)	明田子ども会	見学・土偶づくり	18
2013/8/9 (金)	コープにいがた	見学・火起こし・勾玉づくり	15
2013/8/31 (土)	新潟県立歴史博物館友の会	見学	26
2013/9/7 (土)	黒崎南小まめっこクラブ	見学・勾玉づくり・和同開珎	30
2013/9/8 (日)	身体障害者西区福祉協会	見学	50
2013/9/10 (火)	個人で参加動く市政教室 「西区・西蒲区の遺跡をめぐる」	見学	30
2013/9/11 (水)	西区健康福祉課	見学	26
2013/9/12 (木)	個人で参加動く市政教室 「西区・西蒲区の遺跡をめぐる」	見学	25
2013/9/19 (木)	坂井若松会	見学	25
2013/9/20 (金)	動く市政教室「寺尾新町第二自治会」	見学	27
2013/9/27 (金)	老人クラブ亀楽会	見学	20
2013/9/29 (日)	新潟県地名研究会	見学	37
2013/10/1 (火)	西区役所健康福祉課	見学	19
2013/10/10 (木)	月島月寿クラブ	見学	23
2013/10/10 (木)	デイサービスセンター小新	見学	14
2013/10/11 (金)	動く市政教室「西区山田校区ふれあい協議会」	見学	21
2013/10/14 (月)	介護老人保健施設回生園	見学・土偶づくり	20
2013/10/22 (火)	介護老人保健施設回生園	見学・拓本	20
2013/10/23 (水)	介護老人保健施設回生園	見学・和同開珎	17
2013/10/24 (木)	デイサービスセンター小新	見学	15
2013/10/25 (金)	西区役所健康福祉課	見学	16
2013/11/6 (水)	白根商工会女性部	見学	30
2013/11/13 (水)	市小研北部ブロック (社会)	見学	30
2013/11/23 (土)	吉田東伍記念博物館友の会	見学	20
2013/12/5 (木)	岩室地区公民館さわやかセミナー	見学	22
2013/12/11 (水)	市小研中部ブロック (社会)	見学・和同開珎	25
2014/2/1 (土)	ウェルカム新潟	見学・勾玉づくり	30
2014/2/16 (日)	三条市生涯学習課 (縄文楽検定事前講習会)	見学	29
合計			969

団体利用 (学校)			
年月日	団体名	利用内容	人数
2013/4/16 (火)	亀田西小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	107
2013/4/17 (水)	小林小学校	見学・火起こし・土器づくり	37
2013/4/17 (水)	笠木小学校	見学・勾玉づくり	16
2013/4/23 (火)	浜浦小学校	見学・火起こし・土偶づくり	55
2013/4/25 (木)	南中野山小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	87
2013/4/26 (金)	升湯小学校	見学・火起こし・土器づくり	17
2013/5/2 (木)	大鷲小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	24
2013/5/9 (木)	坂井東小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	70
2013/5/29 (水)	内野小・中学校希望ヶ丘分校	見学・火起こし・和同開珎	15
2013/6/26 (水)	木戸小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	104
2013/6/28 (金)	黒崎南小学校	見学・火起こし	20
2013/7/12 (金)	小針小学校	見学・火起こし・和同開珎	105
2013/9/25 (水)	関屋中学校	職場体験	4
2013/9/25 (水)	笹口小学校	見学・火起こし	47
2013/9/26 (木)	関屋中学校	職場体験	4
2013/10/1 (火)	坂井輪小学校	見学・火起こし・土器づくり	126
2013/10/11 (金)	松野尾小学校	見学・火起こし 勾玉づくり・和同開珎	15
2013/10/16 (水)	黒崎中学校	地域学習	36
2013/10/17 (木)	山田小学校	見学・火起こし	75
2013/10/24 (木)	桜が丘小学校	見学・火起こし・土器づくり	97
2013/11/1 (金)	濁川小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	70
2014/1/21 (火)	黒崎南小学校	見学・和同開珎	37
2014/1/23 (木)	立仏小学校	見学・民具学習	67
2014/2/18 (火)	根岸小学校	見学・民具学習	29
2014/3/11 (火)	黒崎南小学校	見学・民具学習	34
合計			1,298

行政視察・研究会			
年月日	団体名	利用内容	人数
2013/4/28 (日)	弘前大学・石油の世界館友の会	資料調査	7
2013/6/27 (木)	弘前大学	資料調査	2
2013/8/1 (木)	能登町教育委員会	施設見学	3
2013/9/6 (金)	アスファルト研究会	資料調査・実験	15
2013/11/30 (土)	アスファルト研究会	研究会・資料調査	16
2014/2/21 (金)	静岡県埋蔵文化財センター	施設見学	3
合計			46



新潟市遺跡発掘調査速報会



夏休み子ども歴史体験「君も考古学者」

催した。江戸千家新潟不白会の協力のもと、大正・昭和期の写真パネルや民具を待合に展示し、旧武田家住宅の茶の間にて立礼式で行った。開館以来まだ来館されていない地元の方に来ていただくことができ、一定の効果があつた。

速報会 平成25年度の遺跡発掘調査速報会では、講演の部に新潟大学の橋本博文教授を招き、同年8月の新聞報道により市民の関心が高まっていた「牡丹山諏訪神社」境内で採集された埴輪片について講演をしていただいた。

出前講座・職員派遣 文化財センターでは、研究団体、地方自治体、市民団体などに依頼に応じて職員派遣を行っている。本市では、通常の派遣申請以外に、市民が市政に関するテーマについて学びたい場合に職員を派遣する「市政さわやかトーク宅配便」制度がある。これはFAXやメールで必要事項を記載し担当課に送れば、その他の書類手続きが不要という簡便さが利点の制度である。

平成25年度には、講座形式の派遣依頼のほか、公民館での体験活動での派遣依頼がある。このような体験活動を安易に出前で行うと、入館者につながらないとの批判もあるが、文化財センターが公共交通機関で来られない立地であることから、より多くの子どもたちに歴史に興味を持ってもらうきっかけとして、出前の依頼を受けている。そして、出前を受ける際には、ただの「体験工作」にならないよう、必ず遺跡についての話をするように心がけている。

(2) 施設利用

文化財センターでは、展示見学のほかに「体験コーナー」として研修室の一部を使用して新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができるスペースを設置している。体験コーナーでは、「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当の負担をいただいている。また、無料の体験として新潟市内から出土した土器をもとに制作した「土器パズル」が5点ある。

平成25年度には、団体向けの火起こし体験を個人で体験できるようにしてほしいという要望に応え、個人向けに夏休み期間中は火起こし体験、冬休み期間中は裂き織り体験ができるようにした。結果、火起こし体験が192名、裂き織り体験が29名の参加者があつた。

また、旧武田家住宅及び体験広場（芝生）の貸出（有料）を行っている。利用状況は表7のとおりである。



中学生職場体験



旧武田家住宅で民具とお茶会を楽しむ会



大沢遺跡の縄文土器を作る

(3) 入館者数

文化財センターの入館者数は表9のとおりである。平成24年度に比べて個人・団体ともにわずかに減少している。なお、空調機の燻蒸作業のため2月に5日間の臨時休館を行った。

入館者のアンケートからは、「展示室内にもっと椅子をおいて欲しい。」「解説文が子どもには難しい内容。」「また次回も来たいと思う工夫が必要。」等、今後の改善につながるご指摘をいただいた。

平成26年3月末までの開館からの累計入館者数は30,992人である。

(4) 団体見学・施設見学

小学校や子ども会などの子どもが主体の団体では、見

表11 平成25年度資料対応件数一覧

考古資料
特別利用許可

件数	申請者	資料	点数	来館日	備考
1	石油の世界館友の会 中島哲宏	大沢谷内遺跡 アスファルト	10箱	平成25年 4月28日	出土アスファルトの観察・撮影、アスファルトの出土状況や分布、利用の実態などの調査
2	個人	的場遺跡確認調査 土器	41	平成25年 6月21日	城の山古墳調査に関する古墳時代集落の検討
3	弘前大学人文学部付属亀ヶ岡文化研究センター 上條信彦	大沢谷内遺跡 アスファルト	3	平成25年 6月27日	弘前大学特別研究「冷温帯地域の遺跡資源の保存活用促進プロジェクト」におけるアスファルトの利用法と流通実態の研究
4	個人	鳥屋遺跡 土器	1	平成25年 7月10日	土器づくり
5	個人	大沢谷内遺跡 アスファルト塊・アスファルト 付着土器	10箱	平成25年 7月30日	研究・書籍執筆
6	個人	南赤坂遺跡 石器	40	平成25年 8月19日	研究・論文執筆
7	個人	大沢谷内遺跡 土器	81	平成25年 9月18日	修士論文作成
8	愛知県陶磁美術館 井上喜久男	新潟市内出土土施軸陶器	110	平成25年10月 3日	愛知県史「別編窯業1 古代製陶」編集
9	個人	緒立A遺跡確認調査 図面	一式	平成25年12月17日	城の山古墳調査に関する古墳関連調査の検討
10	個人	南赤坂遺跡 石器	40	平成26年 1月29日・ 2月10日	研究・論文執筆
11	個人	南赤坂遺跡 土器	1	平成26年 2月20日	城の山古墳出土遺物に関する資料調査
12	個人	松影入遺跡 土器	2	平成26年 2月25日	発掘報告書の理解を深める
13	新潟大学災害・復興科学研究所 齋藤瑞穂	手代山北遺跡ほか 漆器	18	平成26年 3月25日	近世漆器に関する資料紹介執筆
14	個人	南赤坂遺跡 土器	48	平成26年 4月 3日	南赤坂遺跡等の縄文土器の特徴について学習
15	個人	茶院遺跡ほか 土器	37	平成26年 4月13日	調査研究

貸出許可

件数	申請者	資料	点数	貸出期間	備考
1	医療社団法人幸人会 理事長 阿達敏幸	諏訪遺跡 土器	5	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月31日	常設展示
2	新潟市江南区郷土博物館 市長 篠田 昭	砂崩遺跡ほか 土器ほか	51	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月31日	常設展示
3	中之口資料館 市長 篠田 昭	茶院A遺跡 土器ほか	8	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月31日	常設展示
4	新潟市西川地区公民館 館長 布施正男	中才遺跡 須恵器横瓶	1	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月28日	西川学習館にて展示、3月28日で展示終了
5	新潟市北区郷土博物館 館長 宮崎芳春	鳥屋遺跡 土製品・石器 鳥屋遺跡 土器レプリカ	23 12	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月31日	常設展示
6	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	笹山前遺跡ほか 土器ほか 的場遺跡 レプリカ 的場遺跡 土錘・石錘 近世新潟町遺跡 陶磁器・泥面子	84件 54 48 27	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月31日	常設展示
7	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	大沢谷内北遺跡ほか 漆器	12	平成25年 6月18日～ 9月10日	企画展「新潟の漆器」展示
8	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	緒立遺跡ほか 土器ほか	114	平成25年 7月 9日～ 9月20日	企画展「弥生時代のいがた」展示
9	信濃川火焔街道連携協議会 会長 篠田 昭	秋葉遺跡 王冠型土器	1	平成25年 8月 1日～ 8日	連携展示会「信濃川流域の火災土器展」展示
10	十日町市博物館 館長 佐野芳隆	西郷遺跡 足形土版	2	平成25年 9月 9日～ 11月15日	企画展「ビジュアル縄文博物館」展示
11	新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館 館長 橋本博文	山谷古墳 土器ほか	40	平成25年 9月30日～ 12月 9日	企画展「古墳研究と文化財保存運動の先達―甘粕健の足跡―」展示

掲載許可

件数	申請者	資料	点数	許可日	備考
1	有限会社スタジオパラム 代表取締役 清水信次	古津八幡山遺跡・弥生の丘展示館関係写真	8	平成25年 4月18日	『関東・甲信越古代遺跡ガイド』掲載
2	株式会社新泉社 代表取締役 石垣雅設	御井戸遺跡出土 朱漆塗り水差し形容器の出土 状況写真、片口容器と水差し形容器の出土状況 写真	2	平成25年 4月18日	『考古学研究法』掲載
3	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	大沢谷内北遺跡ほか 漆器写真	12	平成25年 5月 7日	企画展「新潟の漆器」図録掲載
4	国土交通省北陸地方整備局北陸技術事務所 所長 古川正幸	大沢谷内遺跡 噴砂痕写真	1	平成25年 5月14日	『石川・富山県内液状化しやすさマップ』掲載
5	十日町市博物館 館長 佐野芳隆	西郷遺跡 足形土版写真	2	平成25年 6月25日	企画展「ビジュアル縄文博物館」リーフレット掲載
6	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	緒立遺跡ほか 出土品等写真	46	平成25年 6月25日	企画展「弥生時代のいがた」図録掲載
7	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	古津八幡山遺跡紹介DVD	1	平成25年 7月 8日	企画展「弥生時代のいがた」展示室にて上映
8	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	古津八幡山遺跡 遠景写真	1	平成25年 7月26日	企画展「弥生時代のいがた」図録掲載
9	有限会社三狭舎 代表取締役 安田清人	古津八幡山遺跡 航空写真、葛蒲塚古墳 航空 写真	2	平成25年 7月 5日	洋泉社歴史新書『あなたの知らない新潟県の歴史』掲載
10	新潟県教育庁文化行政課 課長 本田雄二	古津八幡山遺跡 航空写真、ガイドブックNo.1 掲載イラスト	2	平成25年 7月19日	埋蔵文化財イベント広報紙「新潟まいぶんナビ秋・冬号」掲載
11	福岡県立大学人間社会学部公共社会学科 岡本雅享	南赤坂遺跡 土器写真	1	平成25年 7月30日	山陰中央新聞連載記事「出雲を原郷とする人たち 越後佐渡国編」 掲載
12	信濃川火焔街道連携協議会 会長 篠田 昭	大沢谷内遺跡 遠景写真、秋葉遺跡 発掘調査状況 写真	2	平成25年 7月30日	「信濃川流域の火災土器展」展示パネル作成
13	株式会社タカヨシ 代表取締役社長 高橋春義	古津八幡山遺跡 復元竪穴住居写真	1	平成25年 9月 3日	新潟県労働金庫情報誌「ニコル」掲載
14	株式会社コム 代表取締役社長 山本勝司	古津八幡山古墳 全景写真・発掘調査風景写真	3	平成25年12月19日	NST新潟総合テレビ特番「城の山古墳」にて使用
15	新潟中心商店街協同組合 理事長 松崎利春	近世新潟町跡 図面・出土遺物写真	9	平成26年 2月28日	第2回古町誕生祭の展示パネルに使用
16	新潟日報社読者ふれあいセンター 次長 渡辺 勇	大沢谷内遺跡 アスファルト写真	5	平成26年 3月 6日	新潟日報こども新聞「週刊ふむふむ」掲載
17	個人	馬場屋敷遺跡 木簡赤外線写真	1	平成26年 3月17日	新潟県石仏の会会報「ストーンサークル」掲載
18	株式会社コム 代表取締役社長 山本勝司	古津八幡山古墳 全景写真	2	平成26年 3月18日	「城の山古墳」DVD作成

寄附申込

件数	申込者	資料	点数	申込日	備考
1	個人	御井戸遺跡 土器ほか	423	平成25年10月18日	『巻町史資料編1 考古』掲載資料含む
2	個人	縄文土器深鉢	1	平成25年12月16日	角田山沖海揚がり
3	個人	珠洲焼堯・播鉢	2	平成26年 1月 7日	角田山沖海揚がり
4	個人	笹山前遺跡ほか 土器ほか	1976	平成25年12月25日	『横越町史資料編』掲載資料含む
5	個人(青木宏氏ご遺族)	東港出山・緒立・的場遺跡関係資料ほか	一式	平成25年 1月15日	
6	個人(青木宏氏ご遺族)	書籍	479	平成25年 2月 3日	

学だけではなく体験学習を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として4・5月には6学年の歴史で、1月には3学年の昔のくらしで利用する傾向にある。平成25年度では、小学校・中学校の利用は25校であった。社会科の授業以外に、職場体験実習として利用する学校もある。また、介護老人施設の見学利用が増加してきているのが、当センターの特徴でもある。

(今井さやか)

(5) 資料利用

(a) 手続きに関する条例・規則

特別利用許可 文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影等を行う場合：『新潟市文化財センター条例』及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を市教委宛に提出する。

貸出許可 考古資料の寄託・借用・貸出等をする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』により許可申請書等を市教委に提出する。

寄附申込 考古資料の寄附申し込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を市長あてに提出する。

民俗資料 民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市物品管理規則』により許可申請書を市長あてに提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続きは適用規則がないため、任意書式提出を依頼している。

(b) 利用件数

以下、平成25年度の各利用件数について記す。

特別利用許可 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は15件である。

貸出許可 考古資料と民具資料の貸出許可は、博物館等での常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展等の短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。公民館等では地域の歴史に親しみを感じてもらおう観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸出期間等は『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』に規定されている。常設展示に伴う長期貸出6件、企画展等に伴う短期貸出5件である。

掲載許可 文化財センターが保管する写真や報告書等掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物等で使用する場合がある。利用件数は18件であった。

寄附申込 6件である。寄附していただいた資料の一

部は『巻町史』・『横越町史』掲載資料も含まれている。寄附していただいた資料は文化財センターでの展示に活用している。なかでも、郷土史家青木宏氏のご遺族より寄付し

ていただいた緒立遺跡や的場遺跡等の調査資料や写真等は、昭和30年代に行った市内で最も古い行政が発掘調査を行った記録として重要である。

(6) 図書の収蔵と閲覧

(a) 収蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式移動7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きをし、登録が終わったものから順次配架を行っている。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じるようになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室の他、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。

書誌情報の入力作業は、司書（臨時職員）3名を雇用して、入力作業を継続して行っている。なお、書誌情報の入力は平成21年度に構築した埋蔵文化財情報管理システムを利用している。入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベル・バーコードを貼る作業を行っている。平成26年3月末までの入力数は38,054冊である。

(b) 利用状況

図書室では、2名分の閲覧スペースがある。大まかに配架作業が終了した平成24年6月から閲覧開始するとともに、著作権法の範囲内でコピーサービス（有料）も開始した。図書室の利用人数とコピーサービス利用人数は表12のとおりである。

なお、収蔵図書は、発掘調査報告書等の発行部数の少ない稀観本がほとんどのため、館外貸出は行っていない。

(相澤裕子)

表12 平成25年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用 (人)	コピー利用 (人)
4月	11	2
5月	5	0
6月	9	3
7月	8	0
8月	13	3
9月	9	1
10月	9	7
11月	3	0
12月	6	1
1月	6	3
2月	3	1
3月	6	0
合計	88	21

7 保存処理

(1) 木製品の保存処理について

処理の方針 平成25年度には21遺跡34調査分422点の木製品の保存処理を行った(表13)。処理方法は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG(ポリエチレングリコール)含浸法を中心に行っている。平成24年度に導入の可能性をさぐり試験的に行ったトレハロース含浸法について、PEG法では漆被膜がはがれて行えない漆器や木質が丈夫で若干の強化で済む近世遺跡の木製品についてトレハロースで行うこととした。また、センターの含浸槽に入らない大きな遺物については、適宜外部委託を行っている。

処理工程 各処理法による作業は、遺物の洗浄、脱鉄処理、処理前の写真撮影、処理前の重量等の計測といった共通作業以降、以下のような工程で行われている。

PEG含浸法

①含浸 低濃度のPEG水溶液(重量濃度20%)から徐々に濃度を上げ、最終的に100%PEG溶液に含浸する。

②引きあげ 溶液から資料を取り出し、温水で表面を洗浄し、常温で固化させる。

③接着・復元 破片の接着や亀裂・欠損部分の復元を行う。接着剤はシアノアクリレート系及びエポキシ系接着剤を用いる。また、補てんはエポキシ系樹脂を使用する。

④調査・記録 処理中に変化した箇所はないか点検し、処理後の記録をとり、写真撮影なども併せて行う。

トレハロース含浸法 漆器などのPEGに向かない遺物や、保存処理を急ぐものについて、トレハロース含浸法で行っている。

①含浸 低濃度のトレハロース水溶液(重量濃度20%)から徐々に濃度を上げ、最終的に72%トレハロース溶液に含浸する。漆器の場合は常温で含浸できる50%トレハロース溶液までとする。

②引きあげ 溶液から資料を取り出し、風を当てながら結晶化を行う。またスチームを使用した表面処理を行う。

③接着・復元以降の工程は、PEG含浸法に同じである。

なお、すべての作業経過を保存処理カードに記載し、処理後の資料は温湿度管理された特別収蔵庫において保管している。

処理の概要 平成25年度は、発掘から20年以上が経過し劣化の著しい的場遺跡(1989007)、上浦B遺跡(1992004)、山木戸遺跡(1994004)出土木製品の保存処理をPEG含浸法で行った。

(2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の方針 金属製品では主に鉄製品と青銅製品の保存処理を行った。平成25年度には6遺跡343点の保存処理を行った(表14)。

新潟市では、福岡市埋蔵文化財センターを参考に、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。

処理工程 鉄製品と青銅製品では、処理の工程が多少異なるが、顕微鏡による表面観察、処理前の写真撮影、X線写真撮影、処理前の遺物の計測といった共通の作業が行われ保存処理カードに記録される。保存処理カードは(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団と同じものを使用している。

①クリーニング 資料に付着した土やさびの除去を行う。アルコール洗浄を行ったのち、鉄製品はグラインダーやエアブラシを使用。銅・青銅製品については顕微鏡下でメスを用いてさびや汚れを除去する。

②脱塩処理 鉄製品において腐食を促進する塩化物・硫化物イオンを取り除く必要がある。高温・高圧のオートクレーブを使用して作業を行っている。

③安定化 青銅製品においてはBTA(ベンゾトリアゾール)によって塩類の不活性化を図っている。

④樹脂含浸 資料の強化や腐食促進因子からの隔離を目的として、合成樹脂による保護を行っている。鉄製品にはパラロイドNAD-10を、銅・青銅製品にはパラロイドB72を使用している。内部まで樹脂を浸透させるため70cmHg程度の減圧含浸を行っている。

⑤接着・復元 接着については、シアノアクリレート系接着剤またはエポキシ系接着剤を使用している。また補強や欠損の補てんにはエポキシ系樹脂を使用する。

⑥記録・保管 処理中に変化した箇所はないか点検し、処理後の記録をとり、写真撮影なども併せて行う。保存処理後もできる限り安定した環境に保管するためにバリアフィルムと脱酸素剤を資料と一緒に封入し(三菱ガス化学RPシステム)、特別収蔵庫に収蔵している。

処理の概要 平成25年度は、調査年次の古い小丸山遺跡(1986001)から保存処理を行った。鉄製品では山木戸遺跡(1994004)の資料が多く平成25年度中に山木戸遺跡の鉄製品保存処理を終えることができなかった。

青銅製品については、再整理作業の過程であらたに出来た資料の保存処理を行うにとどまった。

(3) 保存処理外部委託について

前記したように、PEG処理法に向かない木製品など当センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている。(今井さやか)

表13 平成25年度木製品、鉄製品、銅・青銅製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
若宮様遺跡	1983004	木製品	漆器椀	トレハロース	7	
の場遺跡	1989007	木製品	箸	PEG	139	
の場遺跡	1989008	木製品	漆器椀	トレハロース	25	
上浦A遺跡	1992001	木製品	木柱	PEG	8	
上浦B遺跡	1992004	木製品	木柱	PEG	52	
山木戸遺跡	1994004	木製品	井戸側部材	PEG	11	
松影A遺跡	1997106	木製品	漆器椀	トレハロース	1	県確認調査
内野遺跡	1999001	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
前田遺跡	1999002	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
桜大門遺跡	2004002	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
浄楽遺跡	2004132	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
羽黒西遺跡	2004152	木製品	漆器椀	トレハロース	2	
森田遺跡	2004202	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
沖ノ羽遺跡	2005002	木製品	箸	PEG	95	
駒首湯遺跡	2006004	木製品	斎串	トレハロース	49	
結七島遺跡	2006006	木製品	漆器椀	トレハロース	2	
近世新潟町跡	2006147	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2006216	木製品	漆器椀	トレハロース	2	
手代山北遺跡	2007007	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
下山地内	2007217	木製品	漆器椀	トレハロース	1	遺跡外
上浦A遺跡	2007236	木製品	下駄	トレハロース	1	絵入り
上浦A遺跡	2008007	木製品	ひょうたん	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2008247	木製品	板材、杭	PEG	6	
近世新潟町跡	2009241	木製品	漆器椀	トレハロース	2	
白根バイパス	2009244	木製品	漆器椀	トレハロース	2	県試掘調査
細池寺道上遺跡	2010003	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	もみ殻	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2012119	木製品	漆器椀	トレハロース	7	
正尺A遺跡	2012140	木製品	板状木製品	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2012191	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2012201	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2012202	木製品	漆器椀	トレハロース	2	
正尺A遺跡	2013105	木製品	板状木製品	トレハロース	1	
下郷南	2013106	木製品	ひょうたん	トレハロース	1	
合計					422	
小丸山遺跡	1986001	鉄製品	鎌	クリーニング 樹脂含浸	7	
新五兵衛山遺跡	1988001	鉄製品	釘	クリーニング 樹脂含浸	24	
荒木前遺跡	1989004	鉄製品	釘	クリーニング 樹脂含浸	33	
の場遺跡	1989007	鉄製品	鏝	クリーニング 樹脂含浸	17	
居村A遺跡	1990003	鉄製品	釘	クリーニング 樹脂含浸	1	
山木戸遺跡	1991004	鉄製品	釘	クリーニング 樹脂含浸	257	
合計					339	
小丸山遺跡	1986001	青銅製品	火箸	クリーニング 樹脂含浸	3	
の場遺跡	1970001	青銅製品	不明銅製品	クリーニング 樹脂含浸	1	
合計					4	

表14 平成25年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	点数	器種等	委託先	金額(円)	合計(円)
西郷遺跡	2006012	13	木柱、 他3遺跡の漆器	元興寺 文化財研究所	4,567,584	5,463,696
沖ノ羽遺跡	2005002	9	草履芯他	元興寺 文化財研究所	896,112	

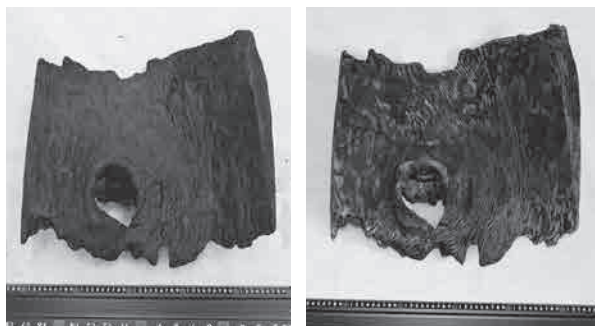
8 決算額

平成25年度の文化財センターの決算額は表15の通りである。
(福地康郎・上田俊哉)

表15 平成25年度文化財センター決算額

区 分		決算額(円)
○使用料及び手数料		911,950
文化財センター設備使用料		1,450
行政財産使用料		910,500
○国庫支出金		44,399,000
市内遺跡範囲等確認調査事業費		12,024,000
埋蔵文化財保存処理		5,979,000
満日地区圃場整備発掘調査費		1,350,000
両新地区圃場整備発掘調査費		3,650,000
道上地区圃場整備発掘調査費		2,375,000
史跡古津八幡山遺跡整備・保存活用事業費		5,774,000
文化財センター保存・活用事業		13,247,000
○諸収入		133,780,000
満日地区圃場整備発掘調査		24,300,000
両新地区圃場整備発掘調査		65,700,000
道上地区圃場整備発掘調査		42,750,000
小規模緊急発掘調査		1,030,000
○雑入		747,950
○市債		3,000,000
(合併)史跡古津八幡山遺跡整備事業債		3,000,000
合 計		182,838,900

区 分		決算額(円)
○文化財保護調査事業		1,509,861
埋蔵文化財保護費		1,509,861
○市内遺跡範囲等確認調査事業		32,561,234
○出土品整理活用事業		3,980,291
○埋蔵文化財本格発掘調査事業		148,530,000
満日地区圃場整備発掘調査		27,000,000
両新地区圃場整備発掘調査		73,000,000
道上地区圃場整備発掘調査		47,500,000
小規模緊急発掘調査		1,030,000
○古津八幡山古墳保存整備事業		6,410,450
○史跡古津八幡山遺跡整備活用事業		6,762,366
○史跡古津八幡山遺跡及びガイダンス施設管理運営費		11,253,066
○文化財センター管理運営費		76,537,134
○加入団体等負担金		800,000
信濃川火焔街道連携協議会負担金		800,000
合 計		288,344,402



井戸側 左：保存処理前 右：保存処理後（山木戸遺跡）

IV 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場

1 史跡古津八幡山遺跡保存整備活用事業の概要

(1) 史跡・整備概要

古津八幡山遺跡は、弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落と新潟県最大級の古津八幡山古墳からなり、弥生時代終末期から古墳時代の移り変わりを示す北陸北東部の典型的な遺跡として、平成17年に国史跡に指定された。現在は平成23年の追加指定を含め、約12haが国指定史跡となっている。

平成17年に公有化、平成18年から史跡整備を進め、弥生時代の高地性環濠集落内の竪穴住居7棟・環濠・土塁・方形周溝墓や前方後方形周溝墓の復元整備が行われている。

平成24年にはガイダンス施設「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」が開館した。また、弥生時代の高地性環濠集落の遺構復元ゾーンが概ね完了したことからガイダンス施設の開館に併せ「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として暫定オープンした。

史跡内には高地性集落廃絶後に造られた古津八幡山古墳が築かれているが、第二次世界大戦中や戦後の開墾により古墳本来の姿が大きく損なわれていた。そこで、形や規模・構造、埋葬施設の有無、築造方法、築造年代の解明を主な目的として、平成23（第17次）～25年（第19次）の3か年にかけて確認調査を行った。調査の結果、平安時代以降の削平で埋葬施設は検出することができなかったが、直径60mの新潟県内最大級の古墳であること

や墳丘の築造方法が明らかになった〔相田ほか2014〕。

また、確認調査と併行して、平成24年度には古墳本来の姿に復元整備するために復元整備実施設計を作成した。実施設計の方針としては、墳丘復元を後世にも検証可能とするために墳丘全体に約1mの保護盛土を行い原則として復元のための削平は行わないこと、古墳時代の墳丘・周濠を主に復元整備し、弥生時代の環濠は平面表示とすることとした。平成25・26年にかけて古墳の復元整備工事を行い、平成27年4月中旬に古墳も含めた史跡公園として全面オープン予定である。

(2) 施設情報

平成24年4月21日、ガイダンス施設である「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」の開館に併せ、古津八幡山遺跡歴史の広場として暫定オープンした。

新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

ガイダンス施設 「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」

住 所 新潟市秋葉区蒲ヶ沢264番地

（花と遺跡のふるさと公園内）

開館時間 10：00～17：00

休 館 日 月曜日・休日の翌日・年末年始（12月28日～1月3日）

入 館 無料

体 験 無料・有料（表2）

駐 車 場 181台（身障者用3台分）共用

交 通 JR古津駅から徒歩20分（1.6km）

史跡公園

復元竪穴住居はガイダンス施設の開館時間と同じ。広場は通年利用が可能。

管 理 新潟市文化財センターが直接管理。

史跡公園における芝刈り・草刈り、竪穴住居の燻蒸作業や枯れ枝の伐採、園路周辺の草刈り等をNPO法人にいがた森林の仲間の会に委託している。史跡公園では休館日を除き、4～11月は毎日3～4人、冬期間の12～3月は2人ずつ常駐して作業を行っている。

弥生の丘展示館は、平常時は非常勤職員2名と臨時職員1～2名で施設管理や体験学習の指導を行っており、イベント等で来館者が多い時には文化財センター職員も一緒に事業を行っている。



体験学習室（平成25年度花ふるフェスタ）

表1 体験学習メニューと料金

メニュー	単位	料金(円)	所要時間(分)
勾玉づくり	1個 紐付	200	60
管玉づくり	1組4個 紐付	200	60
土器・土偶づくり	粘土500g	100	120
土笛・土鈴づくり		100	60
鑄造体験(銅鐸・銅鏡)	銅鏡1個 紐付	400	30
	銅鐸1個 紐付	900	30
編布(アングン) 編み	初心者コース カラムシ5g	300	120
	上級者コース カラムシ10g	500	180
鹿角ペンダントづくり	先端部以外1個 紐付	100	60
	先端部1個 紐付	500	15
土器パズル	飽きるまで	無料	10
火起こし体験	-	無料	15
弓矢体験	1人3本	無料	10
石斧体験	疲れるまで	無料	10

表2 平成25年度体験学習メニュー(事前申し込み不要)と参加人数

月	体験学習メニュー		参加者数			
	屋内体験(有料)	屋外体験(無料)	個人	団体	計	1日平均
4	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	石斧体験	139	0	139	5
5	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	弓矢体験	897	335	1,232	46
6	鑄造体験(銅鐸・銅鏡)	火起こし体験	939	127	1,066	41
7	勾玉・管玉づくり	火起こし体験	1,171	8	1,179	45
8	勾玉・管玉づくり 鹿角ペンダントづくり	弓矢体験	1,309	89	1,398	52
9	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	弓矢体験	780	357	1,137	45
10	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	火起こし体験	353	66	419	16
11	勾玉・管玉づくり	石斧体験	254	119	373	15
12	鑄造体験(銅鐸・銅鏡)	火起こし体験(室内)	250	0	250	11
1	編布(アングン) 編み 勾玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	287	0	287	13
2	編布(アングン) 編み 勾玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	92	0	92	6
3	編布(アングン) 編み 鑄造体験(銅鐸・銅鏡)	火起こし体験	238	8	246	10
合計			6,709	1,109	7,818	
平均						27

表3 平成25年度団体種別利用件数と人数

分類	件数	人数(人)
小学校	16	942
各種サークルなど	14	256
行政	8	227
その他	7	202
公民館・自治会・町内会	4	92
中学校	3	40
市政教室	2	70
高校	2	55
研究団体	2	51
合計	58	1,935

表5 平成25年度イベント・体験学習(事前募集)・公開講座参加人数

年月日	内容	人数(人)
2013/4/7(日)	ボランティア養成講座 4	12
2013/4/28(日)	史跡古津八幡山遺跡で弥生時代の稲作体験(田起こし)	13
2013/5/12(日)	史跡古津八幡山遺跡で弥生時代の稲作体験(田植え)	8
2013/5/19(日)	春の植物観察	22
2013/6/2(日)	第12回にいつ花ふるフェスタ(当日受付)	912
2013/6/23(日)	史跡古津八幡山遺跡で弥生時代の稲作体験(田・雑穀島草取り)	15
2013/7/27(土)~28(日)	弥生宿泊体験(雨の為中止)	-
2013/8/18(日)	シンポジウム「蒲原平野の王墓 古津八幡山古墳を考える—1600年の時を越えて—」	265
2013/8/25(日)	発掘調査体験	3
2013/9/8(日)	史跡古津八幡山遺跡で弥生時代の稲作体験(赤米収穫・雑穀島草取り)	18
2013/9/21(土)	史跡古津八幡山遺跡で弥生時代の稲作体験(黒米収穫)	17
2013/9/22(日)	まいぶん祭り(当日受付)	410
2013/10/13(日)	発掘調査体験	16
2013/10/27(日)	秋の植物観察	7
2013/11/9(土)	新潟県遺跡ウォーキング(第4回)「国史跡古津八幡山遺跡と石油の里の紅葉を巡る」	74
2013/11/10(日)	秋の森の味覚体験	17
2013/11/24(日)	史跡古津八幡山遺跡で弥生時代の稲作体験(脱穀・初すり)	8
2013/12/8(日)	里山のクラフトづくり体験	39
2014/1/12(日)	弥生の餅つき(当日受付)	395
2014/3/16(日)	春を探しに行こう(植物観察)	23
合計		2,274

表4 平成25年度団体利用一覧

年月日	団体名	人数(人)
2013/4/17(水)	年金者組合新津支部	12
2013/4/25(木)	矢代田小学校	39
2013/4/30(火)	巻南小学校	83
2013/5/1(水)	阿賀小学校	47
2013/5/2(木)	新潟翠江高校	25
2013/5/9(木)	田上町立羽生田小学校	74
2013/5/10(金)	東石山中学校	5
2013/5/15(水)	庄瀬小学校・茨曾根小学校・新飯田小学校	45
2013/5/23(木)	鶴岡市立羽黒第三小学校	30
2013/5/30(木)	新潟市運動普及推進協議会	50
2013/6/4(火)	新潟市動く市政教室	35
2013/6/6(木)	西川小学校	23
2013/6/6(木)	新潟市動く市政教室	35
2013/6/7(金)	森のようちえん	34
2013/6/8(土)	新潟県考古学会	25
2013/6/9(日)	郷土に親しむ会	25
2013/6/10(月)	湯東南小学校	19
2013/6/13(木)	栃尾公民館寿大学	25
2013/6/21(金)	ふるさと会	16
2013/6/21(金)	新潟市広聴相談課	26
2013/6/23(日)	新潟市歴史博物館ボランティア	21
2013/6/27(木)	新潟小学校	109
2013/7/2(火)	まさご会	40
2013/7/3(水)	新発田市さわやかルーム	10
2013/7/12(金)	結小学校	118
2013/7/19(金)	栃尾公民館 寿大学	20
2013/8/8(木)	大郷地区コミュニティ協議会	30
2013/8/23(金)	新津第二中学校	8
2013/8/31(土)	新潟県立博物館友の会	25
2013/9/5(木)	五十嵐小学校	111
2013/9/14(土)	小須戸地区公民館	21
2013/9/14(土)	箴の会	10
2013/9/15(日)	新潟県点字図書館	12
2013/9/15(日)	NHK学園高校	30
2013/9/19(木)	五泉市立五泉中・川東中・五泉南小・五泉東小学校特別支援学級	27
2013/9/20(金)	東青山小学校	98
2013/9/23(月)	山形県天童市西沼田遺跡公園	20
2013/10/2(水)	小合東小学校	19
2013/10/6(日)	親松ウォーキングの会	15
2013/10/10(木)	サークルすみれ	9
2013/10/10(木)	エイジレス21	20
2013/10/11(金)	西区 山田校区ふれあい協議会	21
2013/10/17(木)	新潟市学校教育研究協議会社会科部	30
2013/10/18(金)	中部北陸ブロック法人連絡協議会	12
2013/10/25(金)	新発田郷土研究会	26
2013/11/1(金)	目崎会	15
2013/11/2(土)	中村さくら会	15
2013/11/7(木)	早通小学校	40
2013/11/7(木)	全国遺跡整備会議	56
2013/11/8(金)	西区寺尾北自治会	26
2013/11/9(土)	秋葉区役所地域課	25
2013/11/13(水)	駅からウォーキング	74
2013/11/13(水)	秋葉区役所地域課	16
2013/11/14(木)	平島長生会	21
2013/11/19(火)	南浜小学校	26
2013/11/19(火)	西区NPO坂井輪地域学	21
2013/11/20(水)	万代長嶺小学校	61
2014/3/20(木)	アスパークの会	4
合計		1,935

表6 平成25年度入館者数

月	開館日数	来館者数			
		個人	団体	人数	累積人数
4	26日	2,658	134	2,792	36,689
5	27日	5,300	276	5,576	42,265
6	26日	5,735	393	6,128	48,393
7	26日	4,701	188	4,889	53,282
8	27日	2,491	63	2,554	55,836
9	25日	2,183	329	2,512	58,348
10	27日	1,945	152	2,097	60,445
11	25日	2,441	396	2,837	63,282
12	23日	1,803	0	1,803	65,085
1	23日	1,980	0	1,980	67,065
2	15日	751	0	751	67,816
3	25日	1,624	4	1,628	69,444
合計	295日	33,612	1,935	35,547	

2 教育普及活動

(1) 展 示

弥生の丘展示館は、鉄筋コンクリート1階建て、床面積430㎡で、展示室180㎡、体験学習室118㎡が主な施設である。展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器など500点以上を展示するほか、弥生時代のムラの様子を縮尺300分の1の復元ジオラマ模型で再現している。また、展示ケースの壁面には全面に考古イラストレーターの早川和子さんによる復元画を拡大して貼っている。復元画は遠景画と近景画からなり、遠景画は縄文時代・弥生時代・古墳時代・平安時代の4つの時代を同じアングルで描き、古津八幡山遺跡の時代毎の変遷や背後に見える越後平野の移り変わりがわかるようにしている。各時代の近景画には早川さんのほのぼのとしたタッチの人物が生き生きと描かれており、復元画に付けた説明も簡易なものにして、小学生や中学生にも親しみが持てるように工夫している。

また、平成25年度からは歴史博物館から小ケースを2つ借用し、確認調査で新たに出土した弥生土器や古津八幡山古墳出土土器等を展示している。

(2) 平成25年度の新たな取り組み

8月18日（日）に、シンポジウム「蒲原平野の王墓古津八幡山古墳を考える—1600年の時を越えて—」を開催した。シンポジウムの目的は、平成25年度から始まる古津八幡山古墳の復元整備工事前に確認調査成果を報告するとともに、全国的視野から古津八幡山古墳の歴史的な位置づけを確認することにあった。内容は確認調査報告と、石川日出志氏「古墳出現前夜の新潟とその周辺地域」・菊地芳朗氏「東北からみた古津八幡山古墳」・若狭徹氏「群馬県の大形円墳の動向と古津八幡山古墳」・橋本博文氏「豪族居館の様相と越佐の集落・古墳の状況」・青木敬氏「古津八幡山古墳の築造とその背景」の



発掘調査体験

5本の記念講演とパネルディスカッションである。参加者は265人であった。シンポジウム内容は記録集としてまとめて刊行した〔新潟市文化財センター2014〕。

また、平成25年度から史跡東側に隣接する休耕田（約2,000㎡）を借用し、市民参加で「稲作体験」を実施した。栽培作物は黒米・赤米とエゴマ・ヒエ・シコクビエ・アワ・キビ・タカキビ・ソバ等の雑穀類である。黒米や赤米については、岡山県百間川原尾島遺跡で検出された水田に倣った密植と現在行われている正条植えを行い、両者の収穫量の比較を行った。収穫の際には復元した石庖丁や木庖丁、脱穀や粃すりの際には復元した木臼・堅杵等を使用して、弥生時代の農作業体験も行った。雑穀については様々な種類を栽培したことによって、雑穀の名称と実物の対比が可能となった。雑穀類は試食するほどの収量がなかったが、赤米・黒米は約171kg程の収穫があり、秋の試食体験や正月の餅つき体験等で使用することができた。1年を通して行われた「稲作体験」によって、田植え（播種）・草取り・収穫・脱穀などの農作業の大変さと、苦勞して育てた作物が無事実った時の収穫の喜びを体感できたのではないかと思う。

(3) 体験学習メニュー

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる事前申し込み不要の体験学習メニューを毎月に行っている（表1・2）。これらの参加者は平成24年度3,250人に対し、7,818人と倍以上に増加している。

概ね10人以上の団体の場合は事前に申し込みをお願いしているが（表3・4）、人数は平成24年度に比べ若干減少している。

この他に、市報やホームページ等で広報して、事前募集して行うイベントを月に1回から2回程度実施している（表5）。

（渡邊朋和）

(4) 入館者数

平成25年度の弥生の丘展示館の入館者数は、35,547人である（表6）。昨年度よりも1,650人増加したことになる。しかし、内訳を見ると、個人入館者は増加したが、団体入館者は減少している。また、入館者の傾向は、昨年度と同様に、団体に比べて個人入館者が圧倒的に多い。これは、弥生の丘展示館が「花と遺跡のふるさと公園」内に立地しており、観光客や他施設利用者が立ち寄ることが多いためである。加えて、春から夏にかけての入館者数が、年間の60%以上を占めている。季節的に入館者が減少する冬季に入館者をどのように増加させるかが今後の課題といえる。

（金田拓也）

3 古津八幡山古墳復元整備の概要

平成25年度は、古墳の復元整備のためのデータを得るための確認調査（第19次調査）を、平成23年度（第17次調査）・24年度（第18次調査）に引き続き行ったほか、古墳の復元整備工事についても一部実施した。以下、平成25年度の確認調査及び復元整備工事の概要を記す。

なお、第17～19次調査の成果に関しては、平成25年度刊行の『史跡古津八幡山遺跡確認調査報告書—第15・16・17・18・19次調査—』にまとめられている。

(1) 確認調査（第19次調査）の概要

第19次調査は、墳丘南西側の周濠北西端の形状の把握及び築造年代を示す遺物の検出を目的とした（38・42・43T）。また、復元整備のための地層把握も目的とした（39～41T、14次調査3T）。調査期間は平成25年6月3日～8月20日、トレンチは計8か所、調査面積86㎡である。

調査成果 周濠の北西端の形状が確定するとともに、43Tで周濠が確認できなかったことから、墳丘北側に周濠が存在しないことが判明した。古墳時代の確実な遺物は出土しなかった。

他には、42Tで周濠の覆土を掘り込んで作られた土坑（SK1904）1基が検出された。土坑の形状は楕円形で、長軸1.25m、短軸0.96m、最大深度0.29mを測る。土坑底面は焼土を伴う。遺構確認面は周濠底面から約0.3～0.4m上の周濠覆土であり、現在の約1/3の堆積高である。土坑底面直上の炭化材2点について放射性炭素年代測定を行った結果、西暦900年前後の測定値が出たことから、10世紀前後の時期には周濠は埋まりきっておらず、現在の1/3ほどの高さで開放されていたことが判明した。なお、平成24年度（第18次調査）に墳頂部で確認された方形周溝状遺構と近い年代が推定される。

復元整備のための地層把握を目的とした41Tでは、弥時代の遺物包含層と遺構が確認された。遺物包含層からは弥生土器が定量出土した。

(2) 史跡整備

史跡古津八幡山遺跡では、平成25・26年度に県内最大級の古墳である古津八幡山古墳を中心とした復元整備工事を行い、平成27年度に史跡公園の全面供用開始を予定している。

平成25年度は、確認調査後に復元整備工事のための土砂搬入路の設置及び一部搬入を行ったほか、平成23～25年度の確認調査成果による実施設計に基づき丁張りを設置した。また、平成24年度に引き続いて杉の間伐も行った。平成26年度は、引き続き古墳の復元整備工事を実施する予定である
(相田泰臣)



周濠北西端検出状況（38・42T 東から）

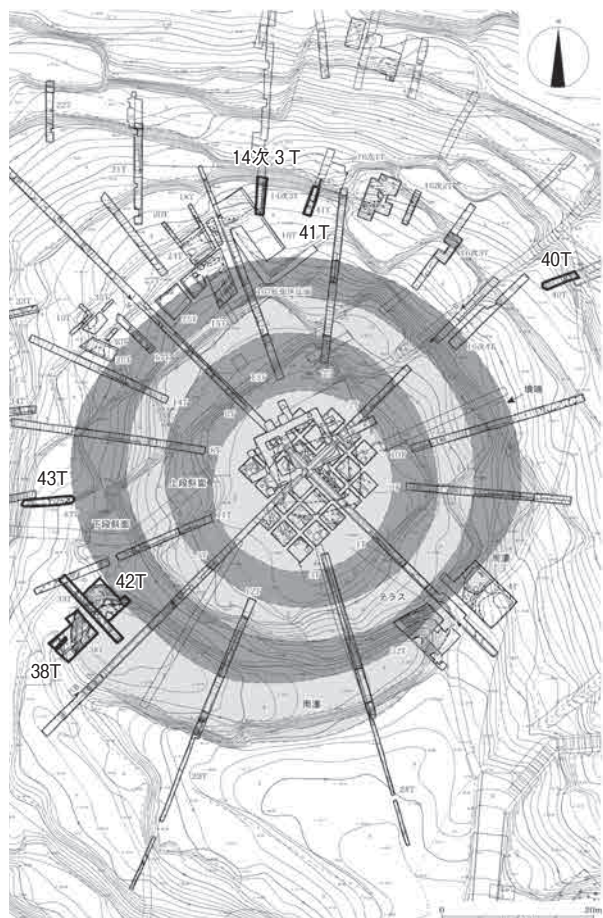


図3 古津八幡山古墳平面図（1/1,000）



丁張り設置状況

V 研究活動—資料報告・研究ノート等—

1 佐渡近海発見の弥生土器

新潟市の井村洋氏が発見した弥生土器について資料紹介を行う。

経緯 平成26年10月12日（日）、新潟漁業協同組合新潟支所より、井村氏が土器を引き揚げたとの連絡が文化財センターにあった。10月15日（水）、同組合で発見の経緯を伺うとともに、資料を実見し、重要な資料であることから、資料を借用し、実測図や写真等の記録をとり資料紹介させていただくこと、併せて文化財センターで展示させていただくことについて了解いただいた。

この資料は、平成26年10月10日（金）、小型底引き網漁を行っている際に引き揚げたもので、引き揚げ地点は佐渡市水津から南東に7マイル（12.96km）の「赤玉」と呼ばれる漁場である。水深は約130m、北緯37度58.9分、東経138度41.3分（日本測地系）で、引き揚げ地点の脇には沈船（通称「アテ」：網が当たって引っかかる所）があり、良好な漁場になっているという。

遺物（図1・78頁写真）内外面にゴカイが多く付着し、口縁部が一部欠けるほか、引き揚げ時の衝撃で底部が割れているものの、接合するとほぼ完形に復元可能である。器形は口縁部が短く外反し、球形の体部が特徴的な壺である。色調は淡橙色から黒褐色で、口径

13.7cm、底径9.5cm、器高28.0cm、最大径28.7cmを測る。口縁部は無文で横位のヘラナデ。体部は大粒のLR縄文を施文するが、下半はヘラ状工具で荒くナデ調整し無文としている。底部には網代痕がある。内面は調整が荒く、体部上半は輪積み痕や指頭痕などのナデ、下半はヘラナデである。胎土に2～5mmの長石・石英等の砂粒を多く含み、信濃川中下流域あるいは阿賀野川流域に一般的な胎土と考えられる。焼成は良好で、遺存状況も磨滅・磨耗等がほとんど見られない。体部下半内外面にススや炭化物が付着している。器形・文様等の特徴から、この土器は弥生時代前期末から中期初頭の所産と考えられる。佐渡では当該期の遺跡が明確ではなく、胎土の特徴からも越後本土から運ばれたものと考えられる。東日本の当該期には再葬墓といわれる墓跡が大半で集落跡は少ない。再葬墓から発見されるような煮沸痕のある大形壺が再葬墓以外から発見されたことの意義は大きい。

まとめ 新潟県海揚がり陶磁器研究会の集成によると、県内の海揚がり資料は、古代23点・中世113点と古代・中世の遺物が大半である〔寺崎ほか2014〕。古墳時代以前の海揚がり資料は、縄文土器2点・石器1点、弥生土器2点・石器1点、古式土師器2点と極めて少ない。弥生土器はいずれも後期の資料であり、前期・中期の資料は報告されていない。本資料は再葬墓以外で発見された当該期の極めて貴重な資料である。

新潟県内における当該期の代表的な遺跡の一つである緒立遺跡には青森県の砂沢式や山形県の生石2式に類似するものがあり、弥生時代以降活発になる日本海交流の状況を示している。本資料はこれまで漠然としていた日本海交流が陸路だけではなく、海路もあったことを証明する格好の資料になると言えよう。

遺物の時期等について明治大学石川日出志氏にご教示を得た。

（渡邊朋和）

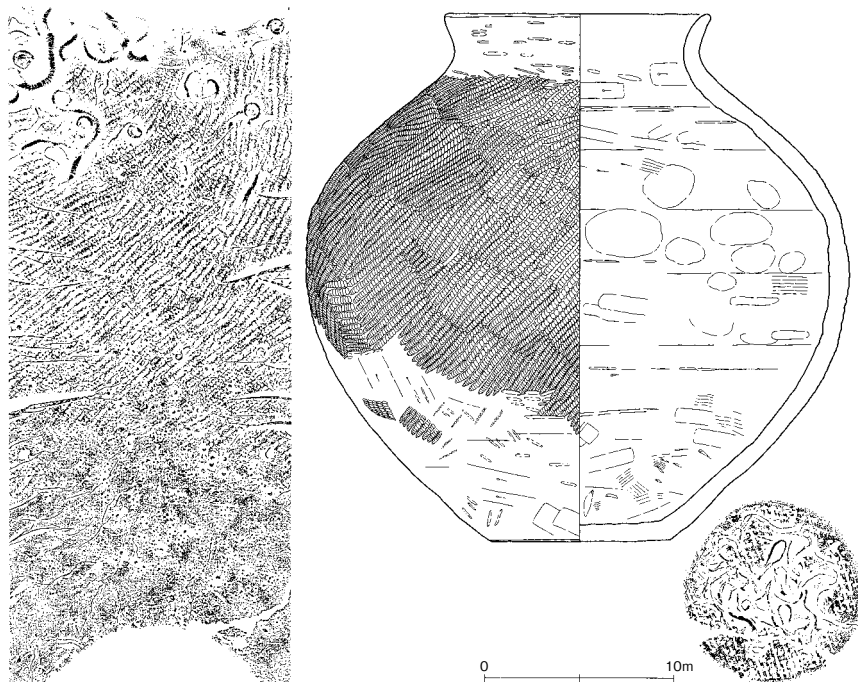


図1 遺物実測図（1/4）

2 海揚げりの須恵器 2 点

新潟市在住の井村しず江氏・井村洋人氏が所蔵されている須恵器 2 点について資料紹介を行う。

経緯 海揚げりの珠洲焼の新聞記事を見た井村しず江氏から「家にも海から揚げた縄文土器のようなものがある」との電話が新潟日報の記者にあり、同記者から文化財センター職員の同行を求められた。平成26年4月4日（金）に、記者と共に所有者宅を訪問し、須恵器 2 個体であることを確認した。発見の経緯は、しず江氏と長男井村洋人氏から伺った。

須恵器発見の経緯

資料 1（須恵器大甕） しず江氏の夫、故井村秋男氏が10年程前に板引き網漁で発見した。発見位置は新川～佐渡鴻ノ瀬鼻灯台ラインの北側で、水深は100m程度、正確な場所は不明であるが、おそらく資料 2 と近い場所ではないかとのことである。付近からはかつて大形の碇

が引き揚げられている。

資料 2（須恵器長頸壺） 洋人氏が5年程前に小型底引き網漁を行っている際に発見した。発見位置は新潟港灯台から14マイル（25.93km）沖、佐渡航路の中間地点で、水深約90m。北緯38度02.1分、東経138度45.3分（日本測地系）である。付近では長さ12m、厚さ40cm、幅40cm程で和釘の残る1枚板（洋人氏は「和船の部材ではないか。」とのこと。）が網に掛かったことから船の脇で発見された可能性がある。周辺には船が10隻以上沈んでいると言われており、潮の流れが速い場所とのことである。

遺物（図1・78頁写真） 1は須恵器大甕、口径23.7cm、器高46.6cm、体部最大径37.8cmを測り、体部上半から口縁部の3分の1程を欠損する。口縁部の破面は磨耗していることから、海中にあった時から破損していたと考えられる。成形・調整は、口縁部ロクロナデ、体部外面は格子目タタキ、内面は上半が放射状当具痕、肥厚部の下半は平行当具痕がみられる。口縁部下端は肥厚せず、口縁部・体部一体成形である。内外面に貝殻が付着し、体部上半に新しい割れが認められる。

2は須恵器長頸壺、高台径10.0cm、現存高21.7cm、体部最大径18.4cmを測る。口縁部を欠損するほかは完形。口縁部破面は磨耗しており、海中にあった時から破損していたことがわかる。調整は、体部上半はロクロナデ、下半はロクロナデ後、ヘラケズリ、格子目タタキが行われている。外面には貝殻が多く付着する。

2点とも、佐渡小泊産須恵器で、9世紀後半から10世紀初頭頃のものと考えられる。（渡邊朋和）

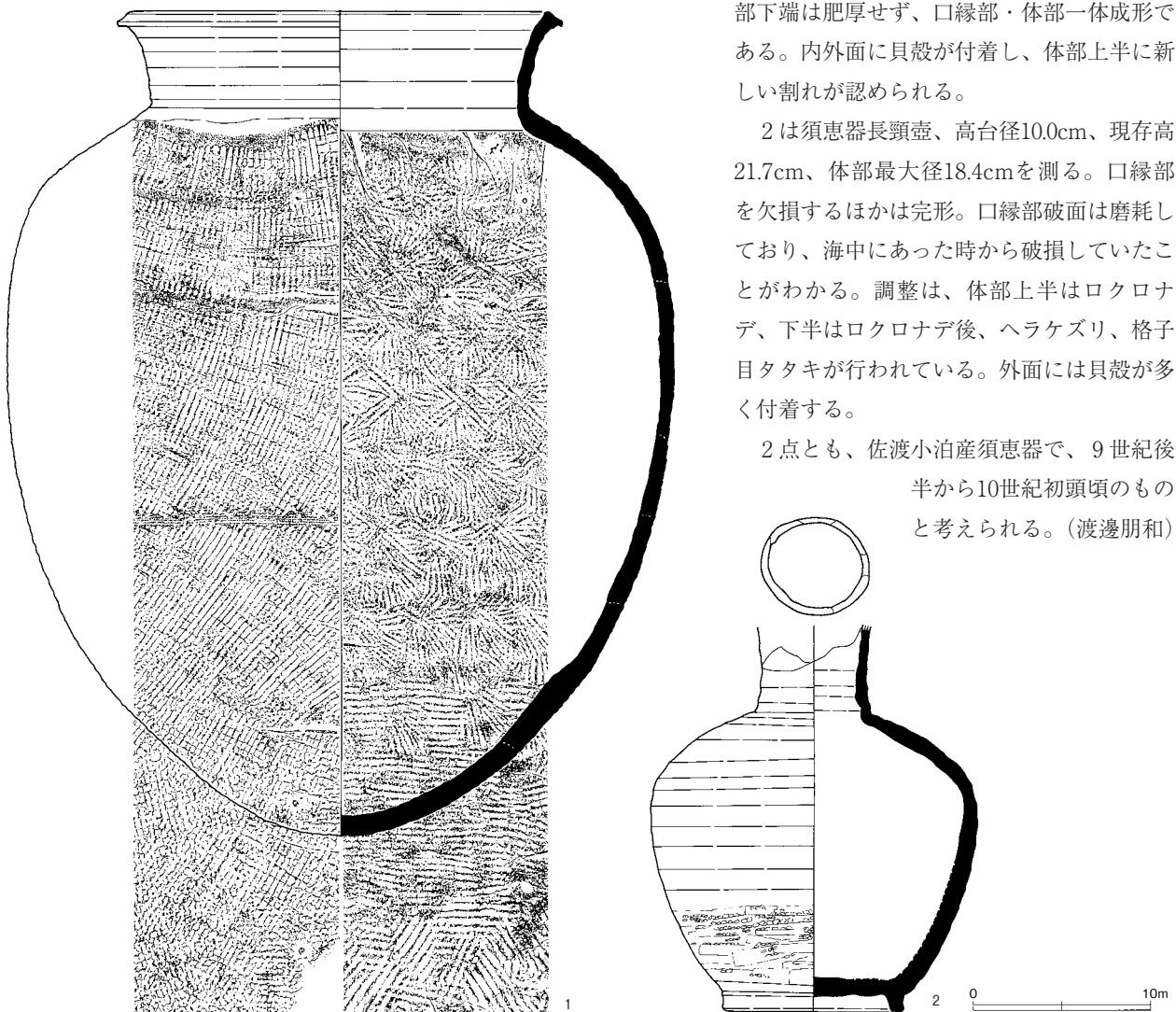


図1 遺物実測図（1/4）

3 新潟市秋葉区舟戸遺跡出土遺物

報告に至る経緯 文化財センターでは、平成23年度から平成25年度にかけて古津八幡山古墳の確認調査を行った。調査に先立ち、周辺古墳時代の遺跡から出土した遺物を実見する機会を得たが、舟戸遺跡の確認調査及び工事立会で出土した遺物中に良好な遺存をなすものや、本調査出土資料を補完する遺物が存在することを確認した。これら資料について、今回報告を行う。

遺跡の概要 舟戸遺跡は新津丘陵西側の裾部から広がる沖積地にあり、旧大通川の扇状地から自然堤防上の微高地（現標高約5～6m）に立地する。遺跡範囲は、北東から南西方向に約800m、北西から南東方向に最も距離のあるところで約480m、推定面積約240,000㎡である。現在、大部分は宅地であるが遺跡西側は水田と畑が広がっている。昭和53（1978）年国土地理院発行の土地利用図を見ると、遺跡の大半は水田で占められるが、古津駅のすぐ南側から西へ向かって畑・果樹園が列状にのびている（図6）。

平成5年、社屋建設に伴い新潟市教育委員会による本発掘調査（1993004）が470㎡を対象に行われた。弥生時代から平安時代の遺物が出土したが、大半は古墳時代中期の遺物であった。発掘面積が狭いにもかかわらず出土土器は破片も含め3万点以上と多量なことから、一定期間人々が定住した集落と考えられている〔川上1995〕。

遺構は、古墳時代中期の竪穴住居や掘立柱建物、杭列などが確認された。南東方向約700mの丘陵上に臨むことのできる古津八幡山古墳と時期が重複することから関連が注目されている。

調査の概要 今回報告する調査は下記の2件である。

(1) 確認調査（1998145）

所在地 新潟市秋葉区古津字北郷2179番地外

調査の原因 土地区画整理事業

調査期間 平成11年3月12日～3月24日

調査面積 334.8㎡

調査担当 渡邊朋和

処置 工事中止

調査場所は遺跡の南西側に位置する。計62か所のトレンチ調査が行われた（図1）。遺物包含層はⅢ・Ⅳ・Ⅴ層で、Ⅲ層からは古墳時代の土器とともに平安時代の遺物が、Ⅳ・Ⅴ層からは弥生時代・古墳時代の遺物が出土した（表1）。遺構はⅣ層（上層）とⅥ層（下層）で確認されている。各遺物包含層の出土遺物の内容から、下層は弥生または古墳時代の遺構、上層は古墳または平安時代の遺構と捉え得る。

南北方向の土層柱状図（図2・3）のⅥ層の標高をみると、10・14T付近で最も高いこと、23・28T付近も比較的高いこと、10・14T付近から4・6Tなど南に向かって地形が下がることなどがうかがえる。なお、確認調査区のうち最も標高の高い10・14T付近から南東約100mには、1993年に本調査（1993004）が行われた調査区が存在する。10・14T付近における東西方向のⅥ層標高は大きな高低差は認められず（図4・5）、東西方向に走る微高地の存在が示唆される。前述の土地利用図（図6）における畑などの分布がこの微高地を反映している可能性がある。

(2) 工事立会（2009146）

所在地 新潟市秋葉区古津2251番地外

調査の原因 水道管敷設工事

調査期間 平成21年9月8日～10月21日

調査面積 3.0㎡（調査対象面積481.5㎡）

調査担当 今井さやか

処置 工事立会

水道管敷設工事に伴い、遺跡の南北方向（図1の点線部分）約450mにかけて工事立会が行われた。

報告遺物 1～4が確認調査、5～13が工事立会出土遺物である。

確認調査（1998145） 1が20T、2が28TⅤ層、3・4が29T出土遺物である。

1は壺である。1aと1bは胎土や調整などから同一個体と判断されるが接合しない。体部中位に最大径を持ち、比較的張る体部から短い口縁部が外反する。口縁部は丸く収める。体部外面の調整はハケメのち一部ヘラミガキである。内面は体部でヘラナデ、底部付近でハケメが認められるほか、粘土紐の接合痕を残す。2は小形の直口壺である。体部外面は粗いヘラミガキが認められる。体部内面には粘土紐接合痕が巡る。3は有段口縁の鉢。口縁・体部の内外面ともに比較的丁寧なヘラミガキが施される。4は有段口縁の甕。頸部外面にハケメが認められる。

工事立会（2009146） 5～8が図1△で示したA地点の表土下1.7m、9が同B地点の表土下1.8m、10が同C地点表土下1.4m、11～13が同D地点表土下1.8mでの出土である。なお、表土下約1mは道路の盛土分である。

5は小形の甕。体部外面はハケメで、外面は口縁部から体部にかけてススが付着する。6は有段口縁疑凹線甕。7・8は有段口縁甕である。8は7に比べシャープな作りで、口縁部内面に指頭圧痕が認められる。

9は有段口縁甕で、外面は口縁部から頸部にかけてススが付着する。

10は脚部及び口縁端部を欠くが、水平気味にのびる受部に上方に外反しながらのびる口縁部が付く。形態から、高杯もしくは装飾器台の可能性が考えられるが、受部が水平気味にのびる点や法量、器壁が薄い点、口縁部への立ち上がりの形態等から、高杯の可能性が高い。

11は杯で、半球状の体部から口縁部が短く外反し、端部は丸く収める。外面は口縁部から底部にかけてヘラミガキ調整が施される。内面は体部から底部にかけてハケメのちヘラミガキである。12は柱状屈折脚高杯の脚部で、杯部と脚裾部を欠損する。外面は縦位のヘラミガキ、内面には粘土紐の接合痕が巡る。13は器台脚部である。受部内面には赤彩が確認される。脚部外面は粗いヘラミガキ、脚部内面にはハケメが確認できる。

まとめ 形態や調整等から、1・10~12は古墳時代中期前半に、13は古墳時代前期から中期に、それ以外は弥生時代後期に比定できると考える。

10の高杯と同系統のものは、関東地域で比較的多く認められ、新潟市では西区の四十石遺跡で確認できる(図7)。新潟県を含む北陸では客体的な形態といえる。

出土位置と遺物の関係では、28・29Tなど遺跡の北側や、A・B地点などの南側で弥生時代後期の遺物が出土している一方、20TやC・D地点といった標高の高い中央付近で古墳時代中期の遺物が多く出土する傾向がうかがえる。前述のとおり、平成5年の本発掘調査では古墳時代中期の遺物が出土遺物の大半を占め、各地点での出土土器の傾向と一致する。(相田泰臣)



図1 確認調査トレンチ位置図・工事立会位置図 (1/5,000)

表1 検出遺構一覧

トレンチ番号	Ⅲ層(上層)層	Ⅳ層(下層)層	検出遺構
10T	灰	土坑	土坑
12T	灰	土坑	土坑
13T	灰	土坑	土坑
14T	灰	土坑	土坑
21T	灰	土坑	土坑
22T	灰	土坑	土坑
23T	灰	土坑	土坑
24T	灰	土坑	土坑
25T	灰	土坑	土坑
26T	灰	土坑	土坑
27T	灰	土坑	土坑
28T	灰	土坑	土坑
29T	灰	土坑	土坑
30T	灰	土坑	土坑

表2 出土遺物一覧

トレンチ番号	遺物	出土層	年代	数量	その他
4T	土器	Ⅲ層	古墳時代	1	1
6T	土器	Ⅲ層	古墳時代	5	4
8T	土器	Ⅲ層	古墳時代	1	2
10T	土器	Ⅲ層	古墳時代	6	2
12T	土器	Ⅲ層	古墳時代	193	1
13T	土器	Ⅲ層	古墳時代	3	1
14T	土器	Ⅲ層	古墳時代	9	7
16T	土器	Ⅲ層	古墳時代	44	3
19T	土器	Ⅲ層	古墳時代	2	1
20T	土器	Ⅲ層	古墳時代	6	6
23T	土器	Ⅲ層	古墳時代	9	2
24T	土器	Ⅲ層	古墳時代	13	15
25T	土器	Ⅲ層	古墳時代	13	15
27T	土器	Ⅲ層	古墳時代	28	2
28T	土器	Ⅲ層	古墳時代	23	2
29T	土器	Ⅲ層	古墳時代	6	6
30T	土器	Ⅲ層	古墳時代	23	1
31T	土器	Ⅲ層	古墳時代	3	3

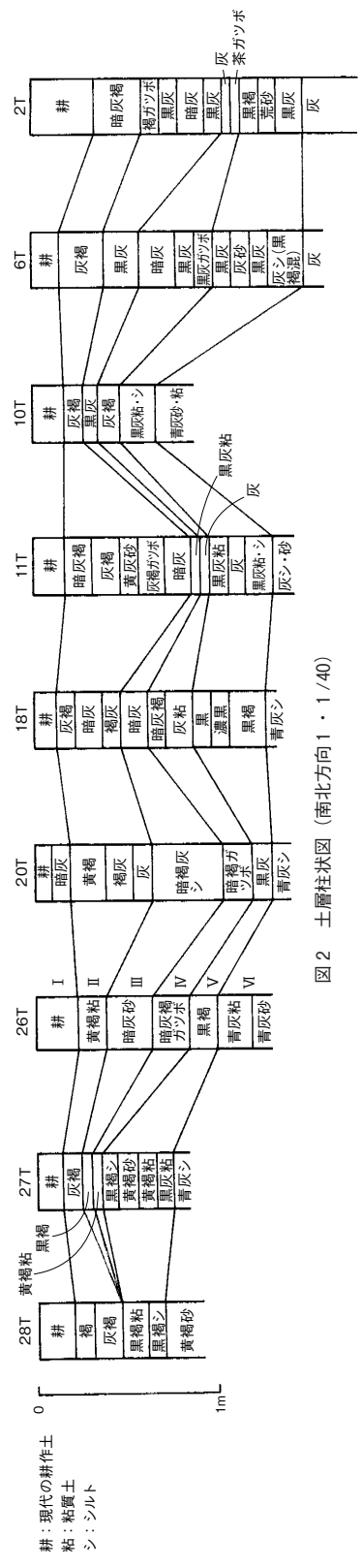


図2 土層柱状図 (南北方向1・1/40)

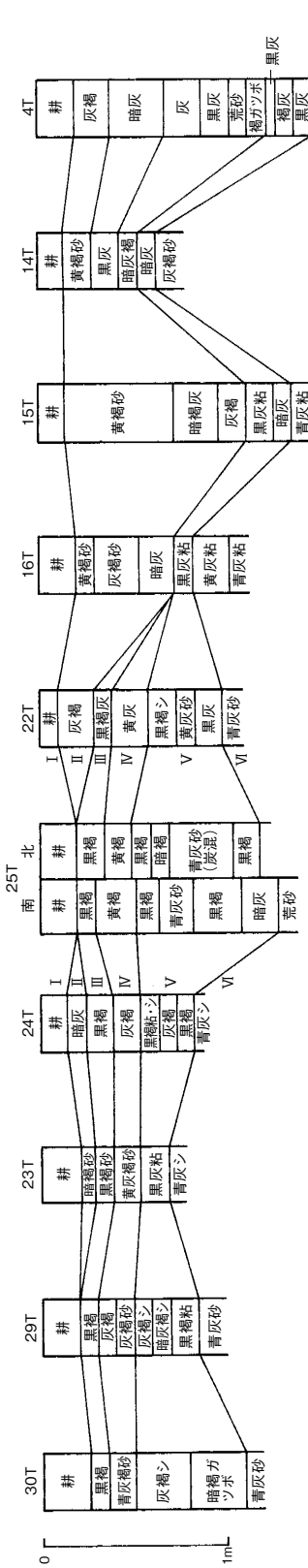


図3 土層柱状図 (南北方向2・1/40)

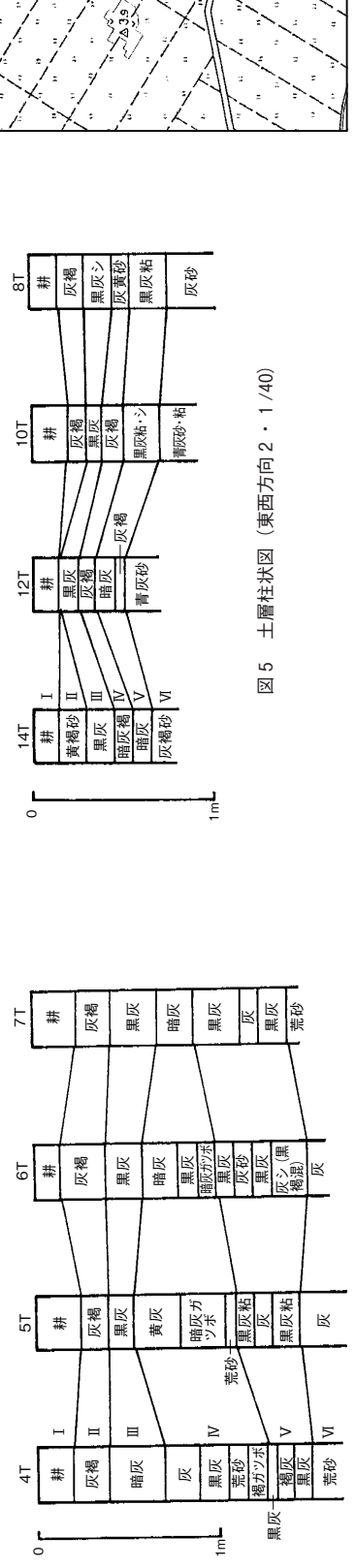


図4 土層柱状図 (東西方向1・1/40)

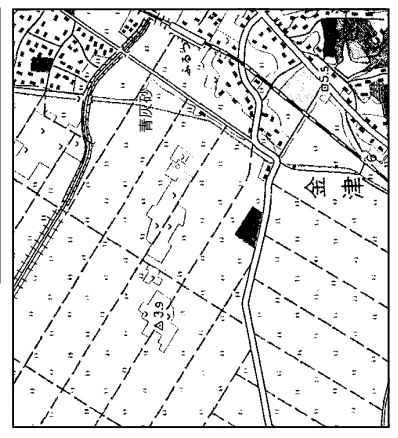
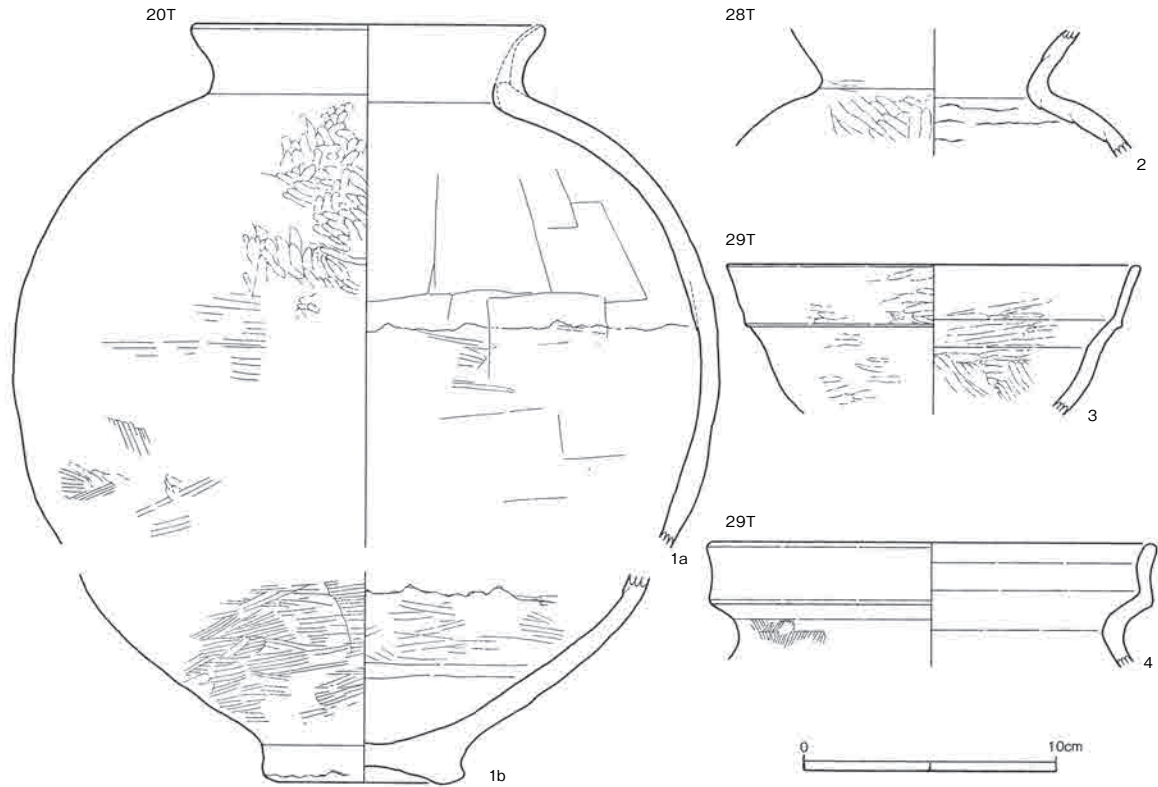


図5 土層柱状図 (東西方向2・1/40)

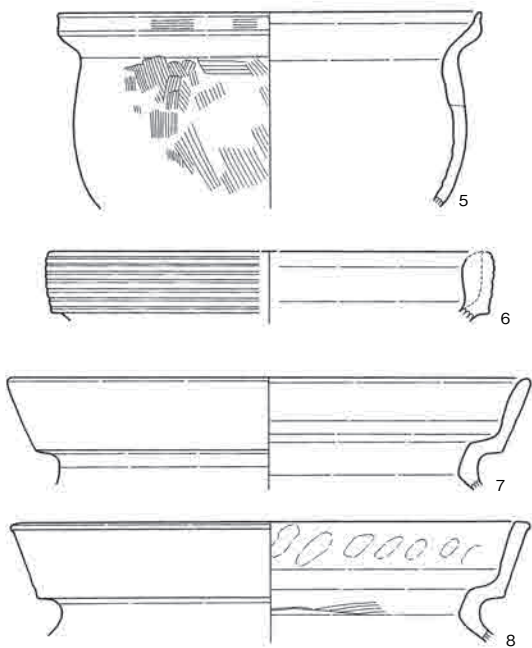
図6 国土地理院発行1978
[2万5千分の1土地利用図 白根]

確認調査 (1998145)

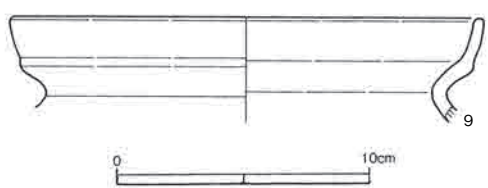


立会調査 (2009146)

A地点



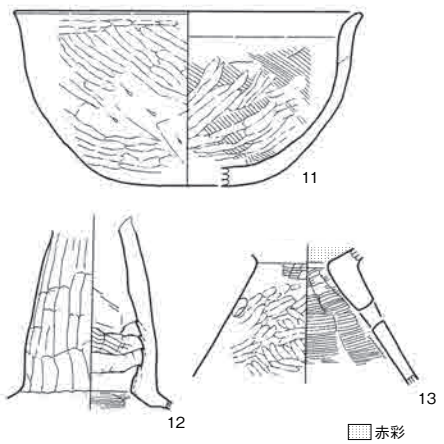
B地点



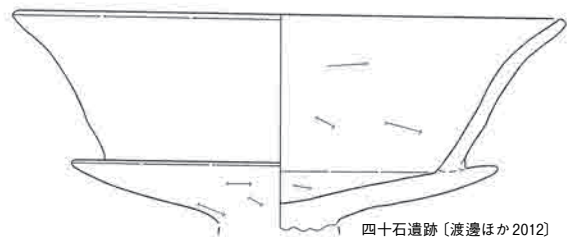
C地点



D地点



参考資料



四十石遺跡 (渡邊ほか2012)

図7 舟戸遺跡出土土器実測図 (トレンチ番号・A~Dは図1に対応)・四十石遺跡出土土器実測図 (1/3)

4 新潟市秋葉区塩辛遺跡工事立会出土遺物

報告に至る経緯 舟戸遺跡確認調査・工事立会出土遺物の報告経緯と同様である。

(1) 工事立会 (2000122)

所在地 新潟市秋葉区朝日字塩辛145-1外

調査の原因 宅地造成

調査期間 平成12年6月19日

調査面積 19.0㎡

調査担当 渡邊朋和

処置 工事立会

調査の概要 溝1基と竪穴住居の可能性のある落ち込み1基が確認されている(図3)。遺物が出土したのは、Ⅱ・Ⅲ層及び遺構覆土で、今回報告する土師器2点は、どちらもこの竪穴住居の可能性のある落ち込み覆土から出土した。出土位置は近接しており、一括遺物である可能性が高い。

報告遺物 1は内面が黒色処理された杯である。内湾する体部に緩やかに口縁部が外反する形態で、内外面ともに丁寧なヘラミガキが行われる。2は甕で、あまり張らないやや長胴の体部に外傾・外反する口縁部がつく。底部は欠損する。調整は体部外面に斜位のハケメが観察される。なお、体部外面にススの付着が認められる。

まとめ 1・2の年代については、形態などから古墳時代中期末～後期前半を中心とする時期に位置づけられよう。既報告遺物〔渡邊・高野ほか2004〕と形態や調整で類似する点が多いことから近い時期と推測される。

本遺跡の西に隣接する舟戸遺跡では、本発掘調査(1993004)において古墳時代中期の遺物が多く出土した。内面黒色処理された土器が破片で2点のみの出土であることから、古墳時代中期末以降、活甕に活動した状況は想定し難い。一方、塩辛遺跡で中心となる時期は、前述のとおり舟戸遺跡で遺物量が減少する時期にあたる可能性が高い。このことは、舟戸遺跡と塩辛遺跡が一連の集落で、時期により生活空間を異にした可能性を示唆する。(相田泰臣)



図1 調査位置図(1/10,000)

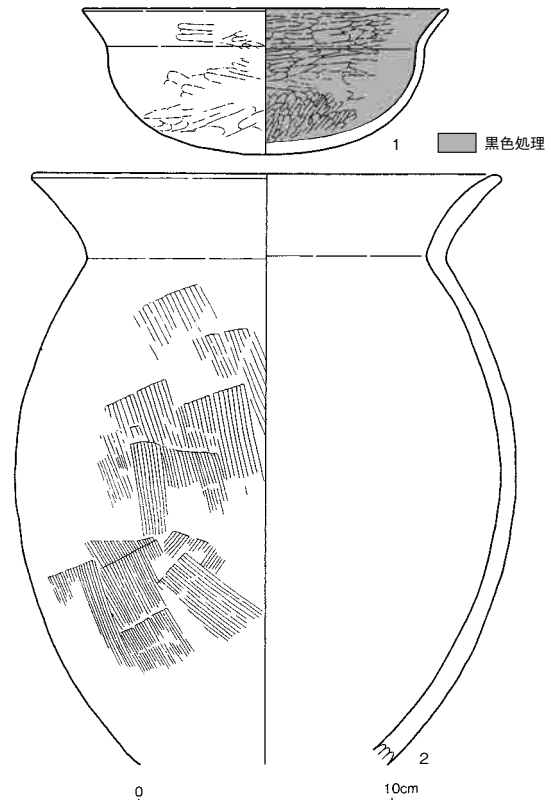


図2 遺物実測図(1/3)

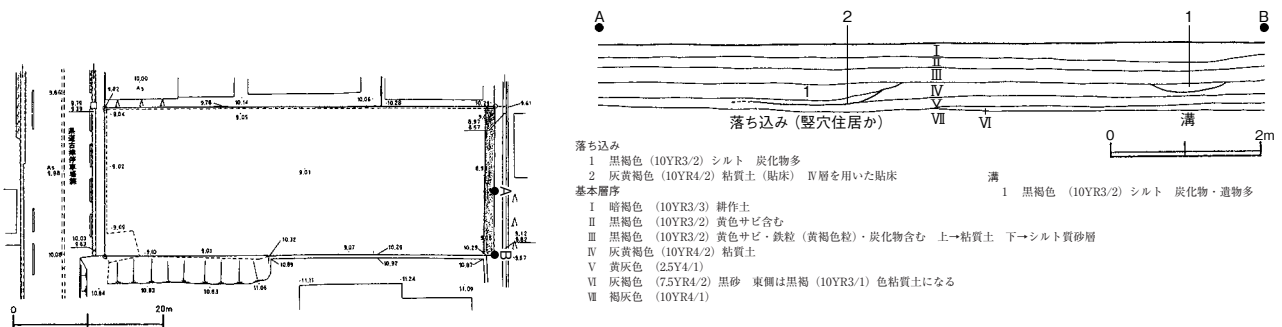


図3 工事立会平面図(1/1,000)・断面図(1/100)

5 新潟市北区正尺C遺跡出土の土師器鉢

報告に至る経緯 平成25年度に、新潟県から本市へ譲与された正尺C遺跡の再整理を行った際、平成9年度の試掘調査（第1次・1997120）で出土した土器と、平成11・12年度の本発掘調査（第4次・1999005、第5次・2000005）で出土した報告書掲載土器（〔土橋ほか2006〕のNo.200）とが接合した。報告書では壺と報告されていたが、接合の結果、鉢であることがわかったため今回再実測を行い報告することとした。

出土位置 報告書掲載土器（〔土橋ほか2006〕のNo.200）が出土した遺構は、平成11・12年度の第4・5次調査で確認された周溝を有する建物（SZ439）を構成する溝（SD209）である（図2）。接合した土器が出土した平成9年度の試掘調査（第1次調査）2TはSD209と一部重複しており（図2）、SD209出土の可能性が高い。

報告遺物 口径38.0cmと大形の鉢で、口縁部に最大径をもつ。半球状の体部に頸部が外反したのち段を持ち、内湾する口縁部が直立気味にのびる。口縁端部は尖り気味に収まる。頸部外面には1条の沈線が横位に走る。

調整は、口縁部～頸部内外面ともハケメで、頸部外面が縦位、口縁部外面および口縁部～頸部内面が横位のハケメである。体部外面は横位のハケメのちヘラミガキ、体部内面がヘラケズリのちヘラミガキである。

胎土は0.5～3.0mmの長石・石英・凝灰岩・各種岩石のほか、雲母を多く含む。

まとめ SZ439は報告書で新潟シンボ編年〔滝沢2005〕の6期に位置付けられた〔土橋2006〕。系譜については不明であるが、口縁形態や法量などから山陰の影響を受けた土器である可能性があるだろうか。なお、頸部外面に沈線が巡る事例として、市内では南赤坂遺跡出土の山陰系の壺〔前山・相田2002〕がある。（相田泰臣）

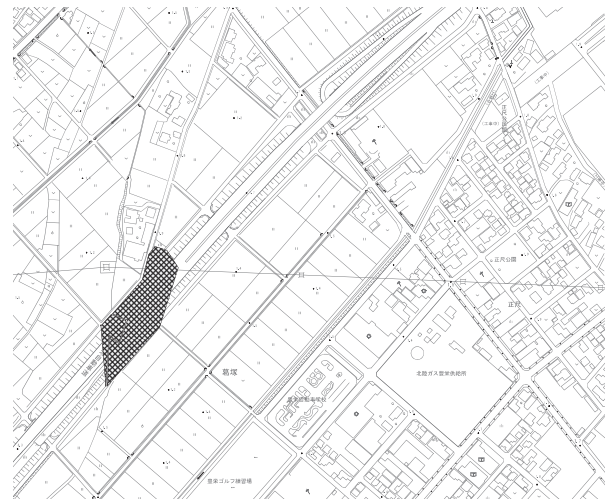


図1 調査位置図（1/10,000）



図2 第1次調査2T、第4・5次調査平面図（1/2,500）

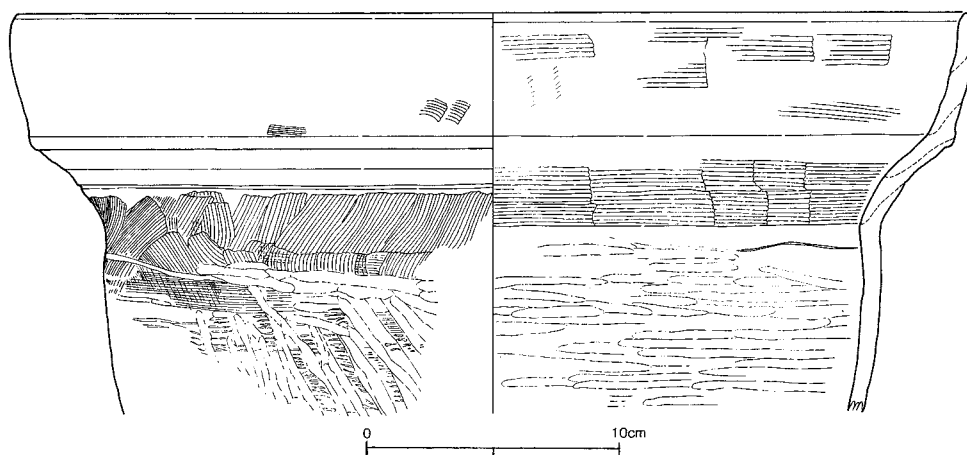


図3 遺物実測図（1/3）

6 新潟市江南区砂崩遺跡の縄文時代遺物 —神林慎一氏採集資料から—

(1) はじめに

亀田砂丘の最も内陸部、第一砂丘列に砂崩遺跡はある。遺跡は1920年代に発見された〔新潟市2007〕。以来表面採集が断続的に行われ、縄文時代中期前葉を中心とした多量の土器や磨製石斧製作資料の存在が注目されていた。

ここに取り上げる資料は、神林慎一氏が1960年代に採集し、2014年1月に当センターに寄贈されたものである。内訳は、縄文土器454点・石器類16点・弥生土器1点・須恵器4点・搬入礫8点からなる。図1上段に示すように、砂崩遺跡は東西250m・南北200mの広がりを持ち、神林氏の踏査当時A～Fの6地点に区分されていた〔酒井ほか1966〕。寄贈された縄文土器には、全体の68%に採集地点名が記される。それによれば、A地点126点・B地点17点・D地点12点・E地点145点・F地点7点となり、遺跡の北半部を中心とした採集品であることがうかがえる。註記によって採集地点が把握できる資料については、掲載番号末尾にアルファベットを示した。

砂崩遺跡は、新潟砂丘に立地する縄文時代中期の遺跡の中で屈指の遺物量を有する。本資料はこの遺跡の理解にあたり有益な情報を提供するものであり、主要な遺物を提示し若干の検討を行う。

(2) 縄文土器

復元土器1点・破片453点を数える。口縁部遺存資料に基づく最少個体数は54である。含有物は一様でなく、次の3グループに分けられる。I類は磨耗した石英・長石や各種岩石を何らかの形で含む、II類は破碎した石英ないし長石を多量に含む、III類は破碎岩石以外の混入物に乏しく磨耗粒子が欠落するものである。

1・2は前期前葉土器。多量の石英や雲母とともに植物繊維を含む。ともに0段多条の単節縄文を施す。小破片のため環の有無や施文構成は明らかでない。60は肥厚した口端下に4条の沈線をめぐらす中期中葉後半段階の土器で、縄文時代遺物の下限資料となる。

以上のほかは中期前葉土器である。これらは若干の時期幅を持ち、中期前葉の6期区分〔高橋1999〕に従えば2期から4期にかけての資料とみなされる。3・49は2期に属す。使用する施文工具は、幅4～5mmの多裁竹管工具である。3は単節縄文を地文とし、幅広い間隔をもった平行沈線を口縁部の区画沈線下に垂下させる。49は口縁部文様帯の下端に簡略化されたY字状文を連続的に配す。波状口縁をなす54も2期に属す資料と考えられる。肥厚した口端から口縁部の無文帯にかけて縄(LR)

の側面を平行に押圧するものである。

4～53・55～59は大半が3期の枠に含めうるグループで、神林氏採集資料の主体をなす。竹管工具は幅6～7mm台を中心とし、前段階に較べ幅広化する。胎土ではI類・II類が40%台で拮抗し、III類は10%台にとどまる。

4・5・12～48は、越後平野周辺で一般的にみられる在り土器である。4・5は数段の横位区画を設け、画内を縄文帯とする。4は斜縄文を地文とし、口縁部区画下に三角形彫去を伴う鋸歯状の並行沈線と突起を配す。5は全体がうかがい知れる唯一の資料であるが、中間部を欠くため別個に示した。口径34.5cm・底径15cm・推定高51cmほどを測り、キャリパー形の上器形と体部中ほどの膨らみを特徴とする。地文は上部と下部で異なり、上部にはLRによる斜縄文、下部には木目状撚糸文を施す。上半部の文様帯は、横位平行沈線によって3段に区画される。口端の突起下から2段目までに単位分割沈線を垂下させ、その直下にめぐる横位集合沈線の中央に斜縄文を加えた隆帯がめぐる。区画内には2段目・3段目に間隔の狭い従位平行沈線、体上部に曲線的な平行沈線文を描く。35は撚糸文を地文とした文様帯下端の資料で、区画沈線内に等間隔の縦位平行沈線を施す。

12～26は幅の広い口縁部文様帯を持ち、体部に幾何学的な平行沈線を描くグループである。12～23は口縁部に設けた横位区画などに彫刻蓮華文を施す。文様構成にはバラエティーがあり、蓮華文下の縄文帯に縦位平行沈線を等間隔に配す12～15、無文帯をはさんで蓮華文が重層化する16、蓮華文下の無文帯に幾何学文様を施す20・23などの別がある。24～33は横位区画内に蓮華文以外の文様を充填するもので、24・25は三角形彫去文、26は軌軸文を施す。36～48は本グループの体部資料である。36～45は幾何学的な平行沈線文を施し、40・42は区画内に細線を加える。46～48は格子目文。地文としては、単節斜縄文(39・41)と撚糸文(36～38)の二種がみられる。

27～33は口縁部に設けた区画内に集合沈線を充填するグループで、27はU字文、28～33は縦位集合沈線を施す。後者には曲線的な平行沈線や突起を伴う場合があり、32は同一区画内、28・29は充填文様下の無文帯に配す。このうち33は、横位平行沈線の一施文幅が9mmに及ぶことから、4期に下降する資料とみられる。

以下はいずれも客体的な存在にとどまる。50～52は口端に横位平行沈線を施し、その直下を地文帯とする。50の右半部には縦位の集合沈線が加わる。53は「く」の字状に屈曲した体部破片。上端に刻目を加えた細い隆帯がめぐり、交互刺突を伴う単沈線の下端に小さな列点を施す。中期前葉3期に平行する五領ヶ台Ⅱ式土器である。

55は直立した体部と外傾口縁をもち、波状口縁の頂部に下端が突出した短い縦位隆帯を貼付する。器面全体がLRの斜縄文で覆われ、同一原体による2列の側面圧痕が口縁下に並列する。類似隆帯が阿賀野川流域などに分布しており、東北的な要素を認める在地土器と考えられる。これと類似器形をもつ56は、口縁下に配した横位隆帯に刺突を加える。58は内湾ぎみの波状口縁をもち、LRの縄を用いた刺突を端部に加える。

4～11・57は西蒲区豊原遺跡への偏在現象がみられる(図1下段)同遺跡VI群3類土器〔前山2009〕と類似する資料である。口縁部区画内の横位捺糸施文(7～9)・区画下部の突起(10)・突起下の体部分割沈線(11)に共通性を認める。このうち9・11は文様と混和剤の両面で豊原出土例と酷似した稀な資料である。一方、6は区画沈線下の曲線的な沈線に異質な要素が見られる。8は横位区画内に三角形彫去を施す点で豊原での少数資料にとどまる。10は突起の突出度が著しく、貼付位置のズレや突起下端のU字沈線を欠く点に変形が見られる。捺糸文を二方向に施す57は本グループを特徴づける地文パターンであるが、口端が肥厚する点で同一とは言いがたい。

61～64は底面にスタゲ状圧痕を認める。底部総数15個体のうち、8個体で同様の圧痕が確認できた。

(3) 石器

土器の採集量に較べ数量的に乏しく、敲石1点・磨製石斧1点・磨製石斧製作工程資料5点・砥石類6点・剥片3点・搬入礫7点を数えるのみである。神林氏採集資料には石鏃が存在したもようであるが、現存しないため詳細は不明である。図3に磨製石斧とその製作関連資料を示す。

65は磨製石斧の成品、66～69はその製作工程資料である。西頸城産の蛇紋岩を石材とし、いずれも製作時の擦切溝をもつ。65は上下両端が主面からの加撃によって破損する。最大幅4.5cm・厚さ3.1cmを測り、きわめて分厚い作りである。一側面の片側に擦切溝の痕跡が残る。66・67は大形石斧、68・69は小形石斧の製作に伴う資料。前者のサイズは65と近似する。66～68はその形状から、分割時の残余とみなされる。69は幅3cm・厚さ1.3cmを測る。小形石斧の素材となりうることから、分割時の破損品と考えられる。

砥石はいずれも粗粒砂岩を使用する。70は厚さ1.1cmの扁平な資料で、側縁を含む全面が磨耗する。擦切具として使用した可能性が高く、西蒲区豊原遺跡で中期前葉3期を主とした層準から類似資料が多数出土している。71は表裏両面に磨耗痕、片面に浅い溝が3条残る。磨製石斧の研磨に使用した資料とみなされる。

(4) まとめ

提示資料が意味するところを考える。前述のように、神林氏採集土器の大多数は中期前葉3期に属す。これらは北陸色の強い在地土器を主体とし、東北および関東的な土器や豊原遺跡VI群類似土器が付随する点で越後平野周辺における一般的な様相を見せる。

一方、混和材のあり方は異なる状況を示す。本遺跡の土器胎土は、前述のように3グループに大別できる。I類の指標となる磨耗粒子は阿賀野川や能代川の砂粒に多く含まれ、新津丘陵秋葉遺跡の中期前葉土器の主要部分を占める〔前山2014〕。II類は新発田市域の加治川・坂井川や笹神丘陵の川砂に類似する。新発田市狐森B遺跡や阿賀野市萩野遺跡の中期前葉3期土器群を特徴づける胎土である。III類は角田山麓の砂粒に近似し、豊原遺跡VI群土器の卓越胎土となる。なお、狐森B遺跡および萩野遺跡の胎土は筆者の実見に基づいており、各河川の砂粒構成については図1中段左に示すとおりである。

砂丘地上に立地する砂崩遺跡は、土器製作に不向きな環境にある。混和材に認める多様なあり方は、複数方面からの搬入によって生じた現象とみることもできよう。豊原遺跡類似土器の中に同遺跡出土例と酷似する資料が含まれる点はこれに関連して重視すべきである。

石器は絶対量が乏しく、組成としての把握が困難である。ただし、本遺跡を含む縄文時代中期の新潟県北部エリアでは磨石・敲石類の卓越を特徴とするが、これらが採集品の中で皆無に等しい点は留意される。神林氏採集資料には搬入礫が含まれるところから本遺跡の実態を正しく反映する可能性があり、通常集落とは異なる石器様相を示すことも考えられる。

砂崩遺跡の石器を最も特徴づけるのは、西頸城産の蛇紋岩を使用した磨製石斧製作資料である。この時期の越後平野周辺では南西27kmに位置する豊原遺跡で同一石材による磨製石斧の製作が盛んに行われ〔小野ほか1988〕、それとの関わりを想起させる。同遺跡が位置する角田山麓では、阿賀野川流域もしくは阿賀北産の花崗岩が縄文時代前期前葉以来持ちこまれ、中期前葉以後は新発田市板山産黒曜石の利用が一般化する。

以上のようなことがらには、越後平野の中央部に位置する本遺跡が交易活動の拠点として機能し、豊原遺跡類似土器の分布域拡大にも関与した可能性を示唆するものといえる。本遺跡では南部の一角で平成20年に確認調査が行われ(図1上段)、中期前葉を主とした土器や磨製石斧製作関連資料などが出土している。今後は確認調査時出土資料の検討をつうじ、上記のような見方の妥当性を考える必要がある。(前山精明)

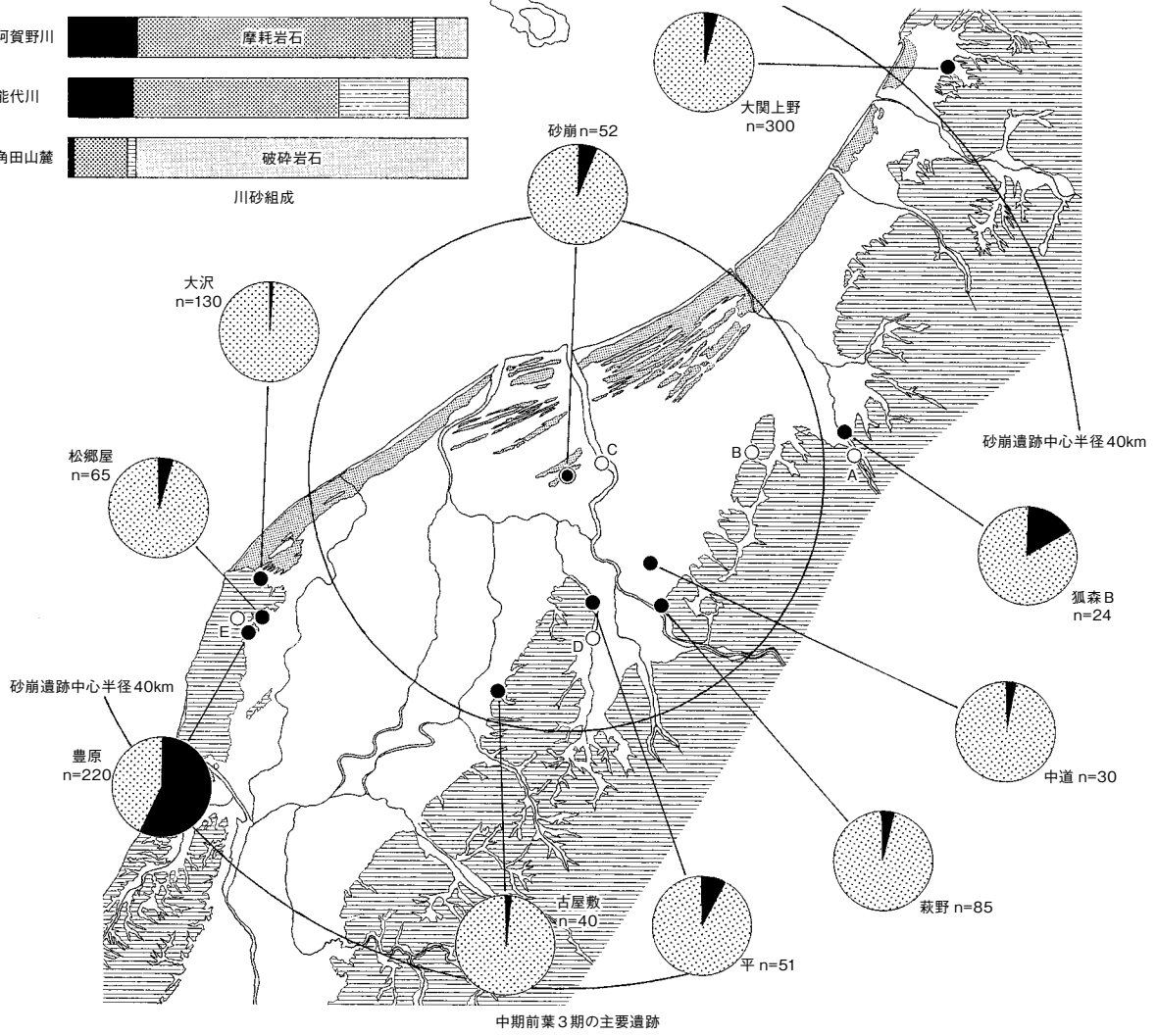
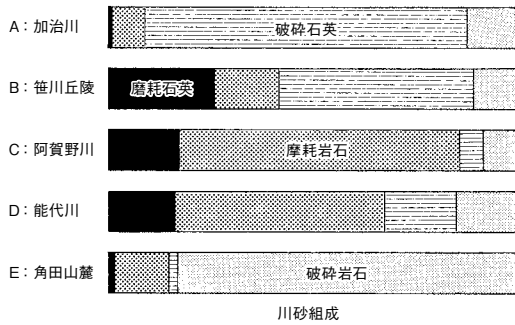
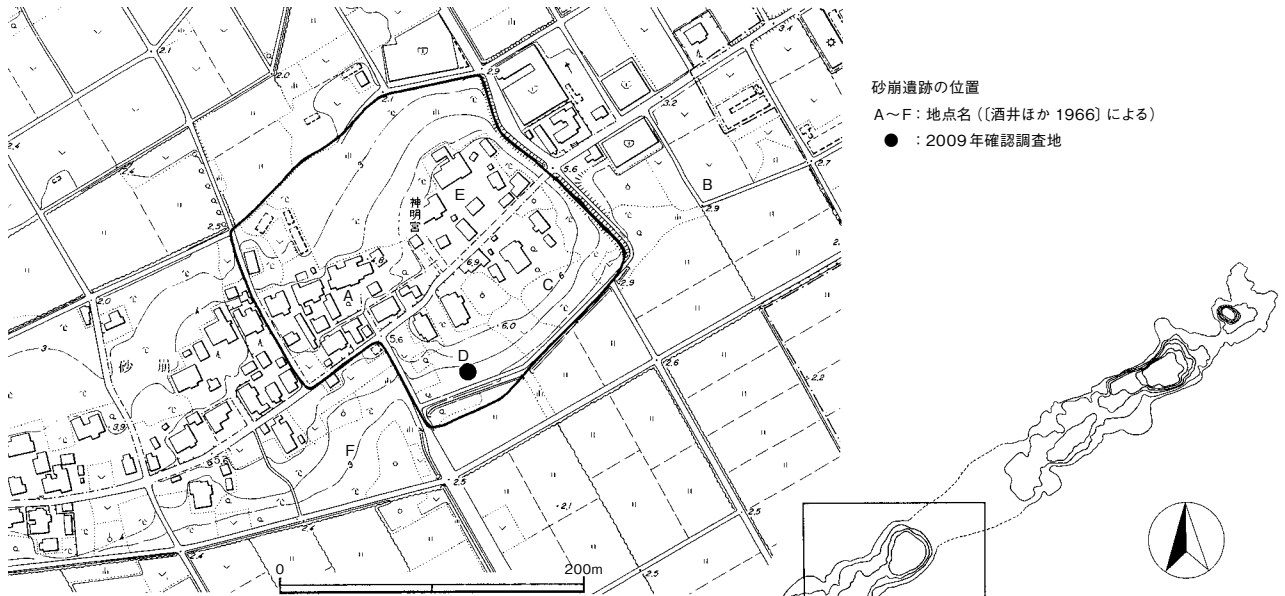


図1 砂崩遺跡の位置と周辺の主要遺跡

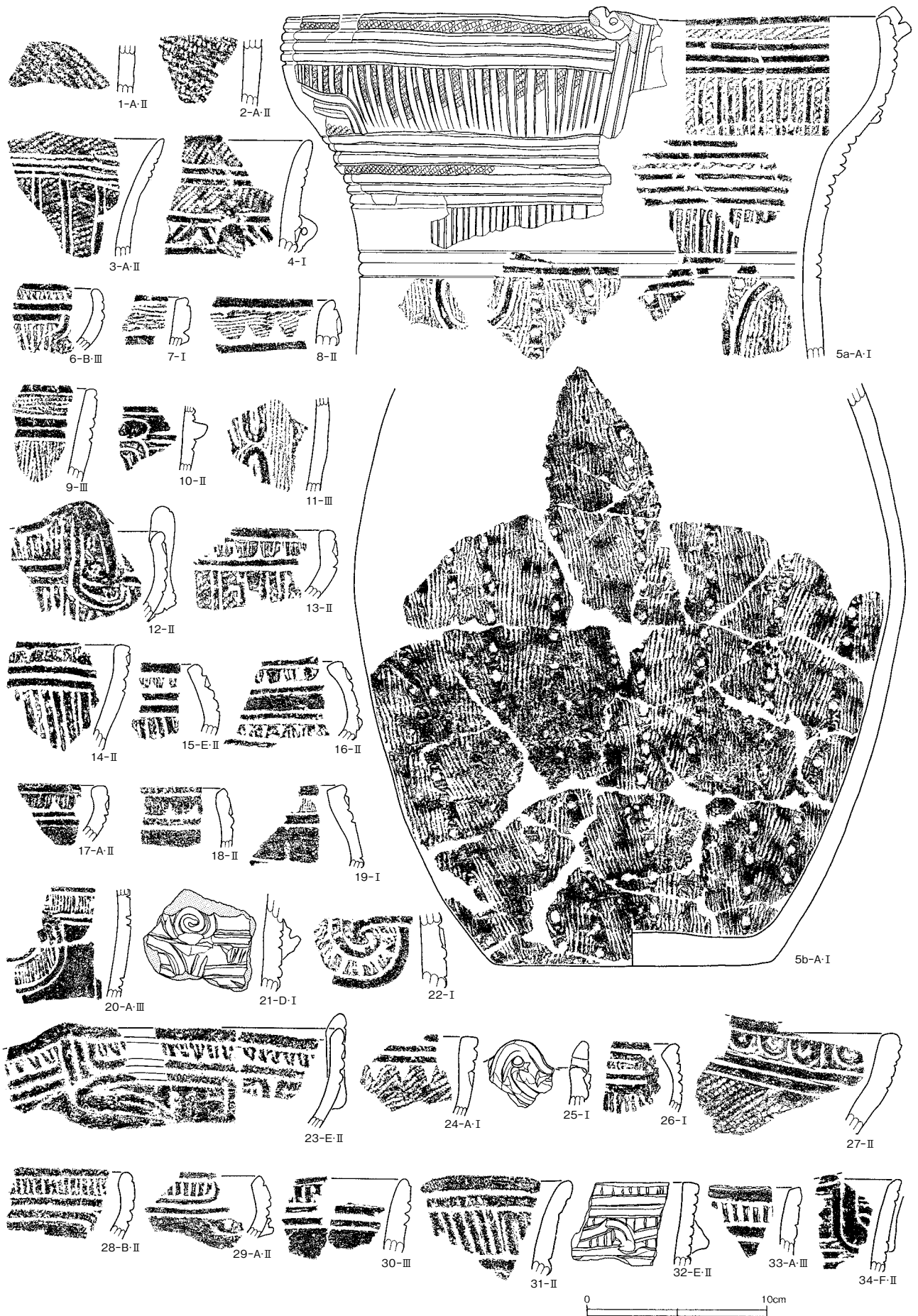


図2 砂崩遺跡採集の縄文土器（アルファベットは採集地点、ローマ数字は胎土分類を表す）

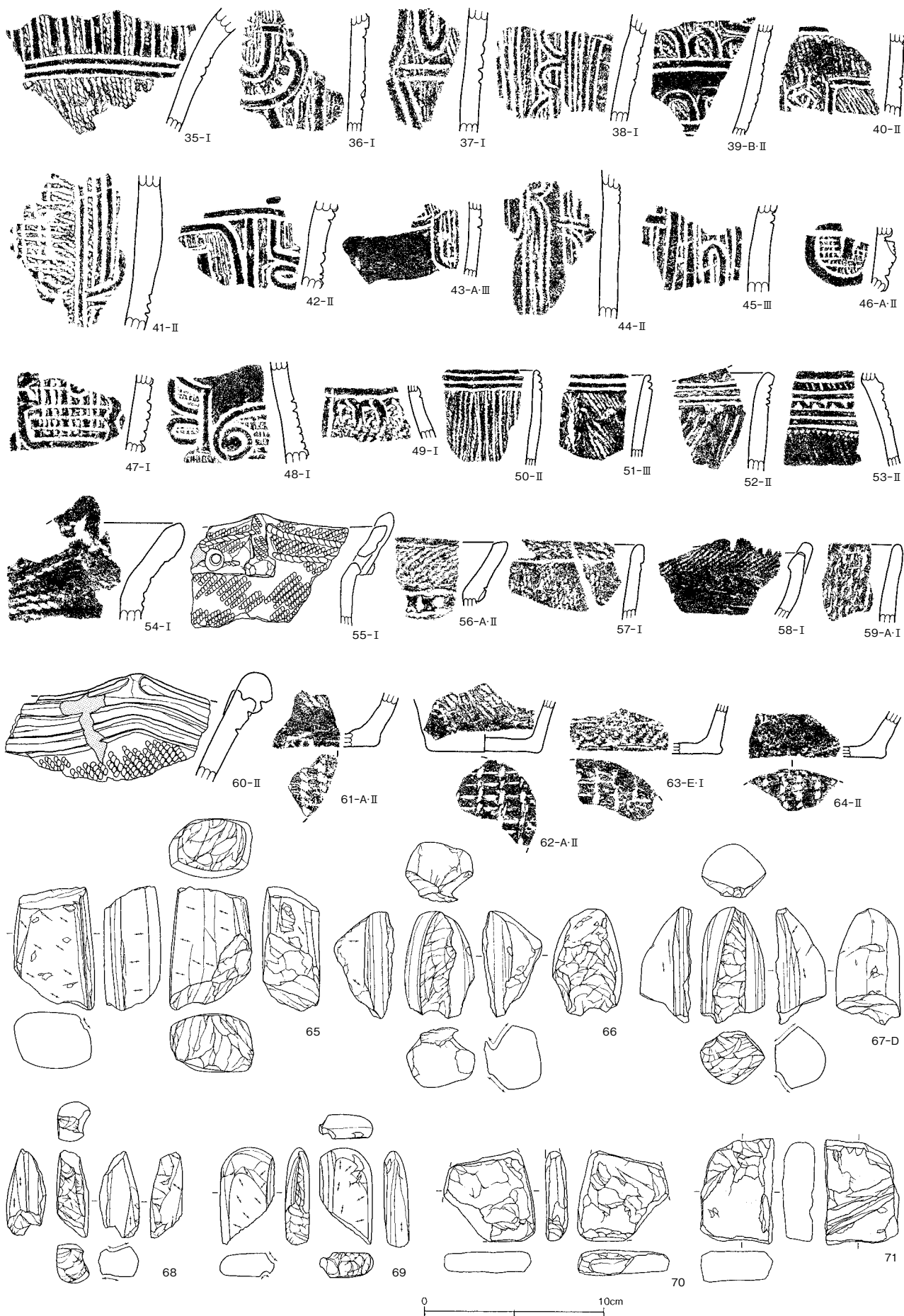


図3 砂崩遺跡採集の縄文土器と石器 (65~69の断面図矢印は施溝部を表す)

7 アスファルト精製実験について

平成21年度に行われた新潟市秋葉区大沢谷内遺跡第14次調査では、多量の板状・塊状のアスファルトが出土した。新潟市には新津丘陵を中心に産油地が多数存在し、遺跡で出土したアスファルトが人為的に精製されている可能性があるとして、平成25年度に再現実験を試みることとなった。参加したのは、岡村道雄氏をはじめとする県内外の研究者及びアスファルトに興味を持つ一般市民計12名であり、「アスファルト研究会」として実験・検証をすることとなった。

(1) 実験の経緯と仮説

大沢谷内遺跡では、土砂や不純物の混じった板状のアスファルト塊が出土したほか、あたかも加熱したアスファルトが流れ出たように付着した縄文土器深鉢や、磨石にアスファルトが付着したものが見つかった。このことから、大沢谷内遺跡出土の板状アスファルトは、「原材料をとってきて深鉢で精製し、精製した残滓が捨てられ板状に固まった」という仮説がたてられた。そこで、原材料となりそうな様々な条件の原油を採集し、加熱実験を行うこととした。

(2) 試料の収集

事前に試料の収集を行った。収集場所は、大沢谷内遺跡から近い新津丘陵沿いの原油産出地点で行った。

鎌倉新田 大沢谷内遺跡から南東にわずか1kmのところに原油の湧出地がある。湧き出た原油が沢の流れに混じり、沢のへりに付着しているほか、純度の高いアスファルト（アスファルタイト）が露頭している。ここで原油が付着した沢のへりや泥・草木に付着したアスファルト、アスファルト塊を採集した。このアスファルタイトについては、近代において人工的に作られたものだということが石油の世界館友の会によって指摘されている。

金津 金津は明治時代から機械掘削がはじまった金津油田の石油関連施設が多く残されている場所である。今回は一の沢第1露頭においてオイルサンドや原油が付着した沢のへりの土砂などを採集した。

滝谷町 平成25年4月、民家から突然原油が湧き出したとの報道があった。現地を訪ね、湧出した原油を分けていただくことにした。

大入遺跡 平成3年に発掘調査が行われた金津丘陵製鉄遺跡群の1地点である。当時の発掘担当者が、近代遺物かもしれない参考出土品として収集・保管していたアスファルト塊を使用した。

(3) 実験方法

平成25年9月6日に文化財センターにおいて精製実験

を行った。実験にあたっては、できるかぎり縄文時代の条件に近づけるため、復元土器を用いて薪による加熱を行った。砂や泥、植物が混じる試料については、加熱後分離した上面の上澄み部分のみをすくい取るという方法で行った。

(4) 実験結果

時間の制約上全ての試料を実験することができなかったが、表1に実験結果を記す。結果、鎌倉新田のアスファルタイトと、大入遺跡のアスファルトの2試料はその場で固形化したが、それ以外の試料は固形化には至らなかった。参加者から寄せられた主な問題点や課題を以下に記す。

火加減について 当初の予想では、アスファルトは加熱すれば、水と油と簡単に分離するものと考えた。しかし、火力が強くと対流がおこり、沸騰してふきこぼれたものもあった。結果、どの試料においても明確な分離現象を見ることができなかった。分離現象を見るためには、熾火程度の弱い火力で長時間温度管理しながら作業する必要がある。

純度について 実験で固形化した鎌倉新田と大入遺跡の2地点はもともと純度が高いものであった。これらの純度の高いアスファルトは、そもそもそのまま流通していたのではないかという疑問と、残滓と考えられる板状のアスファルト塊は、どの工程で生じているのかという疑問が残った。また、原油はいくら熱しても液体のままであったことから、原油を使つての精製の可能性は低いとみられるが、原油を長期間放置して揮発させるのはどうかという提案があった。

破碎について 大入遺跡の試料を加熱する際に、土器に接しているアスファルトが沸騰しているにもかかわらず、中心にある固形のアスファルトが溶けないという現象が見られた。アスファルト付着の磨石の存在があることから、このような固形のをあらかじめ粉碎して実験に臨むべきであった。

なお、この磨石の使用については、文化財センターの前山精明が、敲石によるアスファルトの打割作業を行うことで、アスファルトが粘性を帯び、塊をつくることに成功している。

(5) おわりに

今回の実験は、アスファルト精製を再現するという点では、成功とは言えなかった。しかしながら、この実験をきっかけにアスファルトの産地や精製方法について議論が深まったことや新潟の石油資源利用に長い歴史があることが知られたことは大きな成果と言えよう。

(今井さやか)

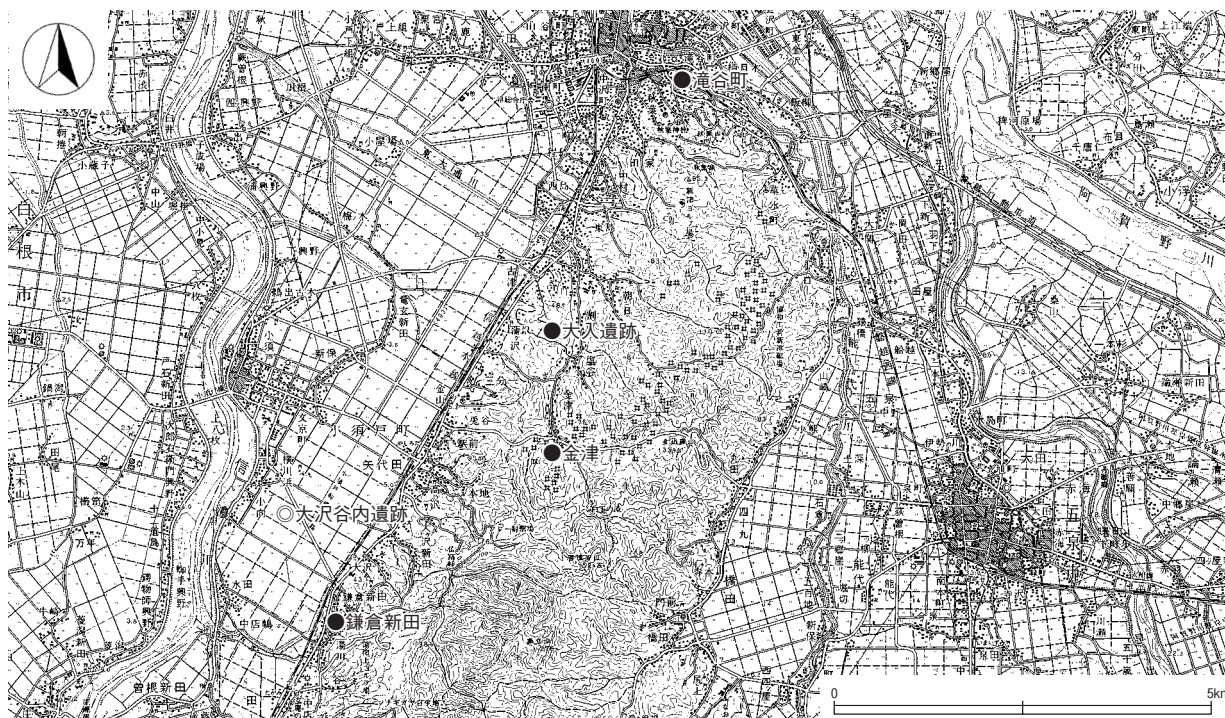
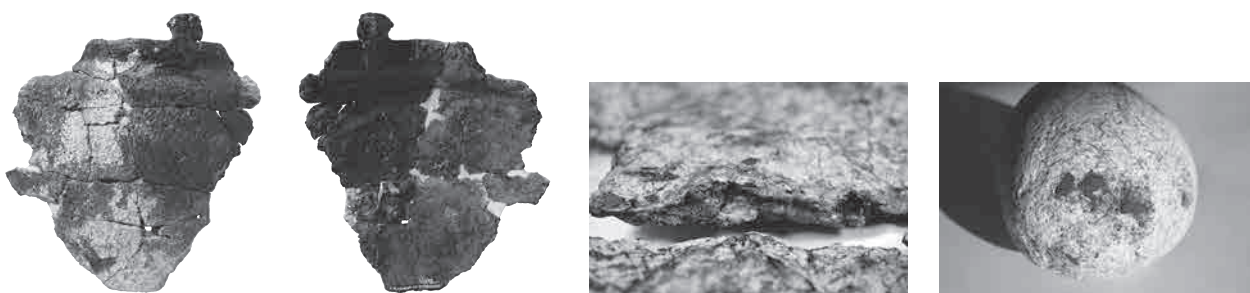


図1 大沢谷内遺跡と実験試料の採集位置図 国土地理院発行1997『新津』1/50,000→1/100,000一部改変



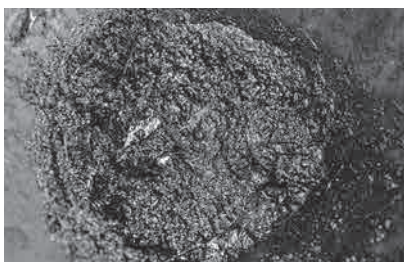
大沢谷内遺跡出土アスファルト附着深鉢（左：外面 右：内面）

大沢谷内遺跡出土板状アスファルト

アスファルト附着磨石

表1 アスファルト精製実験結果一覧

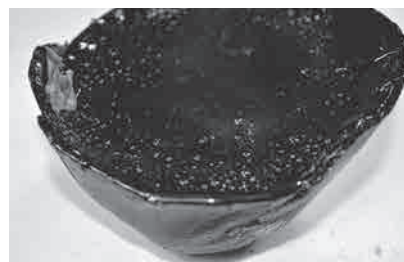
試料名	形状	固化	備考
鎌倉新田1	沢底のアスファルト混じり泥、草木	×	純良部だけすくい再加熱したが、1週間経過しても固化しなかった。
鎌倉新田2	沢のへりのアスファルト混じり土砂	×	水分が少なく、加熱しても燃されるばかりでアスファルトが溶けなかった。
鎌倉新田3	アスファルタイト	○	非常に純度が高く、冷まして固化したのもも光沢があり美しい。
滝谷町	水を多く含んだ原油	×	沸騰し、1週間放置したら、粘土のような状態になった。
大入遺跡	砂混じりのアスファルト塊	○	不純物がやや混じっているものの、しっかり固まった。



鎌倉新田1 加熱後の資料



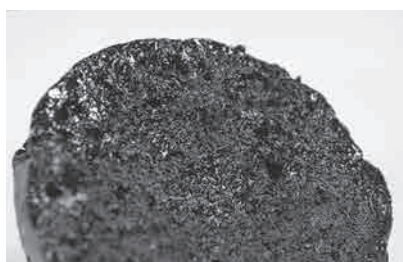
鎌倉新田2 加熱後の資料



鎌倉新田3 加熱後の資料



滝谷町 加熱後1週間した資料



大入遺跡 加熱後の資料



鎌倉新田3 アスファルトを溶かした土器内面

8 平成26年度古津八幡山遺跡における古代米及び畑作物の栽培実験について

平成25年度に引き続き、平成26年度も古津八幡山遺跡東麓にある休耕田を借用し、市民参加で古代米（黒米・赤米）と畑作物の栽培実験を行った。黒米（紫宝米）と赤米（紅染めもち）は糯米である。栽培実験にあたってはNPO法人にいがた森林の仲間の会（通称もりとも）に協力をお願いした。

(1) 復元水田

目的 弥生時代の稲作を体験するだけでなく、復元することで現代農法との生育状況や収穫量の違いを比較検討する。また、施肥せずに連作する場合の収穫量についても確認する。平成25年度同様に借地面積1,725㎡のうち古代米の作付面積は約300㎡である。

田起こし 4月27日 復元した木製鋤（平鋤・又鋤）と現在の鉄製鋤を使い比べながら作業する。畦の草取りも同時に行う。

田植え 5月18日 田植えは、岡山県百間川原尾島遺跡で検出された弥生時代後期の水田跡の調査事例になった密植と、明治時代以降に普及した正条植えを行った。密植では幅80cm間隔に2・3本ずつ、10～12株植えた。現在の田植えに比べて株の密度が非常に高く、苗の本数も現在よりも多く必要となる。苗を植えた所には入れないので後ろに下がりながら植えた。最終的に必要とした苗数は黒米・赤米とも密植では苗箱（30×60cm）換算で苗箱9枚ずつ、正条植えでは苗箱2枚ずつであった。密植では正条植えの4.5倍の苗を必要とした。

草取り 6月8日 1回目の草取りを行った。田植えから3週間で稲は膝下の高さまで伸びた。密植では株の間隔が狭いため中に入って草取りを行うことは不可能である。密植の株元には日光がとどかないため雑草があまり生えない。一方、正条植え範囲にはホテイアオイなどの雑草が一面に生えた。稲株の密度によって雑草の成長に差がある。引き抜いた草は土の中に押し込んだ。草取りは水田に入って土を攪拌するため稲の根に酸素を供給し稲の生育を促す効果があるという。1時間程で正条植え範囲約160㎡の草取りを終えた。6月22日 2回目の草取りを行った。8月8日 当初の予定にはなかったが、雑草の繁茂が著しいため、3回目の草取りを職員で行った。いずれの日も雑穀畑の草取りも行った。

生育状況 8月6日に黒米の開花を確認した。赤米は9月2日に開花を確認でき、黒米に比べて生育が1か月程度遅い。正条植えに比べ密植の株は分蘖状況ぶんけつが良くない。

収穫 9月7日（黒米）、10月12日（赤米）密植の稲穂では復元した石庖丁と木庖丁を用いて穂首刈りを体験した。正条植えでは鎌を用いて根刈りし、はさ掛けして乾燥させた。収穫量を比較するため黒米密植・黒米正条・赤米密植・赤米正条の各範囲内に3.3㎡の枠を設

定し、株ごとに番号を付けて収穫した。

脱穀・籾すり 10月12日 9月7日に収穫し、はさ掛けした黒米の稲束を千歯扱きに通して稲穂から籾を落とす脱穀作業をした。11月9日 復元した木製臼と堅杵を用いて穂首刈りした稲穂の脱穀と籾すりを行った。脱穀は穂首刈りした稲穂を臼に入れ、杵で搗く方法と、割り箸に穂を挟んで引き抜く、扱き箸を真似た方法を体験した。籾の状態となったら、さらに杵で搗いて籾殻を取り除く籾すりを行う。途中で手箕に移し、あおって籾殻を飛ばす選別作業をする。籾すりと選別作業を繰り返すときれいに籾殻を取り除くことができ、玄米の状態となる。穂首刈りした黒米の一部は、弥生の丘展示館での脱穀・籾すり体験用に保管した。これ以外の黒米と赤米は農家の方に脱穀と籾すりをお願いした。赤米は収穫後2週間乾燥させたが、籾すりの時点で水分量が21%と非常に高く、籾すり後に天日乾燥させた。

収穫量の比較 収穫時に番号を付けた稲株について正条植え20株、密植40株を無作為に抽出し、穂の本数と穂ごとの籾数・籾重量を計測した。密植についても当初正条植え同様に20株を計測したが、数値のばらつきが大きかったためサンプル株数を増やした。この計測値をもとに一反あたりの収穫量の算出を試みた。計測結果は第2表に示した。一反あたりの試算収量は、正条植え・密植とも籾数・籾重量では大差がない。稲株数をみると密植が正条植えに対して黒米で5.2倍、赤米で9.6倍となり、密植は正条植えに比して種籾を多く必要とするので効率が悪いといえる。一反あたりの試算収量は、籾重量で黒米正条459kg・黒米密植484kg、赤米正条475kg・赤米密植364kgである。

正条植えと密植を合わせた収穫量は玄米の状態では黒米53.4kg、赤米47.5kgである。前年比では黒米は7割、赤米は5割程度にとどまる。赤米は平成25年度とは異なる品種であったため単純な比較はできないが、栽培実験を始めてから一度も肥料を与えていないことが収穫量減少の要因と考えられる。

(2) 雑穀畑

目的 弥生時代の遺跡で確認されている作物について栽培し、復元することを目的に行った。エゴマ（白・黒）・ヒエ・シコクビエ・モチアワ・ウルチアワ・モチキビ・ウルチキビ・モロコシ（赤・黒）を栽培した。

種蒔き 5月8日 平成25年度は畑に直播したが、発芽しなかった。種が鳥に食べられてしまったか、発芽直後に雑草と間違えて抜いてしまったことが要因として考えられる。そこで、平成26年度は育苗ポットに種を蒔き、苗にしてから畑に植え付けることにした。種は津南町農と縄文の体験実習館なじょもん、エゴマについては五泉市川上農園からも譲り受けた。

植え付け 6月5日 エゴマは80cm間隔、その他は20cm間隔で植え付けた。雑草と間違えて除草しないよ

う苗の傍に割り箸を立てて目印とした。モロコシは苗高20cmを超えていたため添え木をした。

生育状況 エゴマは苗を畑に植え付けて数日後、ヨトウムシの被害にあい、茎が傷付けられ枯れかけてしまう。応急処置として粒状の農薬を苗の周囲に蒔いた。他の雑穀は苗を植え付けたことにより鳥害もなく平成25年度とは比較にならないくらい順調に生育した。

収穫 9月7～11月下旬 熟したものを適宜収穫した。熟す時期にばらつきがみられ、一度に収穫することができないため、収穫期間が長くなった。平成25年度は収穫に至らなかったエゴマ・シコクビエ・ウルチキビも収穫することができ、作付けしたすべての雑穀を収穫することができた。エゴマは根刈りし、その他の雑穀は穂首刈りし、乾燥させた。

脱穀 エゴマは棒で叩き、その他の雑穀は洗濯板

に擦り付けて脱穀した。脱穀したものをフルイに掛けて葉やゴミを除去し、さらに、手箕に移し細かな不純物を飛ばした。収穫した作物は、餅つきなどの各種イベントで活用するほか、黒米・赤米・エゴマの一部は、稲作体験参加者へ配布した。

(相澤裕子)

表1 市民参加人数と作業内容

年月日	市民参加人数	作業内容
2014/4/27 (日)	33名	田起こし
2014/5/8 (木)	(職員)	雑穀種蒔き
2014/5/18 (日)	41名	田植え
2014/6/3 (火)	(もりとも・職員)	雑穀畑耕作・畝作り
2014/6/5 (木)	(もりとも・職員)	雑穀苗植え付け
2014/6/8 (日)	30名	草取り、ザリガニ釣り(防除)
2014/6/22 (日)	23名	草取り、ザリガニ釣り(防除)
2014/8/8 (金)	(職員)	草取り
2014/9/7 (日)	40名	黒米稲刈り、雑穀収穫
2014/9/12 (金)～11月下旬	(職員)	雑穀収穫(エゴマ・ヒエ・シコクビエ・モチアワ・ウルチアワ・モチキビ・ウルチキビ・モロコシ)
2014/10/12 (日)	24名	赤米稲刈り、黒米脱穀
2014/11/9 (日)	29名	黒米脱穀・粉すり、試食

表2 古代米の田植え方法の違いによる収穫量の差

1 サンプルング 正条植え20株、密植40株の穂数・重量(総量)

米の種類	田植え方法	黒米 (3.3㎡≒1.8×1.8m)									赤米 (3.3㎡≒1.8×1.8m)								
		稲株数(株)			穂数(粒)			稲重量(g)			稲株数(株)			穂数(粒)			稲重量(g)		
		26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)
正条植え	20	20	100	23,149.0	32,783.0	71	522.437	784.899	67	20	20	100	29,486.0	30,805.0	96	559.978	710.276	79	
密植	40	40	100	9,284.0	11,212.0	83	211.568	272.298	78	40	40	100	3,918.0	11,471.0	34	88.982	274.443	32	

2 サンプルング 一株当たりの稲穂本数・穂数・重量(平均値)

米の種類	田植え方法	黒米									赤米								
		稲穂本数(本)			穂数(粒)			稲重量(g)			稲穂本数(本)			穂数(粒)			稲重量(g)		
		26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)
正条植え	15.7	19.7	80	1,157.5	1,639.2	71	26.122	39.245	67	27.4	20.4	134	1,474.3	1,540.3	96	27.999	35.514	79	
密植	5.1	4.5	113	232.1	280.3	83	5.289	6.807	78	3.2	5.9	55	98.0	286.8	34	2.225	6.861	32	

3 サンプルング面積(3.3㎡)当たりの穂数、重量(総量)

米の種類	田植え方法	黒米 (3.3㎡≒1.8×1.8m)									赤米 (3.3㎡≒1.8×1.8m)								
		稲株数(株)			穂数(粒)			稲重量(g)			稲株数(株)			穂数(粒)			稲重量(g)		
		26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)
正条植え	58	56	104	67,132.1	91,792.4	73	1,515.068	2,197.717	69	56	56	100	82,560.8	86,254.0	96	1,567.938	1,988.773	79	
密植	302	333	91	70,094.2	93,339.9	75	1,597.338	2,266.881	70	540	399	135	52,893.0	114,423.2	46	1,201.257	2,737.569	44	

4 一反(約1000㎡)当たりの穂数・重量の試算注)一反当たりのイネ株数・穂数・稲重量はサンプルング面積当たりのイネ株数・穂数・稲重量に303を掛けた値。1反(1000㎡)≒1坪(3.3㎡)×303

米の種類	田植え方法	黒米									赤米								
		稲株数(株)			穂数(粒)			稲重量(g)			稲株数(株)			穂数(粒)			稲重量(g)		
		26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)	26年度	25年度	前年比(%)
正条植え	17,574	16,968	104	20,341,026.3	27,813,097.2	73	459,065.656	665,908.312	69	16,968	16,968	100	25,015,922.4	26,134,962.0	96	475,085.335	602,598.158	79	
密植	91,506	100,899	91	21,238,542.6	28,281,989.7	75	483,993.535	686,864.898	70	163,620	120,897	135	16,026,579.0	34,670,237.2	46	363,980.871	829,483.384	44	



田植え(密植)



千歯扱きを使った脱穀



木製臼と豎杵を使った粉すり



エゴマの花



雑穀標本(穂)



雑穀標本(脱穀後)

引用・参考文献

- 相田泰臣ほか 2014 『史跡 古津八幡山遺跡発掘調査報告書—第15・16・17・18・19次調査—』 新潟市教育委員会
- 朝岡政康・早田 勉 2010 『三王山遺跡Ⅱ 第4・7次調査—新潟市立亀田中学校校舎・体育館改築工事に伴う三王山遺跡第2・4次発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 池田 亨 1999 『宮林経塚（七ツ塚）発掘調査報告書』 湯沢町教育委員会
- 尾崎高宏 2001 『正尺A遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野 昭ほか 1989 「巻町豊原遺跡の調査」『巻町史研究』Ⅳ 巻町
- 春日真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 高志書院
- 加藤 学 2011 「新潟市正尺C遺跡出土の縄文施文土器—天王山系土器の下限を探る—」『研究紀要』第6号 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金田拓也 2014 「（4）日本水遺跡 第5次調査（2012159）」『新潟市文化財センター年報—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—』第1号 新潟市文化財センター
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡 発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 酒井和男 1987 「前山遺跡」『新潟市文化財調査報告書 大江山地区の遺跡』 新潟市教育委員会
- 酒井和男ほか 1966 「亀田町周辺の遺跡調査について」『明窓』第4号 新潟県立新潟東工業高等学校生徒会
- 佐野 宏ほか 1988 『亀田の歴史 通史編』上巻 亀田町
- 鶴巻康志ほか 1997 『新発田城跡発掘調査報告書Ⅱ（第7～10地点）』 新発田市教育委員会
- 関 雅之ほか 1988 『豊栄市史』資料編1 考古編 豊栄市
- 高橋 保 1999 「縄文土器 第4項 中期」『新潟県の考古学』 高志書院
- 滝沢規朗 2005 「趣旨説明・県内発表要旨 土器の分類と変遷」『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳時代の出現（第1分冊）』 新潟県考古学会
- 滝沢規朗 2014 「続縄文土器と土師器の共伴事例から見た併行関係—越後の事例を中心に—」『発表要旨資料 古墳築造周縁域における古墳時代前・中期の社会と地域間関係』 東北・関東前方後円墳研究会
- 立木宏明・相澤（高野）裕子ほか 2014 『細池寺道上遺跡Ⅲ 第26次調査—県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第12次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 寺崎裕助ほか 2014 『日本海に沈んだ陶磁器—新潟県内海揚がり品の実態調査—』 新潟県海揚がり陶磁器研究会
- 土橋由理子 2006 「第V章7 まとめ」『馬見坂遺跡・正尺A遺跡・正尺C遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2006 『馬見坂遺跡・正尺A遺跡・正尺C遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 長津宗重・長友良典 1995 『下別府一字一石経塚 県道島ノ内一の宮線（新別府通線）改良工事に伴う発掘調査報告書』 宮崎県教育委員会
- 新潟市 2007 『新潟市の遺跡』新新潟歴史双書2 新潟市
- 新潟市文化財センター 2014 『シンポジウム蒲原平野の王墓 古津八幡山古墳を考える—1600年の時を越えて— 記録集』 新潟市文化財センター
- 廣野耕造 2000 『新潟市前田遺跡 県営かんがい排水事業に伴う発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 藤塚 明 1989 「前田遺跡」『1988年度埋蔵文化財発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 前山精明 1999 「第3章 弥生時代・古墳時代 第2節 土器 第4項 続縄文」『新潟県の考古学』 高志書院
- 前山精明 2002 「Ⅲ 結語」『南赤坂遺跡—縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査』 巻町教育委員会
- 前山精明 2009 「豊原遺跡Ⅵ群3類土器再考」『新潟県の考古学Ⅱ』 新潟県考古学会
- 前山精明 2014 「（3）秋葉遺跡 第9・10次調査（2011131・2012110・2012115）」『新潟市文化財センター年報—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—』第1号 新潟市文化財センター
- 前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡—縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査』 巻町教育委員会
- 水澤幸一 2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 水野正好ほか 1985 『大河原1字1石経塚発掘調査報告書』 奈良大学考古学研究室
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- 渡邊朋和・高野裕子ほか 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書—第11・12・13・14次調査—』 新潟市教育委員会
- 渡邊寶陽ほか 2013 『法華経の事典』 東京堂出版
- 渡邊ますみ 2014 「（6）近世新潟町跡試掘・確認調査」『新潟市文化財センター年報—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊ますみ・奈良貴史 2012 『四十石遺跡 第2次調査』 新潟市教育委員会

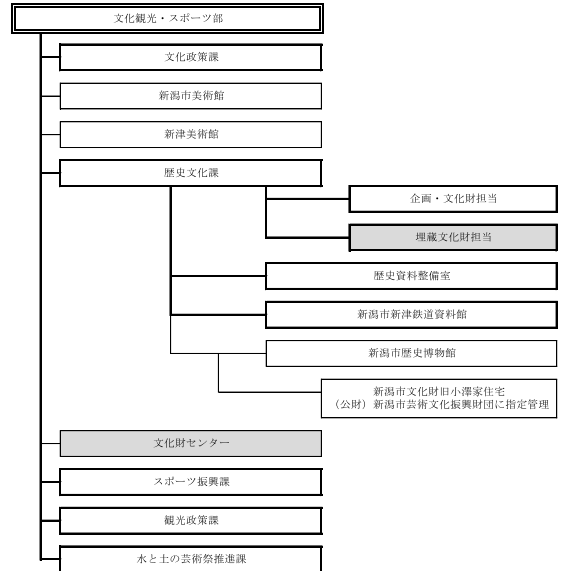
平成25年度刊行発掘調査報告書一覧

書名	副書名	発行年月日	執筆者
峰岡城山遺跡 第2次調査	城山屋内体育施設造成工事に伴う峰岡城山遺跡第2次発掘調査報告書	平成25年6月28日	立木宏明ほか
日水遺跡Ⅱ 第6次調査	市道亀田300号線道路改良工事に伴う日水遺跡第2次発掘調査報告書	平成25年6月28日	立木宏明ほか
細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査	県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第11次発掘調査報告書	平成26年1月31日	潮田憲幸
沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査	県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書	平成26年2月27日	遠藤恭雄ほか
史跡 古津八幡山遺跡発掘調査報告書—第15・16・17・18・19次調査—		平成26年3月30日	相田泰臣ほか

平成25年度文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長	中野俊一	統括
所長補佐	丸山徳幸	事務
主任（学芸員）	渡邊朋和	埋蔵文化財
主任（学芸員）	遠藤恭雄	埋蔵文化財
主任	本間敏則	事務
副主幹（学芸員）	前山精明	埋蔵文化財
主査（学芸員）	立木宏明	埋蔵文化財
主査	上田俊哉	事務
主査（文化財専門員）	今井さやか	埋蔵文化財
主査（学芸員）	相田泰臣	埋蔵文化財
主査（学芸員）	潮田憲幸（宮城県へ派遣）	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	龍田優子	埋蔵文化財
吏員（文化財専門員）	相澤裕子	埋蔵文化財
吏員（文化財専門員）	金田拓也	埋蔵文化財
非常勤職員	酒井和男	民俗文化財
非常勤職員	八藤後智人	埋蔵文化財
非常勤職員	澤野慶子	埋蔵文化財
非常勤職員	寺崎裕助	埋蔵文化財
非常勤職員	磯部保衛	埋蔵文化財
非常勤職員	土佐夕美子	事務
非常勤職員	牧野耕作	埋蔵文化財

歴史文化課埋蔵文化財担当		
主査（文化財専門員）	廣野耕造	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	諫山えりか	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	朝岡政康	埋蔵文化財
非常勤職員	真田 敦	事務



※一部省略

※平成25年度より企画・文化財係及び埋蔵文化財係は、企画・文化財担当及び埋蔵文化財担当に改変。
平成26年度より文化観光・スポーツ部は、文化スポーツ部に改変。

文化観光・スポーツ部の組織機構図（平成25年度）



佐渡近海発見の弥生土器

海揚がりの須恵器

新潟市文化財センター年報 第2号
—平成25（2013）年度版—

2015年3月28日 印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
電話 025-378-0480

印刷 株式会社ウィザップ
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1-25